

20 ヨコハマ
トリエンナーレ
20 AFTERGLOW
光の破片をつかまえる

記録集



20 ヨコハマ
トリエンナーレ
20 AFTERGLOW
光の破片をつかまえる

記録集

横浜トリエンナーレとは

概要

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度開催する現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。

2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。

第1回(2001年)から第3回(2008年)までは独立行政法人国際交流基金が主催団体のひとつとして事務局機能を担い、現代アートを通じて日本と各国との文化交流を促すことを目的に事業を実施してきました。

第4回(2011年)以降、運営の主体を横浜市に移した後も、文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、多数の来場者を迎えています。

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

目標

・アートでひらく

ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を越えた理解を促進します。

・世界とつながる

ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。

・まちにひろがる

文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

行動指針

世界水準／次世代育成／社会包摂／市民参加／祝祭性／賑わいづくりと経済活性化

ごあいさつ

2001年に始まった横浜トリエンナーレは、ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」をもって20年の節目を迎えました。

20年の歴史において、横浜トリエンナーレは、アメリカ同時多発テロ事件の不安の中で開催が続行された第1回(2001年)、東日本大震災後の混乱の中で準備が進められた第4回(2011年)のように、いくつもの歴史的な出来事に直面してきました。そして今回もまた、2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を様々な局面で被ることになりました。

渡航が制限される中、海外在住のアーティストック・ディレクター、ラクス・メディア・コレクティブをはじめ作家たちも来日できないまま、オンラインによるコミュニケーションを活用した展示作業が進められました。感染防止対策のため、開幕は当初予定より2週間遅らせることとなりましたが、7月17日、世界の国際展の先頭を切って、ヨコハマトリエンナーレ2020は無事オープンしました。10月11日の閉幕までに、関連プログラムを含めると15万4千人の方にご観覧いただくことができました。

また、多くのイベントやサポーターによるガイド活動などを急遽オンラインに変更せざるをえなかった今回の経験は、今後美術展においていかにインターネットを活用するか、という問題を考えるための貴重な機会ともなりました。

この冊子は、準備から開幕にいたるまでの過程、展覧会およびその運営に関する内容、様々な実施された取組など、多面的な事業の詳細を記録するものです。歴史的な事態に翻弄されながら、各地で新しい国際展の形が模索されているいま、文化芸術に携わる方々に少しでも有益な情報をお届けする内容であれば、と願っています。

最後になりましたが、ご出品いただいた作家の皆様、ご所蔵家の皆様に厚くお礼を申し上げます。また、ご支援をいただいた文化庁、ご後援、ご協賛、ご協力、ご助成、アーティスト支援をいただいた関係者の皆様、そして困難な状況下に本展を支えてくださった横浜トリエンナーレサポーターの皆様に、深く感謝の意を表します。

今後とも横浜トリエンナーレへのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

横浜市

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

NHK

朝日新聞社

横浜トリエンナーレ組織委員会

ごあいさつ

2020年10月、ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」は3か月の会期を無事に終え、閉幕しました。素晴らしい作品を生み出してくださったアーティストの皆様、そして、アーティストック・ディレクターのラクス・メディア・コレクティブ様に、深く感謝申し上げます。また、文化庁をはじめ、協賛・協力企業各社様、市民サポーターの皆様、御一緒に主催いただいた皆様、お力添えを頂戴したすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

このたびの横浜トリエンナーレは、コロナ禍において、イベントの延期や中止が相次ぐ中、世界のビエンナーレ、トリエンナーレに先駆けて開催いたしました。私たちの心を癒し、輝きや希望を与えてくれるアートの力を信じ、横浜から多くの皆様に明るい気持ちをお届けしたい。世界中のアーティスト、芸術家の皆様に、今こそ感謝の気持ちと勇気をお届けしたい。そうした思いからの決断でした。来場者は、想定を上回る15万4千人にのぼり、私は改めて、文化芸術が多くの方に必要とされていることを実感しました。

今回、万全の感染症対策を講じつつ、あらゆる方にトリエンナーレを楽しんでいただけるよう、ICTを活用した新たな取組にもチャレンジしました。オンライン上で展覧会を鑑賞できるバーチャルツアーサイトの公開や分身ロボットを活用した鑑賞会は、今後の新しい鑑賞スタイルとしても、大きな可能性を持つものです。また、BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンターとの連携をはじめ、市内企業や芸術団体の皆様と御一緒に、みなとみらい線各駅やその周辺を会場としたアートプログラム「Creative Railway」を展開し、数々の作品と横浜の街をお楽しみいただきました。

文化芸術は、人々の心に、そして社会に、精神的な豊かさや潤いをもたらす、かけがえのない価値を持つものです。横浜は、文化芸術創造都市として、文化芸術の持つ力を信じ、まちづくりを進めてきた都市です。ダンスや音楽、そして現代アートと、特色ある芸術フェスティバルの開催を積み重ねてきた経験を活かし、今後も皆様と手を携え、文化芸術と横浜の魅力を、世界に向けて発信していきます。

横浜トリエンナーレ組織委員会 名誉会長代表
横浜市長
林 文子



ヨコハマトリエンナーレ2020がむすんだ人、社会、時代

開幕を2週間遅らせたものの、ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」を無事に閉幕できたことを喜ばしく思います。

世界が新型コロナウイルスの不安に覆われ、世界各国との行き来が困難な状況にもかかわらず、事前調査の下で議論と対話を絶やさず、ヨコハマトリエンナーレ2020の準備に全力投球してくれたアーティストック・ディレクター、ラクス・メディア・コレクティブに心からの感謝を申し上げます。彼らと参加作家たちの協力を得て、素晴らしい作品の数々を横浜の地に実現することができました。それらの作品は、熱意と創造性に満ち、鑑賞者のみならず、本展の運営に悪戦苦闘する私たちを力づけるものでした。また、ヨコハマトリエンナーレ2020の開催を心待ちにしながらも来場できない多くの方々にも、オンラインイベントやバーチャルツアーを通じて、最先端の表現を発信する作品の魅力が届いたことでしょう。

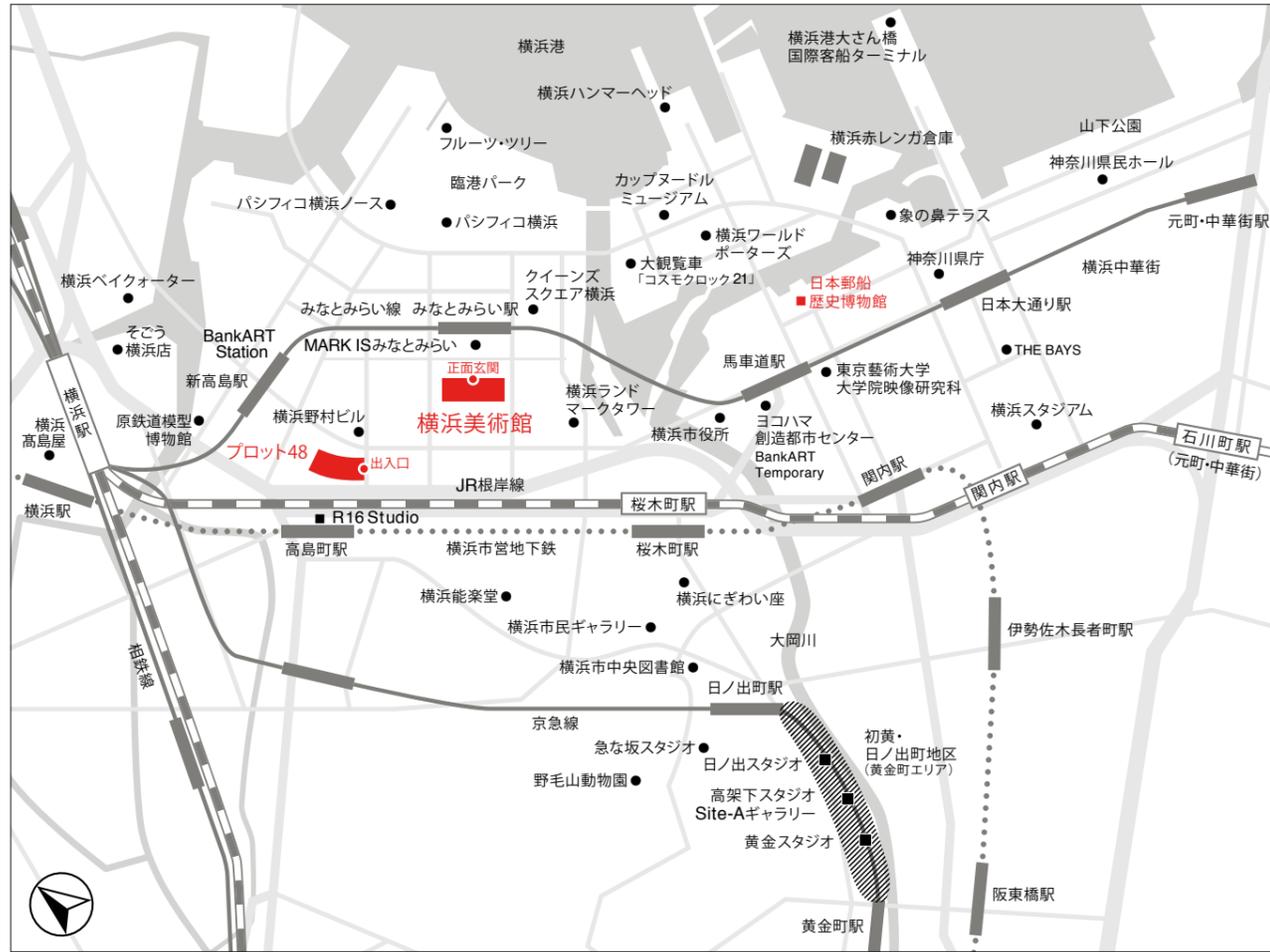
新型コロナウイルスの出現は、グローバリゼーション、環境、人と人とのつながりや分断について改めて考えさせられるものでしたが、本展の作品の中に、ウイルスとの共存のヒントを見つけた人もいたに違いありません。横浜トリエンナーレが、これまでもそうであったように、これからも様々な課題に立ち向かいながら、現代美術を通して人と社会と時代をむすび、出会いの場・思考の場となることを願っています。

ヨコハマトリエンナーレ2020の記録を振り返りつつ、本展の実現にあたりご支援くださった皆様に厚くお礼を申し上げます。そして、世界から注目を浴びる歴史ある国際展に成長した横浜トリエンナーレは、すでに次回展へ向けた歩みを始めています。横浜トリエンナーレがこれからも多くの方々に親しまれ、持続していただけるよう、引き続きご協力をお願い申し上げます。

横浜トリエンナーレ組織委員会 委員長
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事長
近藤誠一



会場周辺地図



2021年3月現在

開催概要

ヨコハマトリエンナーレ 2020 「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

アーティストック・ディレクター

ラクス・メディア・コレクティブ
(ジーベシュ・バグチ、モニカ・ナルラ、シュッダプラタ・セーングプタ)

会期

2020年7月17日(金)～10月11日(日)

開場日数：78日間

休場日：毎週木曜日(7月23日、8月13日、10月8日を除く)

開場時間

10:00-18:00

※10月2日(金)、10月3日(土)、10月8日(木)、10月9日(金)、10月10日(土)は21:00まで、10月11日(日)は20:00まで開場(最終入場は閉場時間の30分前)

会場

横浜美術館 横浜市西区みなとみらい3-4-1

プロット48 横浜市西区みなとみらい4-3-1

(みなとみらい21中央地区48街区)

[展示協力：日本郵船歴史博物館 横浜市中区海岸通3-9]

参加作家

69組

主催

横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、

NHK、朝日新聞社、

横浜トリエンナーレ組織委員会

支援

文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)

特別協力

独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構

後援

外務省、神奈川県、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

協賛

日産自動車株式会社、株式会社野村総合研究所、
三井不動産グループ、三菱地所グループ、
株式会社JVCケンウッド、スターツグループ、大日本印刷株式会社、
株式会社高島屋 横浜店、森ビル株式会社、株式会社横浜銀行、
上野トランステック株式会社、NTT東日本、株式会社大林組、
川本工業株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、
株式会社サカタのタネ、東レ株式会社、NEC、原鉄道模型博物館、
横浜信用金庫、株式会社ルミネ ニュウマン横浜店

協力

株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、
第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館、Peatix Japan 株式会社、
富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、
株式会社横浜都市みらい

助成

財団法人国家文化芸術基金会、モンドリアン財団、
公益財団法人大林財団、公益財団法人吉野石膏美術振興財団、
ifa (Institut für Auslandsbeziehungen)、
在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、
Acción Cultural Española (AC/E)、スペイン大使館、
オーストリア文化フォーラム

アーティスト支援

オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツ、
台北駐日経済文化代表処台湾文化センター、仁川文化財団

認証

beyond2020プログラム

目次

横浜トリエンナーレとは	2
ごあいさつ	3
開催概要	7
「変わりゆく世界のただ中で」蔵屋美香	9
「世界は変わり、誰もが大切な存在になった」 ラクス・メディア・コレクティブ	10
01 ヨコハマトリエンナーレ2020のあゆみ	11
「独学者たちのヨコハマトリエンナーレ——企画準備ノート」 木村絵理子	13
02 展覧会記録	14
03 新型コロナウイルス感染症対策	43
04 来場者サービス	46
05 次世代育成	47
06 社会包摂	48
07 横浜トリエンナーレサポーター	49
08 各種連携事業	53
09 広報・プロモーション	64
10 来場者データ	71
11 経済波及効果とパブリシティ効果	74
12 収支報告	75
過去展一覧	76
組織体制	78
クレジット	79

凡例

1. 事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」（横浜＝漢字表記）、第7回展の名称は「ヨコハマトリエンナーレ2020」（ヨコハマ＝カタカナ表記）となる。
2. 作家・作品データ、また組織・団体・機関名および所属、肩書きは、ページ内に記載がない場合は2020年10月11日現在のものである。
3. 開催年に実施したものは、日付表記の年号（2020年）を省略した。
4. ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」の略称として、一部表記を「ヨコハマトリエンナーレ2020」とした。
5. 「ラクス・メディア・コレクティブ」の略称として、一部表記を「ラクス」とした。
6. 「アーティストック・ディレクター」の略称として、一部表記を「AD」とした。
7. 「新型コロナウイルス感染症」の略称として、一部表記を「新型コロナ」とした。
8. 写真図版のうち、撮影者の記載のないもので、「展覧会記録」の頁（P. 21-39）の撮影クレジットと、「第1回—第7回横浜トリエンナーレ」の頁（P. 76-77）の作品および撮影クレジットについては、クレジットの頁（P. 79）に記載。「各種連携事業」（P. 53-63）の図版については、各団体や個人により提供されたものを含む。それ以外は、横浜トリエンナーレ組織委員会、もしくは横浜美術館のスタッフによって撮影された。

変わりゆく世界のただ中で

今回のヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」は、もともといくつもの挑戦を含んで計画されました。

まず、初めて海外からアーティストック・ディレクターを迎えました。インド出身の男性二人、女性一人による三人組、ラクス・メディア・コレクティブ（ラクス）です。日本における国際展のディレクターの多くを日本人男性が務めることに対する、問いかけの意味もあつての選定でした。

ラクスのキュレーション手法もまた、さまざまな観点から従来の国際展の慣例を問い直すものでした。たとえば、通常こうした国際展はディレクターが大きな決定権を持ちます。しかしラクスは、考えの種となるエッセイを事前に共有し、ここから「発光」「独学」「友情」「ケア」「毒性」の5つのキーワードを導き出して、これらにつき参加作家も観客もともに考えを深めようと呼びかけました。

また、展示のみに重きを置くことにも異を唱え、会期前に始まり、展覧会終了後も続く、「エピソード」と称するもう一つの軸を設けました。これは、パフォーマンスやオンライン・イベント、ラクス以外のキュレーターによる展覧会内展覧会などを含む多様な企画群を指します。

こうして集まったのは、大半がアジア、中東、アフリカなどに出自を、または拠点を持つ69組の作家たちでした。そこには、19世紀以来欧米を中心に作られてきた美術の歴史を相対化しようとするラクスの意志がうかがわれます。

さらに、作品の多くは宇宙や素粒子、DNA、毒を持つ植物など、人間と人間ではないものとの関係を問うというテーマを持っていました。キーワードの一つ「毒性」もこうしたテーマの中で展開され、まるで新型コロナウイルスと共存せざるを得ないわたしたちのくらしを予言するようだ、と話題を呼びました。

つまり彼らは、キュレーターの特権、展示の偏重、欧米中心史観、人間中心主義といったものを、「これまで中心とされてきたものを問い直す」という姿勢によって一つひとつ解きほぐそうとしたのです。

こうしていくつもの変化を呼び込むためのアイデアを擁して準備が進められたヨコハマトリエンナーレ2020は、さらに会期もせまった2020年初頭、新型コロナウイルス感染症拡大という世界的な変動のただ中に投げ込まれることになりました。アーティストック・ディレクターや作家の招聘もままならず、輸送や展示の計画も見直しを迫られ、さまざまな取組が急遽オンライン上での実施となりました。

激流を下る筏のようだったこの催しの記録は、未来の国際展に対するたくさんの示唆を含むものと信じています。最後まで実施を支えてくださったすべての皆様、そしてご覧くださったすべての観客の皆様に、こころよりお礼を申し上げます。

横浜トリエンナーレ組織委員会 副委員長

横浜美術館 館長

蔵屋美香

世界は変わり、誰もが大切な存在になった

この文章を書いている傍ら、世界では、公的な（そして私的な）倫理観についての議論が白熱しています。このような時代であって、わたしたちの羅針盤はどんな未来を指し示しているのでしょうか。公平性にも微妙な差異が存在するという前提に立ち、平等という概念を創造的に捉え直そうと決断するのか、それともこれまで通りに、文化的に優位な考えや慣習、しきたりを守るだけなのか。

ヨコハマトリエンナーレ2020は、様々な意味で、世界の中でわたしたちが相互に依存していることを明らかにして、複雑なニュアンスをもったわたしたちの基本的な性質のようなものを理解し、考える場だったとも言えます。ヨコハマトリエンナーレ2020をこうした問いについて考える機会と捉え、大勢のプロタゴニスト(主人公)たちとともに多声的な答えを思い描く旅に出ました。その途上で「トリエンナーレ」というものが、世界とつながり、終わりのない討議を続けていくために、きわめて重要な場であることを再確認することができました。わたしたちとの関わりを通して、横浜のみなさんにこの感覚は届いたでしょうか。みなさんにもぜひこの感覚を持ち続けてほしいと願っています。

さようなら。また2023年にお目にかかりましょう。次回は、客人として対話に加わることができれば幸いです。

2020年10月11日

ヨコハマトリエンナーレ2020

アーティストティック・ディレクター

ラクス・メディア・コレクティブ



ラクス・メディア・コレクティブ Raqs Media Collective

ニューデリーを拠点に活動するアーティスト集団。ジーベシュ・バグチ (Jeebesh Bagchi, 1965年生)、モニカ・ナルラ (Monica Narula, 1969年生)、シュッダブラタ・セーングプタ (Shuddhabrata Sengupta, 1968年生) の3名により1992年に結成された。

写真左から シュッダブラタ・セーングプタ、
ジーベシュ・バグチ、モニカ・ナルラ

撮影：加藤 甫

01. ヨコハマトリエンナーレ2020のあゆみ

【開催年表】 (太字は主な出来事、青字は社会の動き)

- 2018**
- 3月27日・横浜トリエンナーレ組織委員会第20回総会 (横浜トリエンナーレの基本的な考え方/第7回横浜トリエンナーレ [第7回展] 会期・会場)
 - 5月・第7回展アーティストック・ディレクター (AD) 選考開始。推薦委員より候補者21組の推薦を受ける
 - 6月26日・第7回展AD選考委員会一次審査会、書類選考で4組へ絞り込み
 - 8月21、24日・第7回展AD選考委員会二次審査会 (於横浜美術館)、候補者4組のプレゼンテーション、面談の上、ラクスを第一候補に最終候補者決定
 - 10月14-17日・ラクス来日 (契約協議、会場候補・市内視察、展覧会の方向性等)
 - 11月26日・第21回総会 (AD承認/今後のスケジュール)
 - 11月29日・AD決定を記者発表
 - 12月・ラクス海外調査開始 (トルコ)
- 2019**
- 2月2日・「ヨコハマアートラリー アートと笑いの境界線」開催 (出演：しりあがり寿、会田誠、ジャルジャル、千原徹也、倉本美津留、他)
・オーディエンス・リサーチ開始 (~3月31日)
 - 2月19-27日・ラクス来日 (作家面談：新井卓、岩井優、岩間朝子、竹川宣彰 [刷音] / 市内・都内調査/オーディエンス・リサーチ等*作家面談については、以降初回のみ記載)
・海外在住作家とのオンライン打合せ開始
 - 2月20日・美術館と国際展を巡る連続講座第2回「国際展をキュレーションすること」(主催：横浜美術館)にラクス登壇
 - 3月・ラクス海外調査 (カタール)
・「エピソード」の名称が定まる
 - 3月6日・第22回総会 (第7回展会期・会場/第22期 [平成31年度] 事業計画及び予算案)
 - 5月・ラクス海外調査 (ギリシャ、フィリピン、アラブ首長国連邦[UAE]、カタール)、
・キュレトリアル・チーム海外調査 (ギリシャ、イタリア、カタール、UAE)
 - 6月・ラクス海外調査 (オーストラリア)
 - 6月21日-7月2日・ラクス来日 (作家面談：田村友一郎、飯山由貴/作家来日：イヴァナ・フランケ、アントン・ヴィドクル/京大阪調査：新宅加奈子、金氏徹平、
ジェン・ポー、アントン・ヴィドクル/エピソード検討等)
 - 7月・ラクス海外調査 (フランス、イタリア)
・作家による会場視察等開始
 - 7月2日・会期・会場決定を記者発表 (2020年7月3日~10月11日・横浜美術館、プロット48)
 - 7月12日-16日・ラクス来日 (エピソード検討等)
・複数候補の面談 (対面、オンライン) を経て、アリアナ・スパニエをデザイナーに決定
 - 7月13日・国際シンポジウム2019「エキシビション・メイキング」/響きあうアジア2019にラクス (ジーベシュ・バグチ) 登壇
(主催：国際交流基金アジアセンター/会場：東京芸術劇場ギャラリー1)
 - 8月・ラクスよりタイトル案「AFTERGLOW」が提示される
・キュレトリアル・チーム海外調査 (英国)
 - 10月・ラクス海外調査 (英国、フランス)
 - 10月29日-11月5日・ラクス来日 (作家面談：青野文昭/市内・都内・仙台調査：竹村京、さとうりさ、エレナ・ノックス/展示レイアウト検討)
・複数候補の面談を経て、空間構成担当をMMA Inc. 工藤桃子に決定
 - 11月・ラクス海外調査 (台湾、韓国)
 - 11月26日-12月5日・ラクス来日 (エピソード00/展示レイアウト/会場内テキスト等)
・作家来日 (イシャム・ベラダ、イヴァナ・フランケ、ミシェル・ウォン、カペロ・マラツィ)、作家滞在制作 (ランティアン・シェ、2020年2月まで)
 - 11月29日・ソースブック発行、エピソード00プレスレビュー開催 (於プロット48)
・ヨコハマトリエンナーレ2020特設WEBサイトオープン/タイトル、コンセプト、第1弾参加作家を記者発表
 - 11月30日・エピソード00開催
 - 12月2日・ラクス、林文子 横浜トリエンナーレ組織委員会名誉会長代表 (横浜市長) と面会
 - 12月4日・ガイドサポーター募集開始
- 2020**
- 1月・作家来日 (ファーミング・アーキテクト)
 - 1月16日 ――― 日本国内で新型コロナウイルス感染者を確認
 - 1月16-20日・ラクス来日 (展示レイアウト/4月に発表する参加作家65組67名の決定)
 - 1月25日 ――― 香港特別行政区政府が感染症の警戒レベルを「緊急」へ引き上げ
 - 2月・作家来日 (ナイーム・モハイエメン)、作家滞在制作 (メイク・オア・ブレイク)
 - 2月3日 ――― ダイヤモンド・プリンセス号横浜港入港
 - 2月10日・3月に香港で開催予定だったエピソード01の延期を決定 (10月閉幕後に実施)
 - 2月11日 ――― 世界保健機関 (WHO) が新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」と定める
 - 2月27日・ホスピタリティサポーター募集開始 (のちに活動中止)
 - 2月29日・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、横浜美術館臨時休館 (7月16日まで継続)
 - 3月11日 ――― WHOがパンデミック宣言
 - 3月21日 ――― 日本への入国制限開始
 - 3月25日・第23回総会 (第7回展開催概要/予算案)
 - 3月25日 ――― インド全土の都市封鎖 (6月8日以降、段階的に解除) により、AD来日の見通し不透明に
 - 3月30日 ――― 東京2020オリンピック競技大会を2021年に延期することが決定

3月31日 ・逢坂恵理子が横浜美術館館長退任（横浜トリエンナーレ組織委員会副委員長継続）
4月1日 ・蔵屋美香が横浜美術館館長、横浜トリエンナーレ組織委員会副委員長に就任
4月7日 ————— 日本政府による緊急事態宣言発出（神奈川県を含む7都府県）
4月 ・サポーター研修をオンライン動画配信により実施 <ul style="list-style-type: none">感染症拡大下での開催条件及び運営方法の見直しについて内部協議開始。海外在住の参加作家と、現場制作回避のための作品プラン変更や、輸送時期前倒し等の協議開始。プロット48での作家による現場制作開始（さとうりさ、エレナ・ノックス）
4月13日 ・ 参加作家65組 （67名）を ニュースレター配信と特設WEBサイトで発表
4月24日 ・レセプション開催中止と内覧会の人数制限実施を副委員長決定
5月上旬 ・船便による海外からの作品輸送開始 <ul style="list-style-type: none">ADや海外作家が来日できない場合の作品展示や会場設営の実施体制について検討開始
5月中旬 ・プロット48施工開始（空間あたりの作業員人数の制限、検温・消毒を実施）、メッセージャーや会議アプリを用いたADとの現場確認作業開始 <ul style="list-style-type: none">海外の作品集荷開始（航空輸送遅滞）
5月14日 —————（公財）日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（博物館協会ガイドライン）制定
5月下旬 ・展示会場の感染症対策に関する協議、一部展示プランの変更（ヘッドフォン使用作品の一部展示変更、暗幕削減による接触箇所削減と通気確保等）、プロット48作品展示作業開始（作家立会：飯川雄大、さとうりさ、デニス・タン、エレナ・ノックス/作家代理人立会・設営：コラクリット・アルナーノンチャイ、アントン・ヴィドクル、川久保ジョイ）
5月24日 ・ 第24回総会 （第22期決算報告書）
5月25日 ————— 緊急事態宣言解除、入国制限継続
5月27日 ————— 神奈川県、事業者が感染症防止対策の実施を前提に美術館等への休業要請を解除
6月中旬 ・作品搬入開始（海外・国内輸送）、横浜美術館会場施工開始 <ul style="list-style-type: none">会期中のエピソードについて延期や開催方法の変更について検討
6月1日 ・ 第25回総会 （第7回展開幕日を7月3日から7月17日に延期）
6月3日 ・ 市長定例記者会見で副委員長（逢坂、蔵屋） 同席の下、第7回展の開催を改めて発表 <ul style="list-style-type: none">開幕日の延期、日時指定予約制チケットの導入、（公財）日本博物館協会のガイドラインに沿った安全対策の実施を説明
6月中旬 ・横浜美術館会場の作品展示作業開始（作家立会：青野文昭、新井卓、飯山由貴、岩井優、竹村京、金氏徹平/作家代理人立会・設営：ローザ・バルバ） <ul style="list-style-type: none">海外からの航空便が到着、メッセージャーや会議アプリを用いた作家とのオンラインでの展示作業本格化
6月19日 ————— 県を越えた移動の自粛要請解除
6月22日 ・オンライン記者会見にてコンセプトの説明、チケット販売開始を告知（ラクス のビデオメッセージ配信）
6月23日 ・ヨコハマトリエンナーレ2020 チケット、横浜アート巡りチケット（「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」）販売開始 <p>7月・日本郵船歴史博物館会場の施工・展示</p>
7月3日 ・ エピソードX （オンライン配信）と エピソード02 （南アフリカでの展示） 開始 （エピソード02は8月14日まで）
7月16日 ・ 内覧会、記者会見にて参加作家67組を発表 （於横浜ランドマークホール、ラクスはオンライン参加） <ul style="list-style-type: none">竹村京によるパフォーマンス開始（～10月11日、週末を中心に断続的に実施） 内覧会終了後、ADと本展企画統括によるオンラインでのギャラリー・トークを、来日できなかった海外在住作家に向けてライブ配信

7月17日 ・ ヨコハマトリエンナーレ 2020 開幕 <ul style="list-style-type: none">エピソード03、04、06、09会場内にて開始
7月19日 ・ エピソード06、岩井優による参加者とのオンライン・ワークショップと会場内アクション開始 （7月26日、8月9日、23日、9月6日、20日、10月11日） <ul style="list-style-type: none">ガイドサポーターによる「オンラインガイド」開始（～10月9日）
8月21日 ・「中高生プログラム」開始（～2021年2月28日）
8月22日 ・ エピソード05 刷音 オンライン・プロジェクト「SURE INN」開催 （展示は8月21日～10月11日）
8月25日 ・子どものアトリエ・ワークショップ「さとうりさんの作品を体験しよう！」実施（於横浜市立みなとみらい本町小学校）
8月30日 ・市民のアトリエ・オンライントーク「飯川雄大の思考をつかまえる」実施 <ul style="list-style-type: none">エピソード01（於香港）とエピソード10（会期末実施）について、オンラインのみでの公開を決定、会場内で展示された映像作品の期間限定オンライン配信について参加作家と交渉開始。
9月 ・参加作家数が69組で最終確定。
9月9日 ・分身ロボット「OriHime」鑑賞会を開始
9月11日 ・「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」開始（～10月11日）
9月12日 ・タウス・マハチェヴァ作品パフォーマンス開始（～10月10日）
9月16日 ・ エピソード07「サウンド・リーズン」開始 （～9月27日）
9月19日 ・政府によるイベントの入場者数制限の緩和を受け、来場者の制限人数を緩和
9月24日 ・展覧会バーチャルツアーを公式サイトで公開
9月27日 ・アートプログラム「紙ねんどであそぼう！まんじゅうの樹」実施（於並木ラポ）
10月1日 ・ エピソード08田村友一郎《舎密／The Story of C》開始 （展示は10月2日～10月11日）
10月2日 ・夜間開館開始（10月2日、3日、8日、9日、10日、11日）
10月5日 ・ エピソード10「問質」開始 （展示された映像作品の一部も期間限定で公開）
10月11日 ・ ヨコハマトリエンナーレ 2020 閉幕 <ul style="list-style-type: none">エピソード09デニス・タン《自転車ベルの件》継続
10月17日 ・ エピソード01「アフターパーティー」実施

2021	1月8日 ————— 2度目の緊急事態宣言発出（神奈川県を含む4都県）
3月2日 ・展覧会記録映像公開	
3月21日 ————— 緊急事態宣言解除	
3月26日 ・ 第26回総会 （事業報告等）	
3月31日 ・公式カタログ発行	

独学者たちのヨコハマトリエンナーレ ― 企画準備ノート

2020年8月、ラクス・メディア・コレクティブのメンバーとディレクター（AD）の打ち合わせの様子

ヨコハマトリエンナーレ2020企画準備のスタートは、2018年8月、ラクス・メディア・コレクティブがアーティストック・ディレクター（AD）に選定された時点で遡ります。今回のディレクター選考では、事前に最終候補者と面会してプランについてヒアリングできたことから、AD就任時点でラクスが目指すキュレーションの方向性を、組織委員会およびキュレトリアル・チーム内で時間差なく共有することが可能となりました。ラクスが本展で提案したのは、予めテーマを設定するのではなく、「ソース（源）」と称する複数のテキストを起点に、「思考の茂み」を編み上げるようにヨコハマトリエンナーレを形作るという手法です。そこで2018年後半は、我々がそれぞれのソースについて理解を深め、どのように多角的なりサーチを行うかの議論を交わすことに時間が割られました。ラクスが想定した思考の担い手もまた、キュレーターや作家たちだけではありません。来場者や美術館の案内員など本事業に関係するあらゆる人たちにも、思考の茂みの一角を担う「独学者」となってもらうため、まずは、オーディエンス・リサーチに取り組むことになります。2019年春には、「アートと呼ばれる作品と出会って、あなたのなかで何かが芽生えたり、変わったりしましたか？」という問いが書かれたカードを配布、200件以上の回答をラクスと共有しています。ただしここで重視されたのは、回答を示すことではなく、思考や議論を続けるという行為そのものであり、こうした思考の延長に「エピソード」が構想されました。

2019年春頃、ラクスとディレクター（AD）の打ち合わせの様子

「エピソード」は、会期と会場に縛られた従来の展覧会という枠組みから自由に、変化の持続性に焦点をあてたプラットフォームとして、2019年春頃からその準備が始まりました。同時に、世界各地でのリサーチに加えて、ラクスにとっては初めての経験となる日本各地での作家・作品のリサーチにも多くの時間が費やされました。日本について考える上で、とりわけラクスが目じたのは、戦争や原爆、原発事故から想起される「毒性」「光」や「ケア」について。あるいは、沖縄の基地問題や太平洋地域の軍事演習にその痕跡が見られる植民地主義時代以来の地政学と、そこに生きる人々の間で育まれる清濁併せ呑む「友情」といった主題です。そうしたリサーチが、岩井優、刷音、インティ・ゲレロらによるエピソードや、いくつかの展示作品へと実を結びました。また、世界中から横浜に展覧会を観に来てもらうのではなく「横浜を世界の観客に届ける」という考えから展開し、会期前から世界各地をめぐるエピソードの開催が企図されます。これらは「エピソード01、02、03：討議的正義のための議論」として、ヨハネスブルグでの展示やオンライン配信の形で、作家やキュレーター、パフォーマーや活動家、さらには動物などの人間以外の存在までもが「主人公」となる「討議を持続するための場」が実現しました。

2019年春頃、ラクスとディレクター（AD）の打ち合わせの様子

エピソードと両輪を成す展覧会の準備が本格化したのは、2019年中盤からのことです。出品作品の選定と展示レイアウトを決める局面でラクスが重視したのは、彼らが「流れ(flow)」という言葉で示す作品同士の連続性です。特定の作品が、ある空間で支配的な存在となることを避けるように、通常であれば展覧会を象徴する場である横浜美術館正面に設置されたイヴァナ・フランケの作品は「建物を消す」という認識をかく乱する役割を果たし、続く美術館グランドギャラリーのニック・ケイヴの作品は、質量ある物体ではなく、乱反射する光の集合体として、観客の視線を拡散させるように配置されました。同時にラクスは数のバランスだけでなく、「フランケ＝女性」と「ケイヴ＝黒人」が展覧会の象徴的位置に配置されたように、会場全体の作品配置を通

しても、脱中心主義と多様性に対する配慮がなされています。それぞれの作品のモチーフに関しても、美術館からプロット48へと2つのメイン会場を巡ると、個人や家族などパーソナルな視点から出発し、民族や歴史の問題へと繋がるような作品、身体や人間の知覚に関するもの、さらには死生観や生態系の話へと、徐々に移り変わっていきます。身近な主題から宇宙規模へ、スケール感が拡大していくような思考の流れは、人間中心の現代社会に対する問いかけであったともいえるでしょう。

2019年春頃、ラクスとディレクター（AD）の打ち合わせの様子

最後に、企画準備におけるコロナウイルス感染症拡大の影響について記します。当初、東京2020オリンピック競技大会と準備時期が重なることで、物流や作家招聘に困難が生じると想定されたことから、本展では通常より早く輸送会社や施工会社などの関係社と準備に取りかかっていました。また、海外在住のADや参加作家との連絡のため、オンラインでの業務進行が常態化していたこと、下見を必要とする海外在住作家の大半は、移動制限が始まる2月までの間に現場下見や滞在制作を終えていたことが功を奏する形で、結果的には大幅な時間的遅れに至ることはありませんでした。しかし、現場制作を想定していた作家たちには、日本で緊急事態宣言が発令された時点で、来日ができない可能性を予測し、それぞれの国で一旦作品を完成させたくうえで解体して輸送することや、より状況が安定している第三国での委託制作、あるいは作品の形態そのものを変えるという要請を行わざるを得ませんでした。そして展示作業の現場では、ADと大半の作家が不在の中で、メッセージング・アプリと会議アプリを併用することでかろうじて実現はできたものの、映像を通じて空間を把握してもらうことは困難を極め、現場側が何を伝えるかというコミュニケーションのスキルと、双方の想像力や忍耐力、通常の倍以上の作業時間とが求められるものでした。また、当初パフォーマンスやワークショップなど、作家と参加者が対面することを想定していたエピソード（01、05、06、08、10など）については、ワークショップの部分的なオンライン化や、開催時期を変更しつつ、一部（01、10）は実施方法未定のまま開幕を迎えました。それらは会期中もコロナ収束を願いながら現実空間での開催の可能性を探り続けていましたが、会期末までに海外からの渡航が難しいと判明した9月時点で、会期末から会期後にかけてのオンライン開催へと切り替えることになりました。こうして個々の開催方法や実施時期が揺れ動いたことで、エピソード番号もまた順不同になっていったのです。会期を通して事業の実施計画が揺れ動き、手探りでオンライン事業開催へと導かれた本展は、内容面だけでなく実施する側にとってもまた、新型コロナウイルスという人ならざる存在と人間との関係性を探り、独学と解答のない議論が求められる場であったのです。

2020年8月、ラクス・メディア・コレクティブのメンバーとディレクター（AD）の打ち合わせの様子

ヨコハマトリエンナーレ 2020 企画統括
横浜美術館 主任学芸員
木村絵理子

02. 展覧会記録

第7回展ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」は、アーティストック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティブの企画の下で、横浜で開催する展覧会だけでなく、展覧会を時間や場所から解放するための仕組みとして、会期前から始まり会期後も継続し、オンライン上や海外でも開催された「エピソード」と呼ぶイベントとの二部構成で展開した。ラクスは、「ソース」と称する思考の出発点となるテキストを元に、世界を理解するためのキーワード「独学」「発光」「友情」「ケア」「毒性」などを導き出し、アジア、中東、アフリカ、南アメリカなどに出自を持ち、半数以上が日本初公開でもあった69組の作家を選定、横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館での展示と、全12件のエピソードを通じて、その多彩な活動を紹介した。

参加作家一覧

(姓のアルファベット順)

	作家名 (和/英)	出生国・地域	活動拠点	生没年	展示会場・エピソード
1	ハイグ・アイヴァジアン/Haig AIVAZIAN	レバノン	ペイルート	1980	プロット48
2	ファラー・アル・カシミ/Farah AL QASIMI	アラブ首長国連邦	ニューヨーク、ドバイ	1991	プロット48
3	モレシン・アラヤリ/Morehshin ALLAHYARI	イラン	ニューヨーク	1985	横浜美術館
4	ロバート・アンドリュー/Robert ANDREW	オーストラリア	ブリスベン	1965	横浜美術館
5	青野文昭/AONO Fumiaki	日本	宮城	1968	横浜美術館
6	新井 卓/ARAI Takashi	日本	神奈川	1978	横浜美術館
7	コラクリット・アルナーノンチャイ/Korakrit ARUNANONDCHAI	タイ	ニューヨーク	1986	プロット48
8	ローザ・バルバ/Rosa BARBA	イタリア	ベルリン	1972	横浜美術館
9	タイスィール・バトニジ/Taysir BATNIJI	パレスチナ	パリ、ガザ	1966	横浜美術館
10	イシャム・ベラダ/Hicham BERRADA	モロッコ	ルーベ	1986	プロット48
11	ニック・ケイヴ/Nick CAVE	アメリカ	シカゴ	1959	横浜美術館
12	チェン・ズ(陳 哲)/CHEN Zhe	中国	北京	1989	横浜美術館
13	ジェシー・ダーリング/Jesse DARLING	英国	ロンドン、ベルリン	1981	横浜美術館
14	マックス・デ・エステバン/Max DE ESTEBAN	スペイン	バルセロナ	1959	横浜美術館
15	エヴァ・ファブレガス/Eva FÀBREGAS	スペイン	ロンドン	1988	横浜美術館
16	マリアヌヌ・ファーム/Marianne FAHMY	エジプト	アレクサンドリア	1992	日本郵船歴史博物館
17	アリア・ファリド/Alia FARID	クウェート	クウェート、サン・ファン	1985	横浜美術館
18	ファームング・アーキテツツ/Farming Architects	ベトナム	ハノイ	2017 設立	プロット48
19	イヴァナ・フランケ/Ivana FRANKE	クロアチア	ベルリン	1973	横浜美術館
20	ラヒマ・ガンボ/Rahima GAMBO	英国	アブジャ	1986	プロット48
21	ズザ・ゴリンスカ/Zuza GOLIŃSKA	ポーランド	ワルシャワ、ロンドン	1990	横浜美術館
22	アンドレアス・グライナー/Andreas GREINER	ドイツ	ベルリン	1979	プロット48
23	インティ・ゲレロ/Inti GUERRERO	コロンビア	香港	1983	横浜美術館/エピソード
24	ニルバー・ギュレシ/Nilbar GÜREŞ	トルコ	ウィーン、イスタンブール	1977	横浜美術館
25	ティナ・ハヴロック・スティーングス/Tina HAVELOCK STEVENS	オーストラリア	シドニー	非公開	プロット48
26	ジョイス・ホー(何 采柔)/Joyce HO	台湾	台北	1983	プロット48
27	インゲラ・イルマン/Ingela IHRMAN	スウェーデン	マルメ	1985	横浜美術館
28	飯川雄大/IKAWA Takehiro	日本	兵庫	1981	プロット48
29	飯山由貴/IYAMA Yuki	日本	東京	1988	横浜美術館

30	岩井 優/IWAI Masaru	日本	東京	1975	横浜美術館/エピソード
31	岩間朝子/IWAMA Asako	日本	東京、ベルリン	非公開	横浜美術館
32	金氏徹平/KANEUJI Teppei	日本	京都	1978	横浜美術館
33	川久保ジョイ/KAWAKUBO Yoi	スペイン	ロンドン、東京	1979	プロット48
34	レボハンゴ・ハンイエ/Lebohng KGANYE	南アフリカ	ヨハネスブルグ	1990	横浜美術館
35	キム・ユンチョル/KIM Yunchul	韓国	インチョン	1970	横浜美術館
36	エレナ・ノックス/Elena KNOX	オーストラリア	東京	非公開	プロット48
37	ラウ・ワイ(劉 衛)/LAU Wai	香港	ニューヨーク、香港	1982	プロット48
38	ラス・リグタス/Russ LIGTAS	フィリピン	マニラ	1985	プロット48
39	メイク・オア・ブレイク(コニー・アンテス&レベッカ・ギャロ) Make or Break (Connie ANTHES & Rebecca GALLO)	オーストラリア	シドニー	1978/1985	横浜美術館
40	タウス・マハチェヴァ/Taus MAKHACHEVA	ロシア	モスクワ	1983	横浜美術館
41	カペロ・マラッツィ/Kabelo MALATSIE	南アフリカ	ヨハネスブルク	1987	エピソード
42	ナイーム・モハイエメン/Naeem MOHAIEMEN	英国	ダッカ、ニューヨーク	1969	プロット48
43	ジェイムス・ナスミス/James NASMYTH	英国	—	1808-1890	横浜美術館
44	パク・チャンキョン/PARK Chan-kyong	韓国	ソウル	1965	横浜美術館
45	アモル・K・パティル/Amol K. PATIL	インド	ムンバイ	1987	プロット48
46	刷音(シュアイン)/Printing Sound	中国、日本、韓国	中国、日本、韓国	2018 活動開始	プロット48/エピソード
47	アリユアーイ・プリダン(武 玉玲)/Aluaiy PULIDAN	台湾	三地門郷大社村	1971	プロット48
48	レーヌカ・ラジーヴ/Renuka RAJIV	インド	バンガロール	1985	横浜美術館
49	オスカー・サンティラン/Oscar SANTILLAN	エクアドル	デン・ハーグ	1980	横浜美術館/プロット48
50	サルカー・プロティック/SARKER Protick	バングラデシュ	ダッカ	1986	横浜美術館/プロット48
51	佐藤雅晴/SATO Masaharu	日本	—	1973-2019	横浜美術館
52	さとुरいさ/SATO Risa	日本	神奈川	1972	横浜美術館/プロット48
53	レヌ・サヴァント/Renu SAVANT	インド	ラトナギリ、ムンバイ	1981	プロット48
54	イシュ・シュヘラーワト(イシュ・S) Ish SHEHRAWAT (Ish S)	インド	ニューデリー	1978	横浜美術館/エピソード
55	ツェリン・シェルパ/Tsherin SHERPA	ネパール	カトマンズ、オークランド(カリフォルニア)	1968	横浜美術館
56	新宅加奈子/SHINTAKU Kanako	日本	京都	1994	エピソード
57	エリアス・シメ/Elias SIME	エチオピア	アディスアベバ	1968	横浜美術館
58	レイヤン・タベット/Rayyane TABET	レバノン	ペイルート	1983	横浜美術館
59	竹村 京/TAKEMURA Kei	日本	群馬	1975	横浜美術館
60	田村友一郎/TAMURA Yuichiro	日本	京都	1977	横浜美術館/エピソード
61	デニス・タン(陳 文偉)/Dennis TAN	シンガポール	シンガポール、東京	1975	プロット48/エピソード
62	アリ・ヴァン/Ali VAN	アメリカ	香港、ミネソタ	1986	エピソード
63	ヴェンザ・クリスト/Venzha Christ	インドネシア	ジョグジャカルタ	1973	横浜美術館/エピソード
64	アントン・ヴィドクル/Anton VIDOKLE	ロシア	ニューヨーク、ベルリン	1965	プロット48
65	オメル・ワシム&サーイラ・シェイク Omer WASIM & Saira SHEIKH	パキスタン	カラチ	1988/1975-2017	横浜美術館
66	ミシェル・ウォン/Michelle WONG	香港	香港	1987	エピソード
67	ランティアン・シエ/Lantian XIE	非公開	ドバイ	1988	横浜美術館/エピソード
68	ジャン・シュウ・ジャン(張徐 展)/ZHANG XU Zhan	台湾	台北	1988	横浜美術館
69	ジェン・ポー(鄭 波)/ZHENG Bo	中国	香港ランタオ島	1974	プロット48

エピソード内参加作家

エピソード03: マーヴ・エスピナ、PUGMENT

エピソード04: 石内 都、石川真生、キャシー・ジェットニル=キジナー (with ダン・リン)、アイサ・ホクソン、ポール・ジャクレー、クリスティーナ・ルカス、田中敦子、ヴィルヘルム・フォン・グレーデン

ソースブックとエピソード

本展ではアーティストック・ディレクターのラクス・メディア・コレクティブが「ソース」と称する5編のテキストを選定、テーマありきではなく、ソースを出発点に参加作家たちと共に展覧会を構想するという手法がとられた。また、展覧会を会期や会場という括りから自由にするためのプラットフォームとして、「エピソード」と題し、パフォーマンスやワークショップ、オンライン上でのシンポジウムや音楽フェスティバルなどを実施した。

ソースブック

本展構想の源となる5種のソースを収録した小冊子。「エピソード00」で無料配布した他、公式WEBサイトで公開。



ソースブック (表面)

収録内容 (*はソース)

- ・「ヨコハマトリエンナーレ2020『ソースブック』について」(横浜トリエンナーレ組織委員会)
- ・「ソースの共有」(ラクス・メディア・コレクティブ)
- ・「毎日あほうだんす——寿町の日雇い哲学者 西川紀光の世界」(トム・ギル著)*
- ・「あるベンガル婦人の日本訪問記」(ホリプロバ・タケダ著)*
- ・「友情のセノグラフィ」(スヴェトラナ・ボイム著)*
- ・「16世紀にピージャープル王国で編纂された占星術百科事典『ヌジュール・アル・ウルーム』の著者と意義について」(エマ・フラット著) /ヌジュール・アル・ウルーム[図版]*
- ・「光に導かれて——クラゲ、GFP、そして思いがけぬノーベル賞への道」(下村 脩、下村 幸、ジョン・H・プリネガー共著)*
- ・「エピソードから始まるヨコハマトリエンナーレ2020」(ラクス・メディア・コレクティブ)

デザイナー：アリアナ・スパニエ (デザイン補助：峯石景子)

判型など：A5変形、和英別冊 / 発行日：2019年11月29日

エピソード00 ソースの共有

ソースブック刊行に合わせて開催された1回目のエピソード。参加作家5組のパフォーマンスやレクチャー、ソースの朗読、ラクスによる本展趣旨説明を実施。*日英逐次通訳

日時：2019年11月30日(土) 14:00～18:00

(11月29日はプレスレビュー実施)

会場：プロット48

入場料：1,000円

進行：ラクス・メディア・コレクティブ

参加者数：163名

参加作家・作品：新宅加奈子《I'm still alive》
田村友一郎《畏怖 / If》
イヴァナ・フランケ《意識の外にある椅子》
ランティアン・シエ《映画上映のための会話》
イシャム・ベラダ《予兆》(音楽：小松千倫)
朗読：西岡 愛 (NHK横浜放送局キャスター)



エピソード00 ソースの共有

(上) 新宅加奈子《I'm still alive》2019年 (下右) イシャム・ベラダ《予兆》2019年
(下左) ラクスによるオープニングスピーチ風景

撮影：加藤 甫



エピソードX

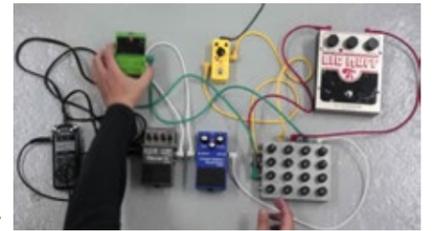
参加作家と横浜トリエンナーレ組織委員会制作による15本の映像コンテンツを、ヨコハマトリエンナーレ2020のデジタル空間である公式WEBサイトで、当初の開幕日である7月3日より順次公開した。

日程：7月3日(金)～公開中

実施方法：オンライン

視聴回数：10,773回(10月11日現在)

エピソードX 川久保ジョイ
《ループのあととあのプール》



参加作家・作品：岩井優《マジックアワー (エピソードのために)》、《アクションの積み重ね (エピソードのために)》、《ヨコハマで黒鉛と遊ぶ (エピソードのために)》

タウス・マハチェヴァ《目標の定量的無限性》

川久保ジョイ《ループのあととあのプール》

メイク・オア・ブレイク《歩きながらまちと対話する (黄金町/パラマタ)》

エレナ・ノックス《ヴォルカナ・ブレインストーム》

アモル・K・パティル《ひと休み》、《じっと見つめる》

デニス・タン (陳 文偉)《自転車ベルの件 (三軒茶屋)》

横浜トリエンナーレ組織委員会制作による映像の参加作家：竹村京、ファーミング・アーキテツ、新宅加奈子、ハイグ・アイヴァジアン、ニック・ケイヴ

エピソード01 討議的正義をめぐる議論：アフターパーティー

カペロ・マラッツィ、ミシェル・ウォン、ランティアン・シエにより三都市で実施されたエピソード「討議的正義をめぐる議論」の一つ。新型コロナウイルス感染症の影響により順番を前後することになり、シリーズ最後の企画として閉幕後に開催。ヨハネスブルクと香港からDJファツォッキとフォータン・ライキの音楽とジェローム・レイエスのビジュアルを特集し、ウェビナーを介して視聴者が参加可能なライブ配信イベントを実施した。
*言語：英語のみ



エピソード01 討議的正義をめぐる議論：アフターパーティー ライブ配信の様子

日時：10月17日(土) 23:00～26:00(日本時間)

実施方法：オンライン(香港、ヨハネスブルグから配信)

主人公：ファツォッキ、フォータン・ライキ、ソーダ・スタジオ、マイケル、マロース・マルセラ、ピカチュウ、ダンシング・ディジッツ、朝のコーヒーを買いに歩いている人、お皿を洗っている人、アフロ・アジア、アキル・ワールド・タイム、マリコとトム、ジェローム・レイエス、アミヤ・ナグバル、近隣宅からのピンク色の灯り、ポータブル電源、猿、リンダ・チュン、オズグ・エルソイ、ハーマン・ラウ、リン・オン・イェン、アコ

エピソード02 討議的正義をめぐる議論：中断された時間のためのセノグラフィ

カペロ・マラッツィ、ミシェル・ウォン、ランティアン・シエによる「討議的正義をめぐる議論」の一つとしてヨハネスブルグで開催。報酬と返報の関係性を越えた可能性について考察し、紛争を解決するための新たな訴訟のかたちを探る展示を行った。また、8月13日にオンラインで展示会場を案内するライブ配信を実施した。

日時：7月3日(金)～8月14日(金)

会場：ヨハネスブルグ(52 Kimberly road, Lorentzville, Johannesburg)

来場者数：48名

視聴者数：[ライブ配信] 146名

主人公：猫のブッシー、キング氏、プリンス氏、カネノナルキ、サンセベリア、アレカヤシ、イシャム・ベラダ、バラヴィ・ポール、シシ・ウー、アオサギ、魚、黎明生、銅、ナンニ、A・レオ・オッペンハイム、木下貴博、ジョージ・マハーシェ、リファイロ・ナミス・ニコラス・フロボ、ティーボ、ムサ・パロイ、クンプ、ユ・マン・ホン、ヤマハ、トランスネット・コッパ、フィルヨーン通りの教会、ハイラックス、ドゥミ、ラシッド、キャットニップ、1989NASAレポート、バハルプール・ビジネス・センター、カマル・メトル、フィッシュポンプ、ワールド・オブ・サモサ、マザー・イン・ロウのスパイス、セキュリティカメラ、グアン・ユ、ネオ・ディシコ、サイモン



エピソード02
討議的正義をめぐる議論：中断された時間のためのセノグラフィ
撮影：ジョージ・マハーシェ

エピソード03 討議的正義をめぐる議論：気配を感じて

カペロ・マラツィ、ミシェル・ウォン、ランティアン・シエによる「討議的正義をめぐる議論」の一つとして、本展会場内でサウンドアーティストのマーヴ・エスピナによるサウンド・インスタレーションと、ファッションデザイナーのPUGMENTと共に衣装について考える2つのプロジェクトを実施。マーヴ・エスピナの作品では、会場各所に設置したラジオ送信機を通じて会場内にいる案内員が携帯するラジオからさまざまな音が発せられた。PUGMENTの作品では、衣服についての討議をインスタグラム上とTシャツで展開し、Tシャツは会場内の案内員が着用した。また、会期末に展開したエピソード10の一環として、討議的正義について議論するためのウェビナーを2日間にわたり開催。アラブ首長国連邦、インド、南アフリカ、メキシコ、インドネシア、香港など様々な地域で活躍する若手の建築家、パフォーマー、詩人、作家、キュレーター、思想家たちが登壇した。

*言語：英語のみ（アーメド＆ラシード・ビン・シャビブは日本語で発表）



PUGMENT《ワードローブ・ディスカッション（討議する衣装）》2020年
撮影：大塚敬太

日時：[展示] 7月17日（金）～10月11日（日）

[ウェビナー] 10月9日（金）17:00～22:00、10月10日（土）3:00～5:05、17:00～21:00（いずれも日本時間）

会場：横浜美術館、オンライン

視聴者数：[ウェビナー] 643名（9日224名、10日419名）



マーヴ・エスピナ《空気のできた灯台》
2020年 撮影：大塚敬太

参加作家・作品：マーヴ・エスピナ《空気のできた灯台》、PUGMENT《ワードローブ・ディスカッション（討議する衣装）》

マーヴ・エスピナ作品の主人公：マーヴ・エスピナ、ラジオ・アストロノミー・アソシエーション・スイス (RAAS)、ピクセルシンセ、パラヴィ・ポール、スナバラクターゴア・アート・センター、アルファベット・スクール、世界文化の家、アレクサンドロ・ジローラ、ラグナス・ラジャラム、アルンディン・チャットパディア、ジーティン・ランガー、サイフ・アクタル、ブラド・ゾンベタ、シャリニ・バッシ、バスカル・マッシュ、ダヤニタ・シン、ヴィクラム・デサイ、クライス・エレン・ピーターズ、クレゼル・コエリョ、ラジュ・ビスワス、ウメーシュ・バント、グレッグ・スタチョウィアック、ナミーシャ・バルササラティ、ラティカ・ロポ、ランジット・カンダルガオンカー、シャンタル・オリヴェイラ、ターニヤ・ゴエル、ネリッサ・ローレンス、ナチュケット・パルヴェ、ニリマ・メネゼス、デラノ・ドゥッサーザ、シヴァム・ラストギ、ロア・フォーブス、ナムラタ・ザカリヤ、アマンダ・ローレンス、バーバラ・ガヴェツォッティ、ザイン・マスード、ムンジャル・カバディア博士、カムナ・アナンド、ランジャニ・マズムダル、セドリック・G・アルメイダ、シェリル・ドゥサ、ワスウォ・X・ワスウォ、スリバルナ・ゴーシュ、シマ・タリク、ジョン・メネゼス、アミン・ジャッファ、クリシャ・シャー、キラン・アムブワニ、マレッタ・ゴディンハ、イーディス・ラザール、ジェイシマ、イブシータ・マイトラ、アニータ・イウエル、ラッタナンモル・ジョハル、ラクティーム・バラシャール、エイダ・エインモ・ヤゲンセン、ネリンハ・ラヴァーラ、クリステアーナ・ヴェア・ニコル、カリヤニ・チャウラ、レアンドル・ドゥッサーザ、フィオナ・アムンゼン、イシエタ・サルガオカー、ポール・マチュー、ハジュラー・アーマッド、サヤ・ヒンドウジャ、アナンディ・ソーンズ、ディバンウィタ・バナジー、オデッラ・ピント、カタリナ・ラシック、サヘジ・ラハール、ジェンヌ・クアイエ、スリー・バナジー、アンキター・ナイク、カペロ・マラツィ、ランティアン・シエ、ミシェル・ウォン、ジーベシュ・バグチ、ファツォッキ、サウンドポケット、シャイ・ヘレディア、ニコラス・グラム、エイミー・リアン、バンガロール全域、ニューデリーのジャミア・ミリア・イスラミア大学、ボゴタ、香港のヴィクトリアハーバー両岸、ボリビア大統領選挙をめぐる抗議活動時のラパス、ブルックリンでのBLM運動、フィリピン大学ディリマン校、サンティアゴのチリ暴動抗議集団、サントドミンゴのアゴラモール、パイ (π)、モールス信号、90年代のダイアルアップモデム、スペインの口笛言語 (SILBO GOMERO)、トルコの口笛言語 (KUŞ DİLİ)、東京のバイク

PUGMENT作品の主人公：PUGMENT、衣装を着る人々

ウェビナー主人公：台風チャンホン、大黒、ハシモト・シノ、キャンディー・ライフ、ホンダCBX400F、スマヤ・ヴァリー、ヨハネスブルグ鉱山廃棄物集積場、フレデフォート・クレーター、ディリーサン、アーメド＆ラシード・ビン・シャビブ、丹下健三、アラジン、ハラ・アリ、オマル・アル＝ムフタル、クリスチャン・ニャンベタ、ロドリゲス・カレメラ、ラジオトロピエツォ、ディネオ・シシェー、ボバベ、カヌーテ・ケミッサン、帆船垂紀、グレース・サンボ、ムラビ山、ナシトゥンベン、ヨグヤ・ケンバリ・モニュメント、クスティヤ&エディ・スナルソ・アート・ハウス、ファトマワティ、アミヤ・ナグバル、スポティファイ・ハッカー、スラッグ・ホットライン・オペレーター、シヴ・グレイソン、マメロ・マケウサ、ロー・ティン、ワット氏、アビシェイク・ハズラ、マーク・チャン、サントシュ・S、サマンサ・クウォック

エピソード04 インティ・ゲレロ「熱帯と銀河のための研究所」

「展覧会としてのエピソード」という位置付けで、インティ・ゲレロをゲスト・キュレーターに展覧会内小企画として実施。横浜美術館のコレクションを軸に、日本とフィリピンを中心とする太平洋地域における植民地主義時代の歴史とその影響に焦点をあてて、招待作家・作品を含む、8作家の作品と歴史資料を展示した。

日時：7月17日（金）～10月11日（日）*通期展示

会場：横浜美術館

横浜美術館所蔵作品作家：石内 都、ポール・ジャクレ、田中敦子、ヴィルヘルム・フォン・グレーデン
招待作家・作品：石川真生、キャシー・ジェットニル＝キジナー（with ダン・リン）、アイサ・ホクソン、クリスティーナ・ルカス、フィリピンのアンティン・アンティン・ベスト



エピソード04 インティ・ゲレロ「熱帯と銀河のための研究所」2020年
展示風景：ポール・ジャクレ 撮影：大塚敬太

エピソード05 刷音「SURE INN」

日本、中国、韓国で活動する約40名のクリエイターたちの集団である刷音（シュアイン）による、1日限りのオンライン・プロジェクト。アニメーションなどの映像や、音楽、写真といったさまざまなコンテンツを一つのプログラムとしてライブ配信した。また、作品の一部は、プロット48の休憩ラウンジで展示された。

日時：[ライブ配信] 8月22日（土）20:00～22:00

[展示] 8月21日（金）～10月11日（日）

会場：オンライン、プロット48 休憩ラウンジ

視聴者数：[ライブ配信] 900名

参加メンバー：on Lee、ヤン・ジエン、チョン・ナファン、ピースモモ、湯見 陽、ル・ジアウエイ、青田真也、チョン・ユギョン、タン・ディシン、下田彦太、谷澤紗和子、マーフィー・ジョン、大澤悠大、ワークス、ス・シャオロン、長谷川唯、DJ TASAKA、ティエンム、キム・ミョンファ、リ・ティンウェイ、工藤夏海、ジュエドウィチュンジェ、ヤン・シー、アキラ・ザ・ハスラー、ドンウ・ヤン、イ・キョンミン、森 隆司、73、ブブ・ドラ・マドレーヌ、6699 プレス、竹崎和征、タン・ティン、山/完全版、藪内美佐子、キム・ヨンファン、ホアンシャン、竹川宣彰、げいままき、キム・ヘブシバ、ウェンジュン、イ・ドユン、ジャストプロジェクト、碓井ゆい、小林野渉、平野太一、AMIGOS



エピソード05 刷音「SURE INN」
（上）展示風景 撮影：大塚敬太 （下）ライブ配信より



エピソード06 岩井優《彗星たち》

「洗浄」をテーマに活動する岩井優によるプロジェクト。作品展示に加えて、横浜美術館市民のアトリエとの協働で参加者を公募、オンラインでのマスク制作ワークショップやディスカッションを実施（全6回）。その成果は、会場内展示の他インスタグラム上でも公開された。また、横浜トリエンナーレサポーターと岩井が美術館会場内を清掃するアクションを実施した（全14回）。

日時：[展示] 7月17日（金）～10月11日（日）*通期展示

[オンライン（マスク制作）] 7月19日、8月9日、9月6日

各日13:30～15:00

[オンライン（ディスカッション）] 7月26日、8月23日、9月20日

各日13:30～15:00

[清掃アクション] 7月19日・26日、8月9日・23日、9月6日・20日、10月11日 各日10:30～11:10/16:30～17:10

会場：横浜美術館、オンライン

参加者数：[オンライン] 延べ123名

参加サポーター数：[清掃アクション] 10名



エピソード06 岩井優《彗星たち》2020年 清掃アクション風景 撮影：大塚敬太

エピソード07 サウンド・リーズン

二人のサウンドアーティストとメディアアーティストによるサウンド・インスタレーション。9月19日には展示空間をリモートで作家自身が案内するウォークスルーのライブ配信を実施した。

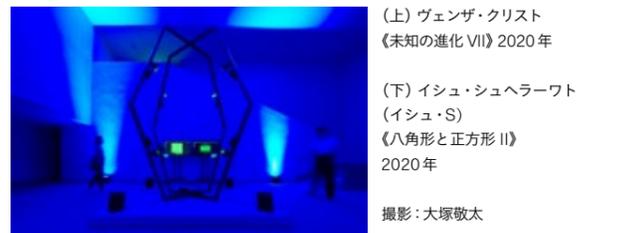
日時：9月16日（水）～27日（日）

会場：横浜美術館レクチャーホール

来場者数：[展示] 3,267名

視聴数：[ライブ配信] 136名

参加作家・作品：イシュ・シュヘラーワート（イシュ・S）《八角形と正方形 II》
ヴェンザ・クリスト《未知の進化 VII》



（上）ヴェンザ・クリスト
《未知の進化 VII》2020年

（下）イシュ・シュヘラーワート
（イシュ・S）
《八角形と正方形 II》
2020年

撮影：大塚敬太



エピソード08 田村友一郎《舎密／The Story of C》

エピソード00で田村友一郎が発表したパフォーマンス《畏怖／If》の続編となる4幕仕立ての映像インスタレーションとパフォーマンス。1幕から3幕まではオンラインでの動画配信と会場での展示を、4幕は、10月10日、11日に、会場でのライブパフォーマンスとリアルタイムの合成映像をライブ配信した。



エピソード08 田村友一郎《舎密／The Story of C》2020年
(上左)「一幕 炭化」、(上右)「二幕 真震」、(中左)「三幕 半身」、(中右)「四幕 空蟬」(一から三は動画配信、四はライブ配信より)
(下)「四幕 空蟬」会場の様子 撮影:大塚敬太

日時: [オンライン] 10月1日(木)～公開中
[展示] 10月2日(金)～10月11日(日)
会場: 横浜美術館レクチャーホール、オンライン
来場者数: 2,584名
視聴者数: [動画配信] 2,166回(10月11日現在)
[ライブ配信] 1,672名

作品: 一幕 炭化(10月1日公開)
二幕 真震(10月4日公開)
三幕 半身(10月7日公開)
四幕 空蟬(10月10、11日開催)



エピソード09 デニス・タン《自転車ベルの件》



エピソード09 デニス・タン(陳文偉)《自転車ベルの件(ある種の合図)バージョン1》2020年

渋谷の雑踏で得た自身の体験をもとに、自転車のベルを鳴らすインスタレーションをプロット48で発表。次のトリエンナーレまでの1000日間を接続するプロジェクトとして位置づけ、会期中および閉幕以降もパフォーマンスを継続、その映像を公式WEBサイト上に公開する。

日時: 7月17日(金)～継続中 *通期展示
会場: プロット48、オンライン

エピソード10 間質

参加作家13名による本展のために制作された短編映像を公式WEBサイトで公開。*言語: 英語(アントン・ヴィドクルと川久保ジョイ作品のみ日英) また、会場で展示されたうちの15作品を、期間限定で同サイトで公開した。*日英字幕

日時: [短編映像] 10月5日(月)～公開中
[展示作品特別公開] 10月6日(火) 18:00～
10月11日(日) 23:59

会場: オンライン
視聴数: [短編映像] 5,918回(10月11日現在)
[展示作品特別公開] 9,440回

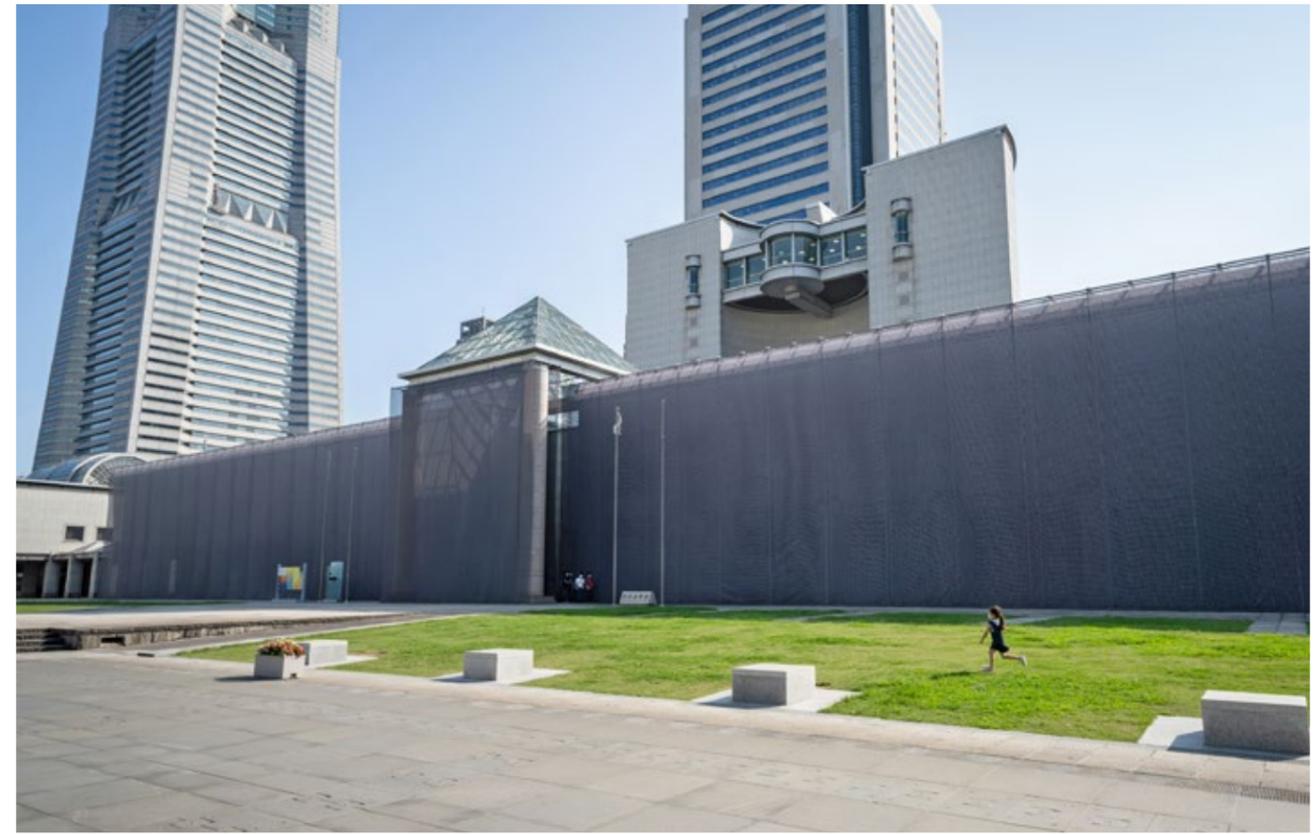


エピソード10「間質」アリ・ヴァン《バルテール》2020年

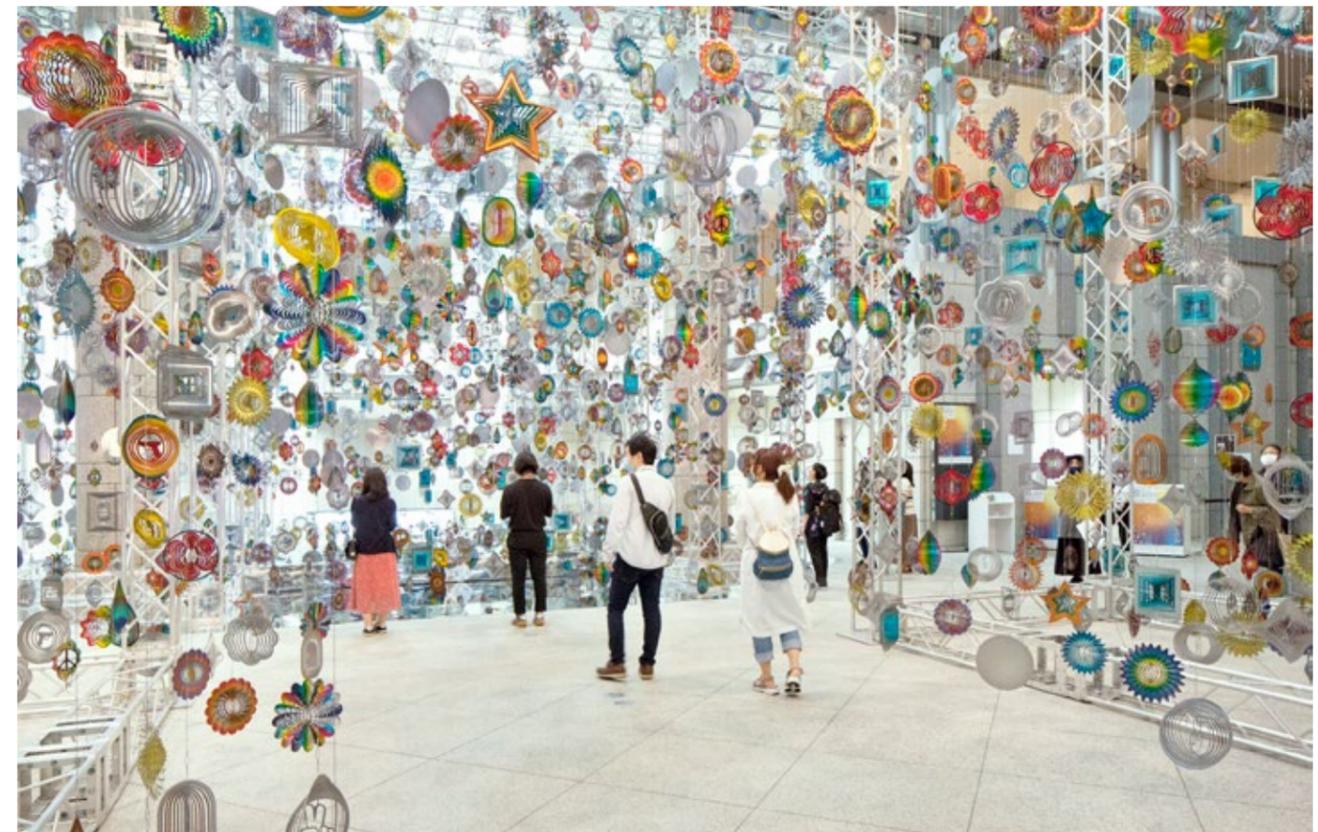
[短編映像]
参加作家・作品: アントン・ヴィドクル《建神論》、レヌ・サヴァント《マイ・エコシステム》、マリアヌ・ファーム《神話、作話、そして、これから起きることの断片》、ラス・リグタス《プラネット・ブルー: エビローグ》、マックス・デ・エステバン《現代のインフラストラクチャーについて》、メイク・オア・ブレイク《橋の上で、人と過ごすひと時》、サルカー・プロティック《O great life! / ॐ ममराजीवन / すばらしき人生!》、オスカー・サンティラン《SUNLIGHT MINUS A FIREFLY》、ニルバー・ギュレン《知られざるスポーツ》、ローザ・バルバ《組織を傾ける》、イヴァナ・フランケ《予期せぬ共鳴》、アリ・ヴァン《バルテール》、川久保ジョイ《エビローグ》

[展示作品特別公開]
参加作家: 新井卓、レボハンク・ハンイエ、岩間朝子、バク・チャンキョン、サルカー・プロティック、アリア・ファリド、ジャン・シュウ・ジャン(張徐展)、ティナ・ハヴロック・スティーヴンス、ラヒマ・ガンボ、ナイーム・モハイエメン、川久保ジョイ、アモル・K・パティル、レヌ・サヴァント、アントン・ヴィドクル

展覧会 [横浜美術館]



イヴァナ・フランケ
《予期せぬ共鳴》2020年*



ニック・ケイヴ
《回転する森》2016年(2020年再制作)



ジェイムス・ナスミス
『ザ・ムーン：惑星、世界、衛星としての月』（第4版、1903年（初版1874年））
挿図より（拡大複製、20点）、1903年



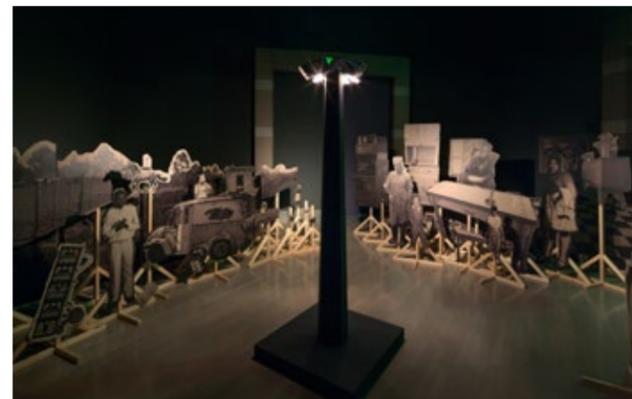
新井 卓
《千の女のための多焦点モニュメント No.1~10》2020年、ほか計4点



青野文昭
《イエのおもかげ・筆筒の中の住居—東北の浜辺で収拾したドアの再生から》2020年、ほか計6件133点



竹村 京
《Time Counter》2019年～現在、ほか計52件97点



レボハンク・ハンイエ
《モシヨロコメディ・ワ・トラ（灯台守）》2017年、ほか計2点



ロバート・アンドリュウ
《つながりの啓示— Nagula》2020年



マックス・デ・エステバン
《赤い印》（「20の赤信号」より）2017年、計20点



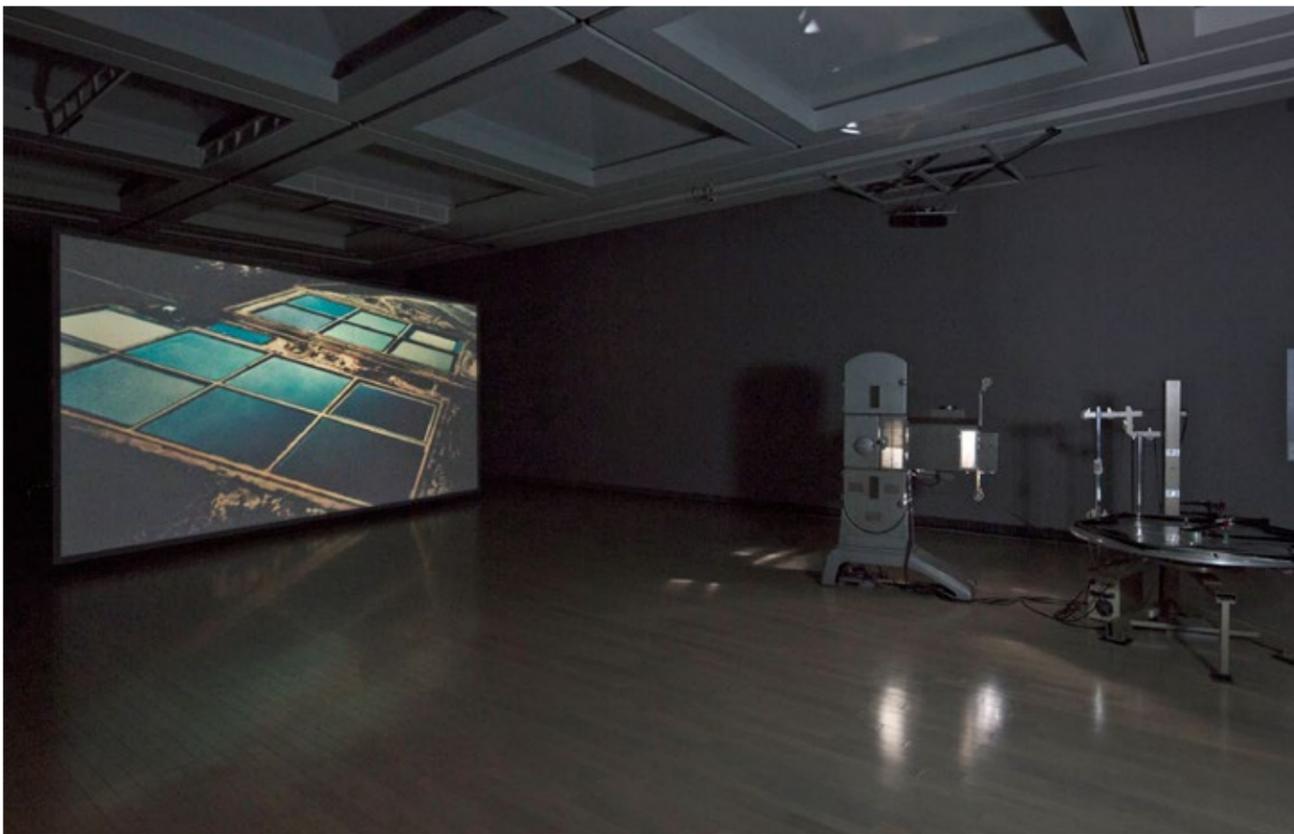
岩間朝子
《貝塚》2020年



飯山由貴
《オールド ロング ステイ》2020年、ほか計3点



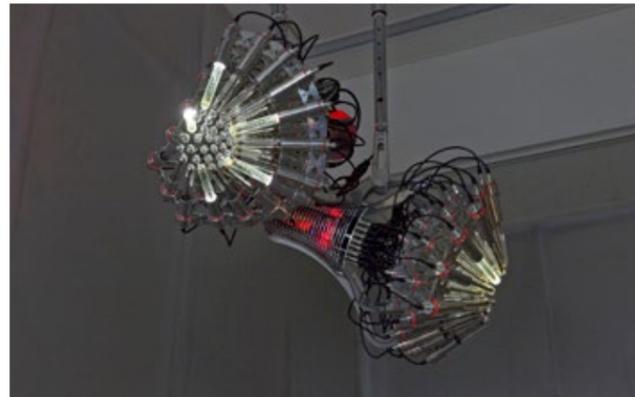
レイヤン・タベット
《オールド スタット（「かけら」シリーズより）》2017年～現在、計26点



ローザ・バルバ
《地球に身を傾ける》2015年



チェン・ズ (陳哲)
《パラドックスの窓1》2020年、ほか計2点



キム・ユンチョル
《アルゴス》2018年、ほか計2点



岩井 優
エピソード06《彗星たち》2020年



金氏徹平
《White Discharge (フィギュア / 203)》2003-2020年、ほか計5件207点



キム・ユンチョル
《クロマ》2020年、ほか計2点



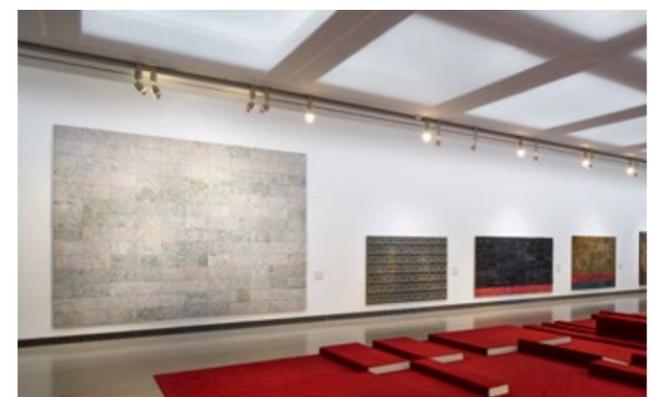
ニルバー・ギュレシ
《平均台》(「知られざるスポーツ」より) 2009年、計3点



ズザ・ゴリンスカ
《助走》2015年 (2020年再制作)



パク・チャンキョン
《遅れてきた菩薩》2019年



エリアス・シメ
《網渡り：地球のおなかから1》2020年、ほか計6点



エヴァ・ファブレガス
《からみあい》2020年



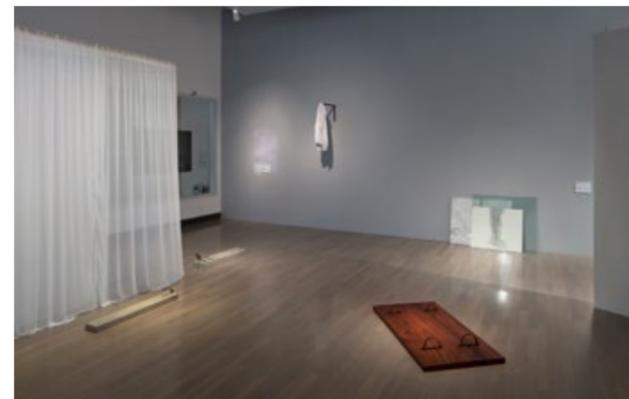
タウス・マハチェヴァ
《目標の定量的無限性》2019-2020年



インティ・ゲレロ
エピソード04 「熱帯と銀河のための研究所」2020年、計9作家29件56点 展示風景（左）石川真生、（右）アイサ・ホクソン



インゲラ・イルマン
《ジャイアント・ hogweed》2016年（2020年再制作）



オメル・ワシム&サーイラ・シェイク
《実現されなかった劇の小道具／光が回る時／向こうにあるもの（抜粋）》2015-2020年、ほか計2件14点



レーヌカ・ラジーヴ
《サイボーグは敏感》2020年（33点組）、ほか計5件236点



ツェリン・シェルパ
《54の智慧と慈悲》2013年



サルカー・プロテック
《रश्मि / Raśmi / 光線》2017-2020年、ほか計2点



ジェシー・ダーリング
《幻のアーカイブからの文化遺産（各種）》2020年、計9点



アリア・ファリド
《引き潮のとき》2019年



さとうりさ
《双つの樹（白）》2020年、ほか計4点



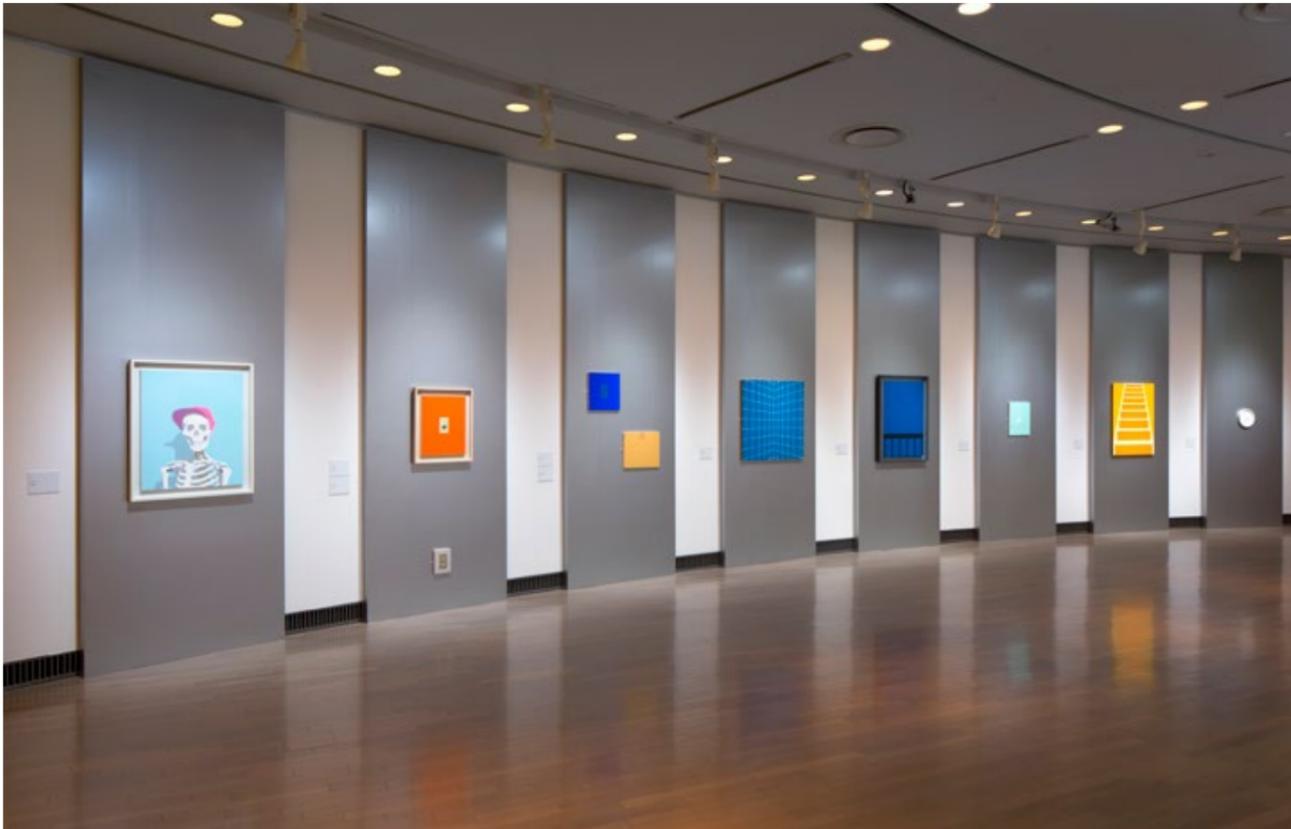
オスカー・サンティラン
《宇宙工芸船（領土をモノ扱いしない）》2018年、ほか計3点



タイシール・バトニジ
《停止した時間》2007年、ほか計2件



ランティアン・シエ
《私が動くと、あなたも動く》2020年、ほか計2点



佐藤雅晴
「死神先生」より、2018年、計10点



モレシン・アラヤリ
《未知を見る彼女：ヤーージュージュ、マーージュージュ》2018年、ほか計2件3点*



メイク・オア・ブレイク (コニー・アンテス & レベッカ・ギャロ)
《橋を気にかける》2020年*

[プロット 48]



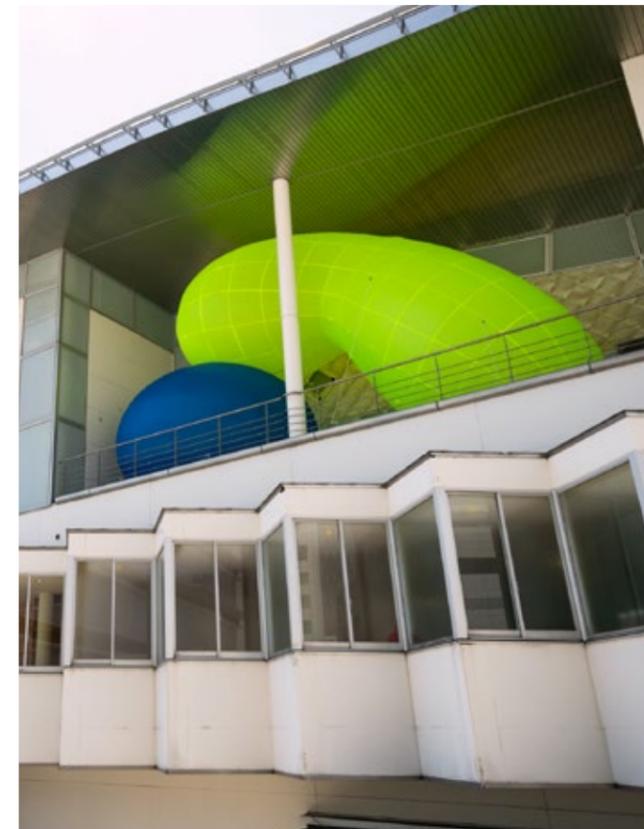
ファーミング・アーキテクト
手前：《空間の連立》2020年、計1件2点



ジャン・シュウ・ジャン (張 徐展)
《魔山普陀岩》2020年、ほか計8件 28点



デニス・タン (陳 文偉)
エピソード09 《自転車ベルの件》2020年、ほか3点



さとうりさ
《双つの樹 (青)》《双つの樹 (黄)》2020年、ほか計4点*



川久保ジョイ
《ディオゲネスを待ちながら》2020年



(同左)



アンドレアス・グライナー
《マルチチュード》2014年(2020年再制作)*



アモル・K・パティル
《回想》2019年、ほか計8点



ファラー・アル・カシミ
《ジャジラ・アル・ハムラ 2020》2020年



イシャム・ベラダ
《数理的前兆 #3》《質量と殉教者》2020年、計2点



ラウ・ワイ (劉衛)
《足りない声》2019年(2020年再制作)



レヌ・サヴァント
《ミリアでの数カ月》2017年



サルカー・プロティック
《ラブ・キル》2014-2015年、ほか計2点

エレナ・ノックス
 《ヴォルカナ・ブレインストーム (ホットラーバ・バージョン)》
 2019, 2020年、計1件44作家61点



アリュアーイ・プリダン (武玉玲)
 《纏繞 (てんじょう)》2019年、ほか計5点

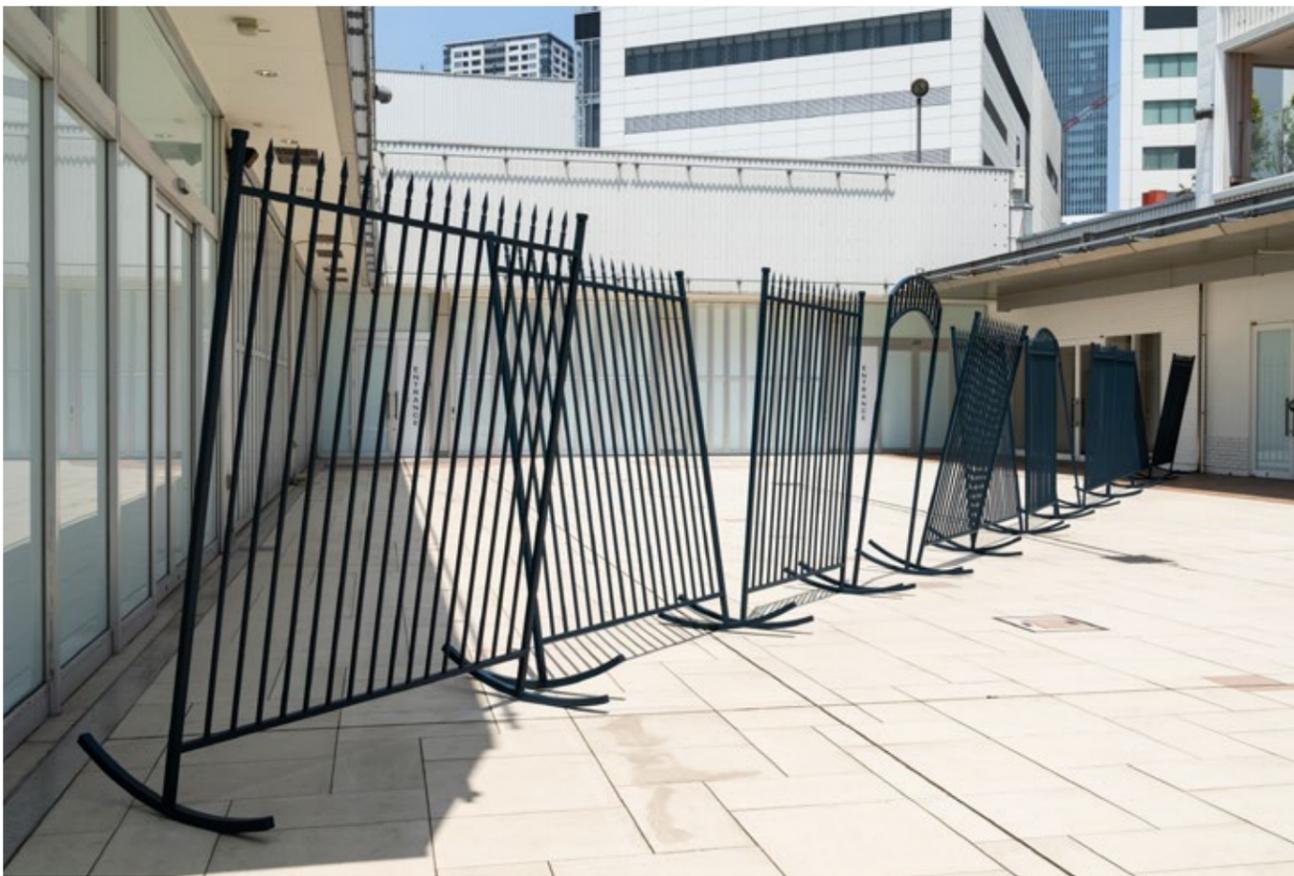


ジェン・ポー (鄭波)
 《シダ性愛 1-4》2016-2019年、ほか計3件6点



アントン・ヴィドクル
 《宇宙市民》2019年、ほか計2点





ジョイス・ホー (何采柔)
《バランシング・アクト III》2020年*



飯川雄大
《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年、ほか計2点



《デコレータークラブ ベリーヘビーバッグ》(同左)



ティナ・ハヴロック・スティーヴンス
《ゴースト・クラス》2015年



ラス・リグタス
《プラネット・ブルー》2020年



ハイグ・アイヴァジアン
《1, 2, 3 ソレイユ! (2020)》2020年



コラクリット・アルナーノンチャイ
《おかしな名前の人たちが集まった部屋の中で歴史で絵を描く 4》2017年



オスカー・サンティラン
《チューインガム・コデックス》2019-2020年、ほか計3点



ラヒマ・ガンボ
《タツニヤ (物語)1》2017年、ほか計2件11点



ファーミング・アーキテクツ
《空間の連立》2020年、計1件2点

【日本郵船歴史博物館】



ナイーム・モハイエメン
《溺れぬ者たちへ》2020年

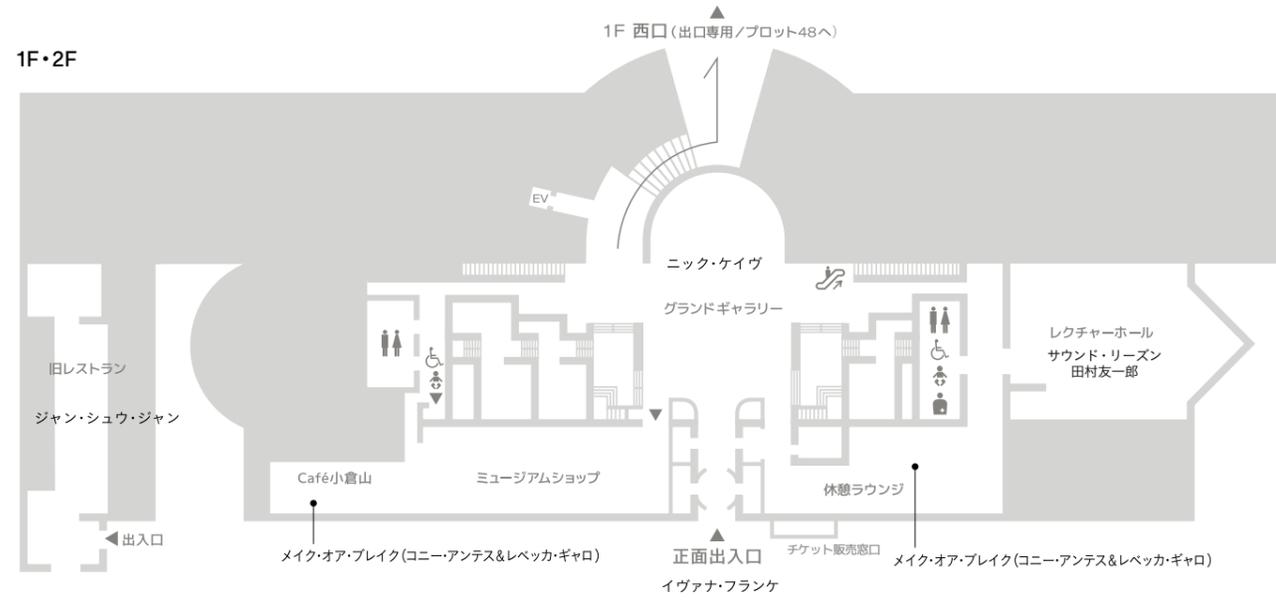


マリアンヌ・ファーマ
《アトラス シリーズ》2020年、ほか計2点*

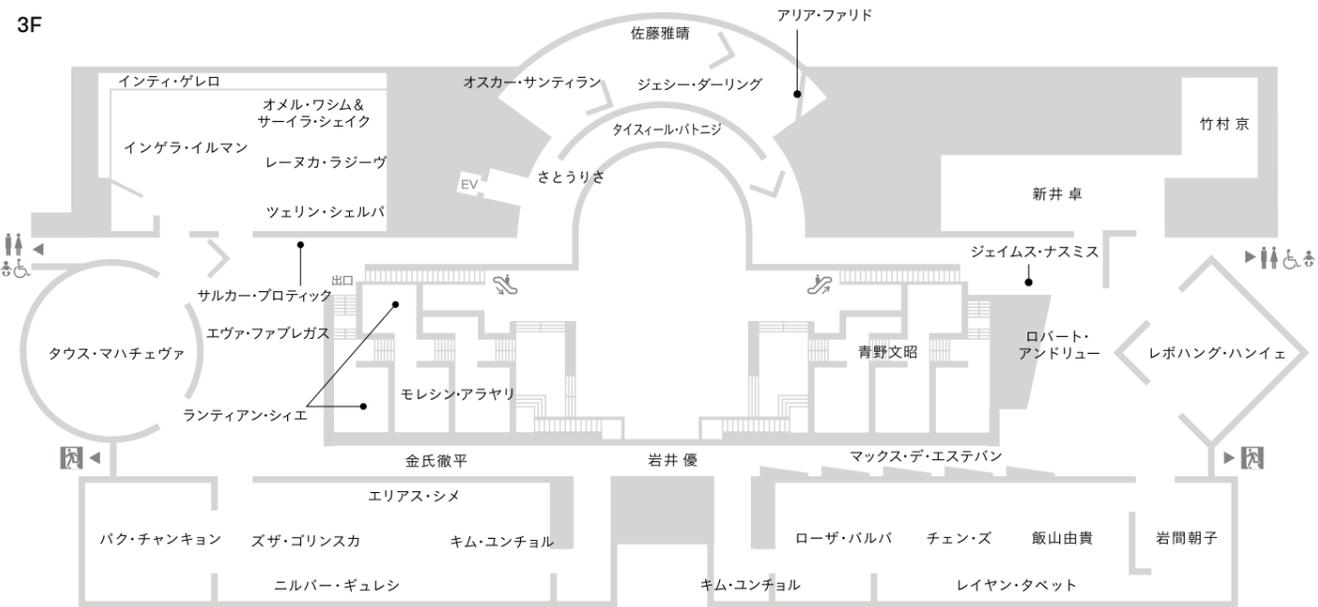
会場フロアマップ

横浜美術館

1F・2F



3F



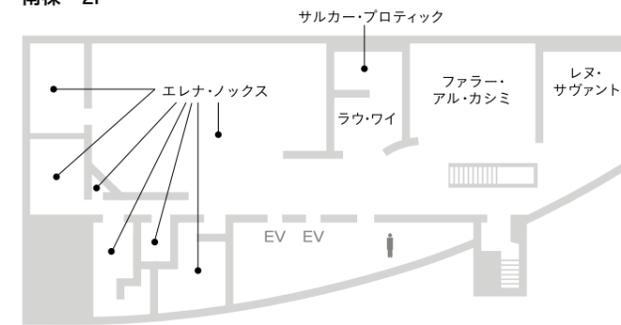
プロット48

北棟 1F

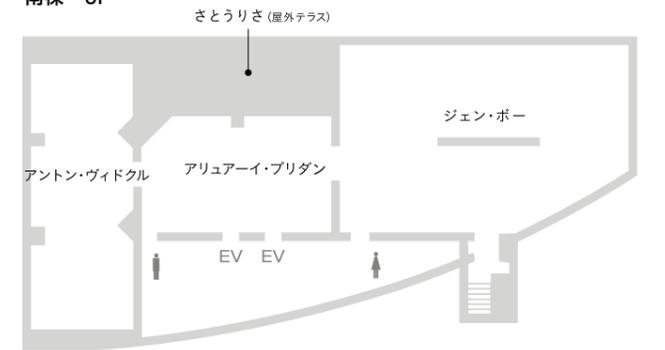


南棟 1F

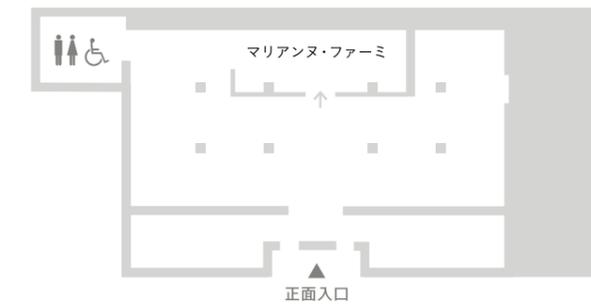
南棟 2F



南棟 3F



日本郵船歴史博物館



展覧会関連企画・印刷物

パフォーマンス

・アンドレアス・グライナー《マルチチュード》

1回約20分、定員先着18名/日時：毎日13:00～、15:00～、17:00～、夜間開館日に限り19:00～/参加者数：3,945名

・竹村京《Time Counter》

週末を中心に作家が不定期に行ったパフォーマンス。

1回数時間、定員なし、展示室出入自由

実施期間：7月17日（金）～10月11日（日）

・タウス・マハチェヴァ《目標の定量的無限性》

体操選手によるパフォーマンス。

1回約23分、定員なし、展示室出入自由/日時：9月12日（土）・

16日（水）・26日（土）、10月3日（土）・10日（土）、

各日14:00～と14:45～

※このほか、エピソードについてはP.16-20、参加作家関連ワークショップについてはP.47参照。

事前予約制作品

・ランティアン・シエ《私が動くと、あなたも動く》

ロボティックウェアを装着した鑑賞体験（2台）

所用時間：最長60分/参加者数：511名

・モレシ・アラヤリ《未知を見る彼女：ヤージュージュとマージュージュ》

VR作品鑑賞（VR3台、内1台車いす専用）

所用時間：約15分/参加者数：2,995名

・飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》

所用時間：最長20分/参加者数：2,429名

印刷物

公式カタログ

展覧会を印刷物で追体験するという趣旨で、展示風景写真とオンラインで実施したラクスによるギャラリー・トーク、準備過程の記録などを収録。



タイトル：ヨコハマトリエンナーレ2020
「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」
デザイナー：アリアナ・スパニエ（日本語版デザイン補佐：島影南美）/判型など：B5変形、和英別冊、価格各2,420円（税込）/発行日：2021年3月31日

佐藤雅晴「死神先生」

作家による作品ステートメント。

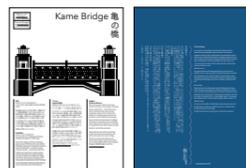
判型など：A3二つ折り、和英、会場内無料配布



制作物（中面見開き）

メイク・オア・ブレイク《橋を気にかける》

横浜の橋にまつわる物語とアクションの指示書。



判型など：A4、和英、全7種、会場内無料配布
および横浜美術館内のカフェ「Café小倉山」
トレイシート（P.60参照）として提供

会場で展示した印刷物（左：表面、右：裏面）

オーディエンス・リサーチ

ラクスによる日本の美術鑑賞者に関する意識調査。横浜美術館の来館者を中心にアンケート用紙を配布、その回答を展覧会の構想に活用した。



アンケート実施期間：
2019年2月20日（水）～3月31日（日）
回答数：219件/判型など：A5、和英

※この他、『ソースブック』についてはP.16参照。

鑑賞支援



「いっしょに歩くヨコハマトリエンナーレ2020ガイド」

蔵屋美香監修により、「〈わからない〉を楽しむ」というメッセージとともに、ラクスによるコンセプトと主な作品を紹介。

判型など：A3三つ折り、日本語のみ、会場内無料配布/発行日：第1版7月17日、第2版8月7日

会場マップ

展示作品のフロアマップと会場間アクセス情報を掲載。

判型など：h.210 x w.659mm 蛇腹折り、和英、会場内無料配布/発行日：第1版7月16日、第2版8月13日

※この他、ガイドサポーターや社会包摂の取組の一環として行われた鑑賞支援についてはP.48、50参照。

関連展示

特別資料展示「資料で振り返る横浜トリエンナーレ」

第1回（2001年）から第6回（2017年）の横浜トリエンナーレの展覧会カタログとチラシなどの資料展示。

会期：[前期] 7月17日（金）～

9月2日（水）

[後期] 9月4日（金）～

2021年2月28日（日）

会場：横浜美術館 美術情報センター

主催：横浜美術館



03. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入場者数の制限や団体受入れの縮小など、これまでの展覧会運営から大きな変更を余儀なくされた。そうした中、日時指定予約チケットのオンライン販売やオンラインによるプログラムを用意し、展覧会へのアクセスの機会を提供するなど、ICTを活用した新たな取組を進めた。

会場運営

開催にあたっては、国及び県の方針に従い、（公財）日本博物館協会が示すガイドラインなどに沿って、来場者やスタッフの動線や接触等を考慮したリスク評価を行い、そのリスクに応じた感染症対策を講じた。

来場者の感染予防

- ・マスクの着用、こまめな手洗い・消毒
- ・来場者同士の距離の確保
- ・各会場の入口にサーモグラフィ設置（体温測定し、37.5℃以上の発熱がある場合は、入場お断り）
- ・感染者が発生した際には、保健所等の公的機関による聞き取り調査に協力できるよう、チケット購入時又は入場時に連絡先の提供を依頼

会場内の感染予防

- ・日時指定予約チケットの導入による会場内の密集回避
- ・会場内の清掃、換気、手が触れる場所の定期的な消毒
- ・総合案内、チケット販売窓口など、対面箇所には飛沫ガードを設置
- ・フロアマーカーを設置し、来場者同士の距離を確保
- ・展示作品ごとの感染予防（使い捨てVRゴーグル用マスクやヘッドホンカバーの使用、暗幕カーテンの設置方法の変更）

スタッフの感染予防

- ・スタッフ全員が定期的に検温と体調チェック
- ・マスクやフェイスシールド、手袋の着用等、案内員の適切な防護対策

入場者数の制限

来場者同士の間隔が十分に確保されるよう、横浜美術館の入場者数を30分ごとに設定した。また、プロット48についても横浜美術館と同日に限り入場可能にすることで、来場者が密集しないようにした。会期中は政府の方針に沿って段階的に制限人数を緩和した。

時期	横浜美術館の30分あたりの制限人数（1日あたり）
7月17日（金）～	70人（1,050人/日）
9月5日（土）～	89人（1,335人/日）
9月19日（土）～*	178人（2,670人/日）
・夜間開館日（～21時）	178人（3,738人/日）
・夜間開館日（～20時）	178人（3,382人/日）

※政府によるイベントの入場者数制限の緩和



撮影：大塚敬太（3点とも）

新型コロナウイルス感染予防対策実施についてのご案内
Protective measures against the spread of COVID-19.

お客様に安心してご鑑賞いただくため、
以下の取り組みをおこなっております。

Enjoy art in a safe environment!

入館時の検温

入館時、体温測定を行います。検温結果が正常な方のみ入館が可能です。検温結果が正常でない場合は、入館をお断りいたします。

マスクの着用

入館時、マスクの着用をお願いします。着用していない場合は、入館をお断りいたします。

人と間隔を確保

人と人との間隔を確保し、密集を避けましょう。人と人との間隔を確保するために、入館をお断りいたします。

手洗い・消毒

展示室には手洗い場と消毒液を設置しています。手洗いや消毒をお願いします。

密集回避

展示室には密集を回避するための案内を設置しています。案内に従って行動をお願いします。

スタッフの感染予防対策

スタッフはマスクやフェイスシールド、手袋を着用し、検温を行います。検温結果が正常でない場合は、業務をお断りいたします。

チケット

オンライン販売サイトのほか、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口で日時指定チケットを販売した。30分ごとの販売枚数を設定し、入場者数を制限することで、来場者が密集しないようにした。

券種

・ヨコハマトリエンナーレ2020チケット

横浜美術館への入場は、日時指定の事前予約が必要。プロット48は、横浜美術館と同日に限り、時間指定なしで入場可能（最終入場は閉場時間の30分前）。日本郵船歴史博物館は、チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらず入場可能。

※中学生以下、障害者（P.48参照）とその介護者1名は無料（事前予約不要）

（全て税込、単位：円）

一般	大学生・専門学校生	高校生
2,000	1,200	800

・横浜アート巡りチケット

ヨコハマトリエンナーレ2020のほかに、「BankART Life VI」、「黄金町パザール2020」に入場できるチケット。

（全て税込、単位：円）

一般	大学生・専門学校生	高校生
2,800	2,000	BankART、黄金町は無料 トリエンナーレは800

販売実績

販売期間：6月23日（火）～10月11日（日）

※会場窓口での販売は会期中のみ。

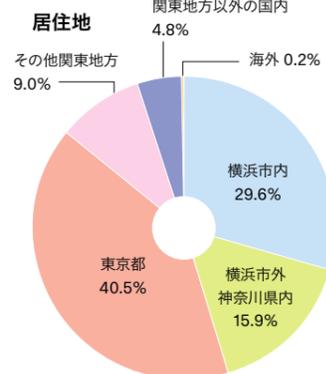
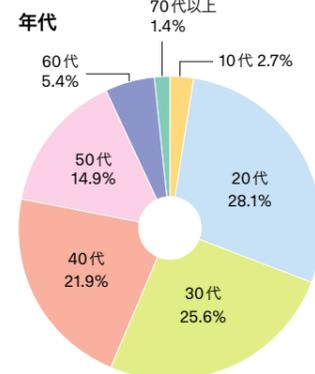
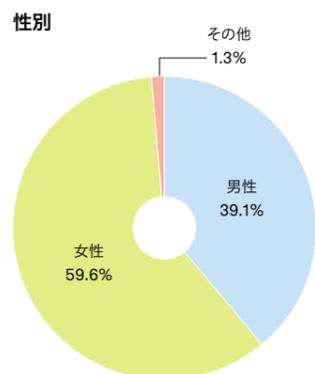
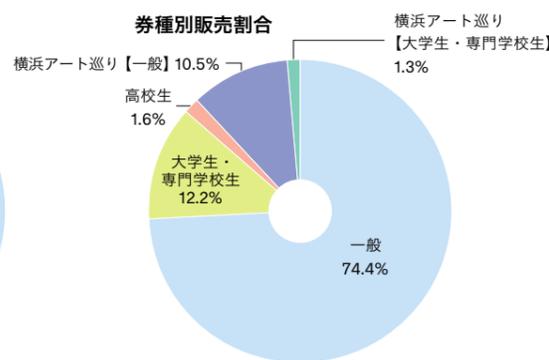
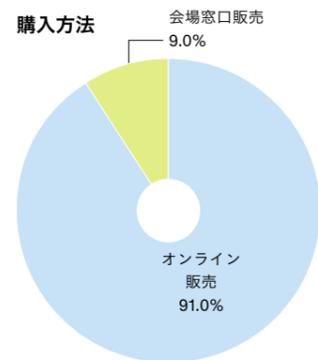
（単位：枚）

ヨコハマトリエンナーレ2020 チケット	横浜アート巡りチケット	合計
54,429	7,299	61,728



スマートフォン画面表示

購入者の属性



ICTの活用

新型コロナで入場者数制限を行う中、来場しなくても作品が楽しめるよう、ICTの各種ツールを活用し、新たな取組を行った。

ヨコハマトリエンナーレ2020 バーチャルツアー

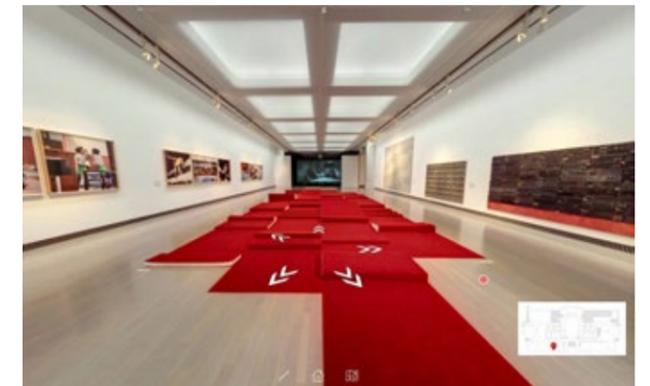
オンライン上で展覧会を360°のパノラマビューで鑑賞できる「ヨコハマトリエンナーレ2020 バーチャルツアー」を公開。無料で横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館の展示の鑑賞や、会場内にある作品解説パネル、作品キャプションを閲覧することができるようにした。新型コロナの影響で来場できない海外や遠方の居住者に新たな鑑賞機会を提供した。

公開日：9月24日（木）

対応言語：日本語、英語

動作環境：パソコン、タブレット、スマートフォンに対応

アクセス数：13,645件（2021年1月31日時点）



ヨコハマトリエンナーレ2020バーチャルツアーの画面（左右）

ガイドサポーターによる「オンラインガイド ココがみどころ！」

新型コロナのため、従来実施してきた横浜トリエンナーレサポーターによる会場内での来場者へのガイド活動は見送ることになったが、新たな試みとして、オンラインによるガイドを実施した。事前申込にて募集した参加者を対象に、ガイドサポーターが本展の概要と展示作品の見どころなどをオンラインで紹介した。海外および遠隔地に居住し、来場できない人や大学の授業などで利用されただけでなく、来場を予定している人やすでに来場した人にも対応した。

（詳細はP.50参照）



オンラインガイド ココがみどころ！の様子

分身ロボット「OriHime」を活用した鑑賞会

身体的制約などにより外出が難しい人を対象に、分身ロボット「OriHime」を活用した鑑賞会を実施した。（詳細はP.48参照）

「エピソード」のオンライン実施

展覧会と並行して行われたエピソード12件のうち8件（エピソードX、01、03、05、06、08、09、10）はオンラインでも鑑賞できるものとして企画された。（詳細はP.16-20参照）



分身ロボット「OriHime」を活用した鑑賞会の様子

04. 来場者サービス

来場者へのおもてなしとして、猛暑の中でも来場者が楽しく会場間を回遊できるよう、オリジナル日傘の無料貸出や会場間アクセスの整備を行った。また、公式グッズのほか、横浜にゆかりのあるデザイナーやクリエイターが製作した「クリエイターグッズ」や、市内事業者がヨコハマトリエンナーレ2020のロゴをあしらって製作した「ティアップグッズ」、参加作家の関連グッズなど、バラエティに富んだ商品ラインナップを、横浜美術館ミュージアムショップ及びプロット48ショップにて販売した。

暑さ対策

●「ヨコトリ2020オリジナル日傘」の無料貸出

猛暑の中、来場者が快適に会場間を移動できるよう、イメージビジュアルのデザインを施したオリジナル日傘の無料貸出を行った。老若男女問わず多くの方にご利用いただき、展覧会の世界観が街に広がるとともに、彩りを加える効果が得られた。

●ミスト式冷却機

横浜市とパナソニック株式会社が締結した暑さ対策に関する連携協定に基づき、プロット48の中庭にミスト式冷却機を設置し、涼空間を提供した。

ヨコトリ2020オリジナル日傘



ミスト式冷却機

ショップ

●横浜美術館ミュージアムショップ

公式グッズ、ティアップグッズ (P.60 参照)、クリエイターグッズ (P.61-63 参照)、参加作家の関連グッズ等を販売した。

営業日時：7月17日(金)～10月11日(日) 11:00～18:00

※夜間延長時も営業

●プロット48ショップ

横浜にゆかりのあるクリエイターのグッズや公式グッズを中心とした商品を販売するショップをプロット48会場に期間限定でオープンした。

営業日時：7月17日(金)～10月11日(日) 10:00～18:00

※夜間延長時も営業



横浜美術館ミュージアムショップ



プロット48ショップ

会場間アクセス

●横浜コミュニティサイクルbaybike(ベイバイク)

みなとみらいエリア、関内エリアなどに設置されているサイクルポートで貸出/返却が可能な電動アシスト付き自転車が利用できるサービス。会期中は、プロット48に臨時サイクルポートを設置した。

●チョイモビヨコハマ

横浜市が実施する超小型モビリティを活用したカーシェアリングの実証実験。9月1日から会期末まで、プロット48に一時駐車スペースを設置した。横浜美術館には既存の一時駐車スペースあり。

●みなとみらい21中央地区37街区の仮囲いデザイン

開幕前より横浜美術館とプロット48の間に位置する37街区の仮囲いに展覧会のイメージビジュアルを展開することで、まちなかに祝祭感を創出するとともに会場間の動線の目印とした。



仮囲いデザイン
撮影：加藤 甫

公式グッズ

メインビジュアルデザイナーのアーリアナ・スパニエが監修したトートバッグ、クリアファイル、ノート(5種類)の計7アイテムを製作した。

(全て税込、単位：円)	
商品名	価格
トートバッグ	1,500
クリアファイル	385
ノート(5種類)	440



05. 次世代育成

将来を担う世代を対象に参加作家などによるワークショップなどを通して現代アートの作品を体験し、異なるものの見方や解釈、多様な価値観について理解を深める機会を設けた。今回は、新型コロナウイルスの影響により、一部のプログラムは見送ることになったが、人数を制限したり、オンラインを活用したりするなど、感染防止対策を講じた上で可能な限り実現した。

●中学生プログラム

中学生、高校生を対象とした全10回、7か月にわたる長期プログラム。8月から始まった「アートを体験する編」では参加作家や専門家(青野文昭、新井卓、竹村京、広瀬浩二郎)による講義やワークショップなど、現代アートの魅力を様々な側面から体験できるプログラムを実施した。8、9月はオンラインで行い、10月からは感染症防止対策を講じた上で、美術館会場で実施した。閉幕後の11月からは「アートを伝える編」として前半で体験したアートの魅力を伝えるためのグループワークを実施し、その成果を報告した。

実施回数：10回

実施日：「アートを体験する編」8月23日、9月6日、9月20日、10月4日、10月11日、11月8日 / 「アートを伝える編」11月22日、12月13日、2021年1月31日、2月28日(全て日曜日)

参加者：17名

会場：横浜美術館(一部はオンラインで実施)

※当初予定されていた、中高生が自ら企画を手掛ける小学生向けプログラム「こども探検隊」は、新型コロナウイルスのため中止した。



●ワークショップ「さとうりさんの作品を体験しよう！」

参加作家のさとうりさんが小学校を訪問してワークショップを実施。子どもたちが実際に作家の作品に触れ、作品の工作体験も行った。実施にあたっては、時間や会場を分散し、換気を行うなど、感染防止対策を講じた。

実施日：8月25日(火)

実施校：横浜市立みなとみらい本町小学校

参加者数：同校児童 120名



●参加型アクション「エピソード06岩井優《彗星たち》」

(詳細はP.19参照)

●オンライントーク「飯川雄大の思考をつかまえる」

参加作家の飯川雄大が出品作品《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》などについて話したのち、4コマ漫画のワークショップを行い、他者の介入によって変化し、様々に解釈される作品の様子について理解を深めた。



講師：飯川雄大
聞き手：木村絵理子
日時：8月30日(日)
14:00～15:30
参加者数：36名

●横浜市芸術文化教育プラットフォーム連携プログラム

横浜市立学校に様々な芸術分野で活躍するアーティストを派遣する特別授業を行うプログラム。本展に合わせて、横浜美術館教育普及グループがコーディネーターとなり、ワークショップを実施した。

花崎 攝(「歩く」をテーマにしたワークショップ)

実施日・実施校・参加者数：9月8日(火)横浜市立菅田中学校1～3学年10名
11月16日(月)横浜市立神奈川中学校1～3学年12名

岩井 優(「考えるための表現 掃除とマスクとキャットウォーク」)

実施日・実施校・参加者数：2021年1月19日(火)、1月26日(火)、2月2日(火)
参加者数：横浜市立本郷中学校2学年141名

主催：横浜市

●ヨコハマトリエンナーレ2020と学校をつなぐオンライン鑑賞会

神奈川県内の小・中・高等学校、特別支援学校、義務教育学校の教員を対象としたオンライン鑑賞会を実施した。

実施回数：2回

実施日：8月1日(土)、8月29日(土)

参加者数：24名

●学校団体鑑賞

従来実施してきた各種団体入場について、今回は、入場制限を緩和した会期後半に学校団体のみを受け入れた。鑑賞エリアや人数、時間を限定したほか、少人数グループに分かれ、適切な距離を確保して鑑賞してもらった。

実施日：9月15日(火)、9月30日(水)、10月8日(木)
来場校数/参加者数：5校/284名



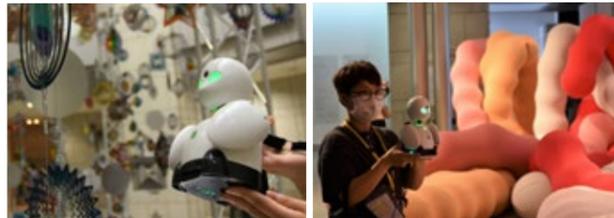
06. 社会包摂

障害の有無、年齢、国籍などの立場にかかわらず、展覧会に触れる機会を提供する取組を行った。今回は、新型コロナウイルスの影響により、オンライン上でのガイドや鑑賞会を新たに実施。来場が難しい人にも作品を鑑賞できる機会を提供した。

● 分身ロボット「OriHime」を活用した鑑賞会

身体的制約などにより外出が難しい人を対象に、分身ロボット「OriHime」を活用した鑑賞会を実施した。自宅や病院などの遠隔地から、会場にいる家族、友人等と「OriHime」を通してコミュニケーションをとり、共に作品を鑑賞できるようにした。特別支援学校等では、児童・生徒が美術の授業の一環として、教室などの遠隔で作品を鑑賞した。

実施回数：21回
実施期間：9月7日(月)～10月5日(木)
会場：横浜美術館
参加者数：138名(遠隔での鑑賞者103名、来場者35名)



● ろう者のための美術鑑賞ワークショップ

文化庁が推進する「2020年度育成×手話×芸術プロジェクト アートを通して考える2」のプログラムの一つとして、ヨコハマトリエンナーレ2020の作品について、ろう者と聴者が語り合うためのプログラム。ろう通訳(※)を加え、オンライン鑑賞と会場での鑑賞を組み合わせ実施した。※手話が第一言語のろう者が通訳すること

実施回数：2回
実施日：9月19日(土)、10月25日(日)
実施方法：オンライン、横浜美術館
対象者：高校生以上のろう者・難聴者
参加者数：12名
主催：社会福祉法人トット基金、文化庁令和2年度 障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)
共催：横浜トリエンナーレ組織委員会



● 生きづらさを抱える若者たちの自立を支援する団体との連携によるプログラム

生きづらさを抱える若者たちの自立を支援する団体K2インターナショナルと連携してプログラムを実施した。

実施回数：3回
日時：9月15日(火)(事前ガイダンス)、9月23日(水)、10月6日(火)
会場：オンライン(事前ガイダンス)、横浜美術館
参加者数：19名



● 障害者*のための入場無料制度

障害者*とその介護者1名は入場無料とした。

*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳(愛の手帳)、特定医療費(指定難病)医療受給者証、自立支援医療受給者及びこれらに類する書類の交付を受けている人

● その他の取組

- ・車椅子やベビーカー利用者のためのアクセスガイドを公式WEBサイトへ掲載(協力：車椅子の会)
- ・車椅子やベビーカー、筆談ボード、老眼鏡、杖等の備品の無料貸出
- ・字幕のない映像作品等の音声の文字情報を配備
- ・公式WEBサイト、チケット販売サイト、会場キャプションの多言語化
- ・横浜トリエンナーレサポーターによる外国語(英語、中国語)のオンラインガイド

07. 横浜トリエンナーレサポーター

市民ボランティアである横浜トリエンナーレサポーターは、会期前から、横浜トリエンナーレを応援し、ともに盛り上げることを目指して、多岐にわたる活動を展開した。新型コロナウイルス感染症の影響により、会期中に予定していた多くの活動を縮小、または中止するなど大きな制限を受けることになったが、初の試みであるオンラインを利用したガイド活動を行った。徹底した感染症防止対策を講じた上で活動を実施することで、ヨコハマトリエンナーレ2020に新たな魅力を加えた。

会期前の活動

横浜トリエンナーレの周知を図ると共に、新たな参加者の募集、サポーター意識の共有を目指し、多様な講座やイベントを開催した。また、サポーターが自ら企画を立案、運営する活動を継続的に行ったほか、市内の各種イベントでの広報活動などを実施した。(全て延数、単位：人)

活動	概要	実施回数	サポーター参加者数	一般参加者数
サポーターズサロン/サポーターズサロン・エクストラ	参加者が現代アートに関する知識を得、かつ現代アートに親しみを持つ機会を創出することを目的に、トークイベントを開催した。	計11回(2018年度)	170	90
プチトリ	身近な場所でアートの存在に触れ、現代アート作品やアートプロジェクトにより親しみを持つきっかけとなることを目指すプログラムを実施した。	計10回(2018年度)	81	4
ハマトリーツ!ステーション	「黄金町バザール2018」に合わせ、会場の一つである黄金町スタジオで横浜トリエンナーレおよびサポーター活動を紹介するパネル展示を行った。また、来場者に向けてワークショップを実施した。	2018年9月21日～10月28日	19	—
サポーター・イニシアティブ(自主活動・サークル活動)	サポーターが自ら企画を立案、運営する活動を継続的に行った。	計14回(2018～2019年度)	59	26
ガイド研修	ガイド育成を目的に、各種研修プログラムを主にオンラインで実施した。ガイドサポーター登録人数：129人 ガイダンス：2回/グループワーク(オンライン)：36回/会場下見：4回/リハーサル(オンライン)：18回/研修動画配信(オンライン)：7回 ※会期中まで継続実施(2020年2月～8月)	計67回(2019～2020年度)	—	—
その他のイベント	市内のイベントへ出展し、横浜トリエンナーレ、サポーター活動の広報活動を行うなど、活動を盛り上げた。	計2回(2018～2019年度)	—	—



サポーターズサロン「本当は怖い現代アート」の様子



プチトリ「旅トリ 水と土の芸術祭2018へ行こう!」の様子



ハマトリーツ!ステーションの様子



サポーター・イニシアティブ 料理部2020の様子



ガイド研修の様子



イベント出展(第27回大岡川桜まつり)「ヨコトリいきものずかん」ワークショップの様子

会期中の活動

ヨコハマトリエンナーレ2020のサポート活動として、サポーターの視点で展覧会や作品の見どころを紹介する「ガイド活動」、参加作家の作品制作サポートやプログラムの運営に関わる「アーティスト支援活動」、来場者に対するおもてなしや会場周辺の案内などの様々な情報を提供する「ホスピタリティサポーター活動」の実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ホスピタリティサポーター活動は中止とし、アーティスト支援活動も限定的な活動実施となった。ガイド活動は、会場内でのガイドの実施、会場へ集まったの研修プログラムの実施が難しい状況の中でも、活動方法を模索し、初めての試みとして、オンラインを利用したガイド活動と研修プログラムを実施することができた。また、横浜トリエンナーレサポーターの自主的な活動として、サポーターが自ら企画・実施するサポーター・イニシアティブを実施した。これらの活動が、展覧会に新たな視点と魅力を加え、その盛り上げにつながった。

ヨコハマトリエンナーレ2020 サポート活動

プログラム名	内容	概要	場所	実施回数	サポーター参加者数(延数)	参加者数など
ガイド活動	「オンラインガイド ココがみどころ！」交流型	ガイドサポーターが事前に申込みのあった団体・個人にオンラインで展覧会の概要、作品の見どころを紹介した。ガイドサポーター登録人数：129人(実活動人数：57人)	オンライン	92	182	845
	「オンラインガイド ココがみどころ！」配信型	ガイドサポーターが展覧会の概要、作品の見どころを紹介した動画をオンラインで配信した。	オンライン	12	12	3,871 *動画総再生数(8月23日～10月11日)
アーティスト支援	「エピソード06 岩井優《彗星たち》」清掃アクション参加	岩井優のプログラムに参加し、横浜美術館での清掃アクションを行った。	横浜美術館	10	10	—
	「エピソード06 岩井優《彗星たち》」実施サポート	本プログラム実施に向けたリハーサルに参加した。	オンライン	1	9	—

サポーター・イニシアティブ(自主活動)

- ・「時をかけるヨコハマII」：路上観察案内書の作成と会場での配架を行った。
- ・「ヨコトリ検定2020」：横浜トリエンナーレに関する知識を楽しく身につける検定の作成と会場での配架を行った。



ガイド活動「オンラインガイドココがみどころ！」交流型の様子



ガイド活動「オンラインガイドココがみどころ！」交流型の様子



ガイド活動「オンラインガイドココがみどころ！」配信型 動画



アーティスト支援「エピソード06 岩井優《彗星たち》」清掃アクションの様子



アーティスト支援「エピソード06 岩井優《彗星たち》」清掃アクションの様子



サポーター・イニシアティブ活動成果物の配架

サポーターの属性

サポーター登録人数

1,671名(2020年10月11日現在)

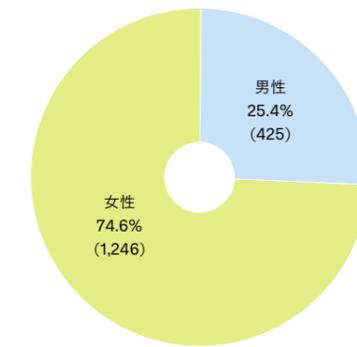
会期中活動参加人数

延べ220名(実人数：83名)

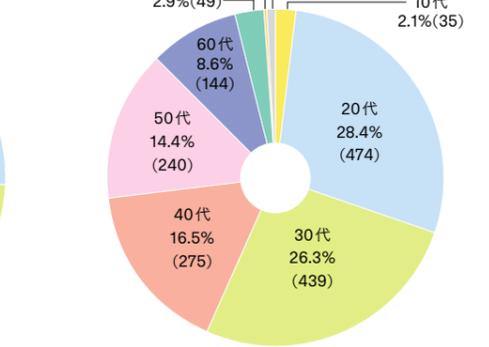
参加条件

- ・16歳以上(18歳以下は原則として保護者の承認が必要)
- ・交通費、食費は不支給

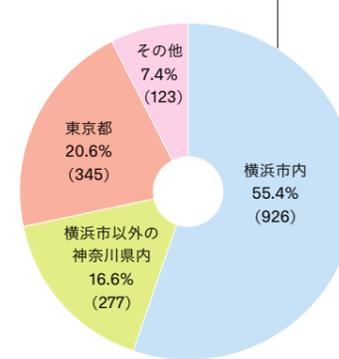
男女比



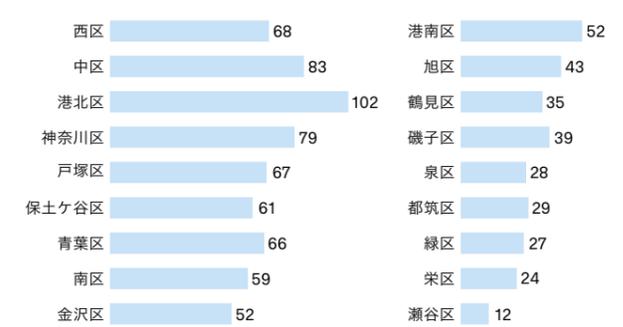
年代別人数



居住地域

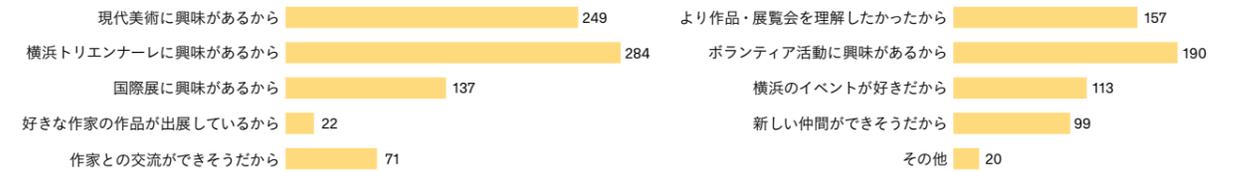


市内区の内訳



サポーター登録をした理由(複数回答可)

※2018年4月1日から2020年12月31日までに新規登録したサポーター 330名の回答



サポーターアンケートの結果

アンケート集計方法：サポーター登録者に対し、メールにてアンケートへの協力を依頼。選択式もしくは文章記入によるアンケート調査を実施した。

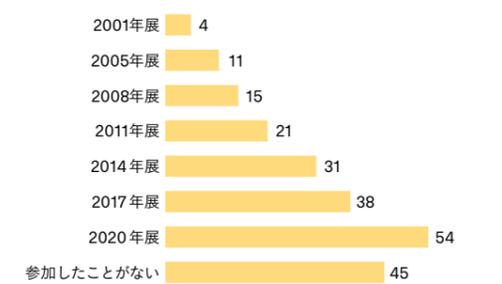
調査方法：WEBアンケートシステム「Questant」にて実施

調査対象：2020年11月12日時点、サポーターメールニュースの受信登録をしているサポーター登録者(1,268名)

集計期間：2020年11月12日～12月6日

有効回答数：98

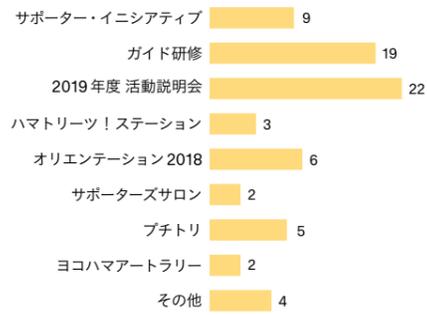
1. これまでに横浜トリエンナーレのサポーター活動に参加したことがありますか？参加した回を教えてください。(複数回答可)



2. 会期前のサポーター活動 (2018・2019年度実施)に参加しましたか？



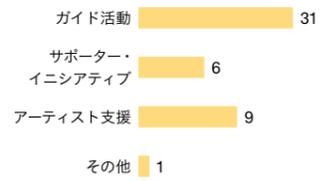
どのような活動に 参加しましたか？（複数回答可）



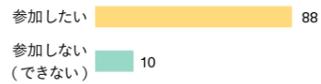
3. 会期中のサポーター活動に 参加しましたか？



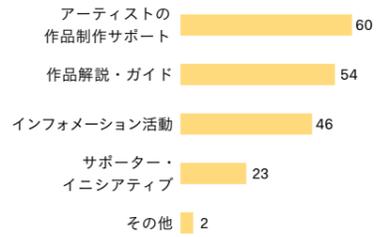
どのような活動に 参加しましたか？（複数回答可）



4. 今後もサポーター活動に 参加したいですか？



どのような活動に 参加したいですか？（複数回答可）



サポーターの声

サポーター活動全般

- ・美術館の活動に、一般の人が関わらせていただく取組は、いちアートファンとして非常にありがたいです。また、美術館が地域に開かれたコミュニティの核になり得る、貴重な活動だと思います。開催中の活動にとどまることなく、参加サポーターが色々な形でアートをきっかけに、自分のペースで自主的に動けるような、ゆるい後押し（例：近況活動紹介、交流の場など）などをしていただけると、ありがたいです。
- ・他のサポーターの方から情報を得たり、違う考え方・見方があると学んだり、楽しかったです！
- ・生まれて初めてのボランティア活動でしたが、大変貴重な体験をさせていただきました。
- ・いろんな活動やいろんな参加形態があれば良い。
- ・非常に良い学習機会を提供いただくことで、知識が増え、興味が広がるため、自分の人生を豊かにできるので、大変にありがたい。
- ・ニュースレターを読むだけでも、次はこんなことをやるんだと楽しませていただいています。
- ・作品の制作のお手伝い如果能したら嬉しいです。それを目当てに今回登録しました。コロナで思うように参加ができなかったのですが、次回以降は念願のみなとみらいの現地に行ってトリエンナーレのボランティアの一員として参加してみたいと思っています。

ガイド活動

- ・初めての取組で手探りでしたが、とても充実した内容だったと思います。
- ・オンラインでのこうした取組自体が、まず実施できてよかったです。実際の展示会場で実施するのは違い、オンラインガイドとしてサポーターの立場で実施する面白さと難しさを感じました。面白かった点は、皆さんが作品に対して凄く集中してくださった中でできたこと。一言一句もらすまいといった雰囲気が画面越しから伝わってきました。
- ・とても楽しかった。会ったこともない方に、ここまでコミュニケーションができるとは予想外だった。
- ・横浜トリエンナーレという共通の話題に、遠く離れた人たちとも繋がれるというとても有意義で素敵な時間でした。
- ・コロナ状況下でのオンラインガイドはとてもよかったです。先の見えない中、初めてのオンラインに向けて短時間のグループワークで実施できたことは素晴らしいと思いました。今後もオンラインガイドを取り入れることによって、たくさんの方々の交わりが生まれるのではないのでしょうか。

アーティスト支援

- ・岩井さんとの活動、楽しかったです。
- ・単純に楽しめました。更にこの様な企画が増えれば良いと思います。

サポーター・イニシアティブ

- ・成果物が配布されている様子を見て嬉しかった。
- ・現代アート好きな人の知り合いができて良かった。
- ・オンラインでもできることが多かった。

08. 各種連携事業

市内のアート NPO、企業、地域団体などと様々な形で連携し、文化芸術によるまちの賑わいづくりと活性化、祝祭感の醸成に寄与することを目指している。ヨコハマトリエンナーレ2020では、「チケット連携プログラム」、「連携プログラム」、「応援プログラム」、「タイアップ」を実施した。

チケット連携プログラム

「BankART Life VI」と「黄金町バザール2020」と連携するプログラム。3つの展示会に入場できる「横浜アート巡りチケット」を販売し、ヨコハマトリエンナーレ2020と一緒に横浜の現代アートシーンを楽しめるようにした。

● BankART Life VI 「都市への挿入」川俣 正

横浜トリエンナーレ2005の総合ディレクターを務めた川俣正の展示会を開催。みなとみらい線馬車道駅構内と「旧第一銀行」を活用したアートスペース BankART Temporaryの内外では、金属平版を用いた新作プロジェクトが実施された。また新高島駅地下構内のスペース BankART Stationでは、200mに及ぶ壁面に、川俣正の活動初期から現在までのプロジェクトのドローイングを展示。また2012年以降に行った日本で未発表のプロジェクト写真も展示した。

会期：9月11日（金）～10月11日（日）

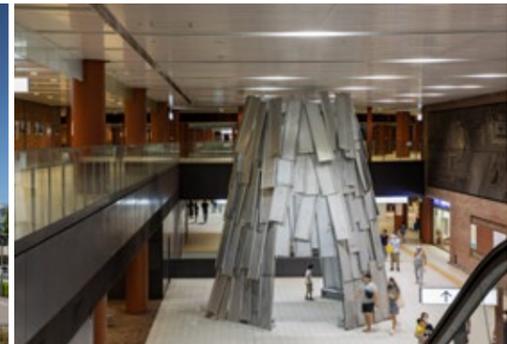
時間：11:00～19:00

会場：BankART Station、BankART Temporary、馬車道駅構内

主催：BankART1929



撮影：BankART1929



● 黄金町バザール2020ーアーティストとコミュニティ

「アーティストとコミュニティ」をテーマに、第1部は黄金町アーティスト・イン・レジデンス参加アーティストから42組、第2部は国内外のゲストアーティスト9組が、黄金町の「街」を舞台に滞在制作と作品を展示。

会期：第1部 9月11日（金）～10月11日（日）

第2部 11月6日（金）～11月29日（日）

時間：11:00～19:00

会場：京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ / 周辺のスタジオ / 地域商店 / 屋外空地ほか

主催：黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

（左）キム・ガウン《旅の途中、そのどこか》2020年 撮影：笠木靖之

（右）阿部智子《BI /OTO /P》2020年 撮影：松尾宇人



連携プログラム

創造界隈拠点および横浜市内の企業やNPOなどによる多様なアートの取組をヨコハマトリエンナーレ2020と連携して開催し、横浜のまちをもに盛り上げた。

● Creative Railway - みなとみらい線でつなげる駅アート

横浜都心臨海部を走り、駅舎自体のデザイン性が高いみなとみらい線の各駅やその周辺において、現代アートの展示・パフォーマンスを行うアートプログラムを開催。

会期：9月26日（土）～10月11日（日）

会場：みなとみらい線（新高島駅～元町・中華街駅）の駅構内及びその周辺

主催：横浜市、横浜高速鉄道株式会社、創造界隈拠点



新高島駅



日本大通り駅



元町・中華街駅

● ヨコハマ・パラトリエンナーレ「our curioCity ～好奇心、解き放つ街へ」

「障害者」と「多様な分野のプロフェッショナル」による現代アート展。
3回目の開催となる今回は、オンラインとリアルの融合による新しい形で実施。

[プレ会期] 8月24日（月）～

・「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020 公開授業」

8月24日（月）14:00～15:50 横浜市役所1Fアトリウム

・「ヨコハマ・パラトリエンナーレドキュメント展示」

8月24日（月）～8月29日（土）9:00～20:00 横浜市役所2Fプレゼンテーションスペース

・「パラトリ テレビ」

8月24日（月）～ ヨコハマ・パラトリエンナーレ公式YouTubeチャンネル

[コア会期] 11月18日（水）～11月24日（火）

会場：横浜市役所（1Fアトリウム等）、オンライン

主催：横浜ランデブープロジェクト実行委員会、NPO法人スローレーベル

● 日産アートアワード2020

「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、現代美術における優れた日本のアーティストを支援し、次世代へと続く日本の文化発展の助力になることを目指して発足した現代アートのアワード。一次選考にて選出された5人のファイナリストによる新作展を開催。

会期：8月1日（土）～9月22日（火・祝）

会場：ニッサンパビリオン（西区みなとみらい6-2-1）

主催：日産自動車株式会社

・連携パネルディスカッション

「ニューノーマルにおけるキュレーター、アーティストの新たな視点」

パネリスト：ウテ・メタ・パウアー、南條史生、ラクス・メディア・コレクティブ、蔵屋美香

開催日時：8月4日（火）19:00～20:30（オンライン開催）

共催：横浜トリエンナーレ組織委員会

特別協力：SUPER DOMMUNE



撮影：加藤 甫



連携パネルディスカッションの様子

● アート鑑賞アプリ「Public Art's Light」

みなとみらい21地区に点在するパブリックアートを楽しむためのアプリを開発。横浜美術館、プロット48、横浜駅を結ぶ地域に設置されたパブリックアートを光の破片と見立て、3本のルートを用意。街を巡りながらアートを楽しむ取組が行われた。アプリにアクセスするためのQRコード付きポストカードをヨコハマトリエンナーレ2020会場および資生堂グローバルイノベーションセンター（S/PARK）などで配布した。

実施期間：8月3日（月）～10月11日（日）

主催：株式会社野村総合研究所



● ストリートファニチャーデザインコンペティション

「まちづくりについて地域の皆様と一緒にアイデアを出し、街の活性化につなげる」を目的としたストリートファニチャーの公募展。209作品の応募から優秀賞3作品を選考し、「はじまる」をテーマに制作されたファニチャーを展示。

会期：10月1日（木）～10月11日（日）

会場：グランモール公園（横浜美術館前）

主催：ストリートファニチャーコンペ運営委員会



● アートプログラム「紙ねんどであそぼう！まんじゅうの樹」

本展参加作家さとうりさによるアートプログラムを、会場から離れた地域でも開催し現代アートの魅力を伝える取組を行った。

開催日時：[ワークショップ] 9月27日（日） 10:00～17:00

[展示] 9月27日（日）～10月11日（日）

ワークショップ参加者数：82名 完成作品数：110点

会場：並木ラボ（金沢区並木1-17-7）

主催：横浜トリエンナーレ組織委員会

共催：横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会（あしたタウンプロジェクト）



● まちにひろがるトリエンナーレ スタンプラリー

ヨコハマトリエンナーレ2020とCreative Railwayの各会場を巡って楽しむデジタルスタンプラリー「まちにひろがるトリエンナーレ スタンプラリー」を実施し、来場者の回遊を促した。

[ヨコハマトリエンナーレ2020 コース] 9月11日（金）～10月11日（日）

チェックポイント：全5箇所（横浜美術館、プロット48、BankART Life VIの会場、黄金町バザール2020会場）参加者数：延べ2,414人

[Creative Railway コース] 9月26日（土）～10月11日（日）

チェックポイント：全5箇所（新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅、日本大通り駅、元町・中華街駅）参加者数：延べ1,025人

主催：横浜トリエンナーレ組織委員会、横浜市

協力：NTT東日本



● 「BankART School 出張編」+「猫の小林さんとあそぼう！プロジェクト」

横浜都心部と金沢区のつながりを学ぶBankART Schoolの出張講座や、ヨコハマトリエンナーレ2020参加作家の飯川雄大による屋外作品の公開制作・展示など、地域住民と交流しながら実施した。

・BankART School出張編「金沢区とみなとみらい」

開催日：2019年11月20日（水）、11月30日（土）、12月19日（木）、2020年1月11日（土）、1月25日（土）

会場：BankART Station、横浜市立大学金沢八景キャンパス、並木ラボ、金沢八景駅周辺

・ワークショップ「猫の小林さんの庭づくり」

開催日：2019年12月8日（日）

会場：並木ラボ（金沢区並木1-17-7）

・公開制作・屋外展示《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》

開催日：1月22日（水）～3月1日（日）

会場：並木クリニック（金沢区並木2-9-4）

主催：YOKOHAMA AIR ACT実行委員会（BankART1929+黄金町エリアマネジメントセンター）

助成：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市

協力：横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会（あしたタウンプロジェクト）



飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》2020年 撮影：阪中隆文

応援プログラム

ヨコハマトリエンナーレ2020と一緒に文化・芸術活動の魅力を伝え、横浜のまちを盛り上げてくださるイベントを「応援プログラム」として募集し、相互広報協力を実施した。(56プログラム)

	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
1	Spring Live 2020 Revenge	音楽	7月26日(日)	日ノ出町シャノール	ミュージアムポートボカール教室	40名
2	プラストファンクラブ多世代交流音楽ワークショップ	音楽	6月27日(日)、7月5日(日)、8月23日(日)、9月6日(日)、9月20日(日)	金沢公会堂 多目的室	プラストファンクラブ	66名
3	迷宮の悪夢 川口絵里衣・北本晶子2人展	美術	7月1日(水)~7月12日(日)	gallery fu (ギャラリー・フー)	gallery fu	96名
4	海老塚耕一 漂う水床から一朝の深い休息	美術	7月21日(火)~8月2日(日)	gallery fu (ギャラリー・フー)	gallery fu	114名
5	大森博之 彫刻の肉欲 / 眠れる美女	美術	8月18日(火)~8月30日(日)	gallery fu (ギャラリー・フー)	gallery fu	95名
6	作間敏宏 colony	美術	9月4日(金)~9月20日(日)	gallery fu (ギャラリー・フー)	gallery fu	79名
7	galleryfu7周年記念 七つの星	美術	9月25日(金)~10月11日(日)	gallery fu (ギャラリー・フー)	gallery fu	102名
8	ときいろ展2020	美術	9月19日(土)~9月27日(日)	art gallery, on the wind	art gallery, on the wind	30名
9	ハタステージングオフィス 朗読シアター 「月待村」	演劇	9月19日(土)から配信	オンライン	ハタステージングオフィス	視聴回数 32回
10	川久保ジョイ展、月夜の海の夢をみた。(写真展)	美術	7月8日(水)~7月14日(火)	横浜高島屋7階 美術画廊	横浜高島屋美術部	約300名
11	バンクシー展 天才か反逆者か	美術	3月15日(土)~9月27日(日)	アソビル	BANKSY-GENIUS OR VANDAL ? -製作委員会	非公開
12	新・今日の作家展 2020 再生の空間	美術	9月22日(火・祝)~10月11日(日)	横浜市民ギャラリー 展示室1・B1	横浜市民ギャラリー (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	3,006名
13	涼を愛でる vol.7 一結・編・織	美術	6月29日(月)~7月17日(金)	f.e.i art gallery	f.e.i art gallery	205名
14	第8回 FEI PRINT AWARD 準大賞者展「松村誠一展」	美術	9月2日(水)~9月15日(火)	f.e.i art gallery	f.e.i art gallery	101名
15	第8回 FEI PRINT AWARD 準大賞者展 白木原麻紀展 銅版画展	美術	9月17日(木)~10月2日(金)	f.e.i art gallery	f.e.i art gallery	77名
16	井上絢子『すべてのひとひら』	美術	10月1日(木)~10月11日(日)	GALERIE PARIS	有限会社ラ・ギャラリー・パリ	130名
17	フランシス真悟「Shining Star: perception of light」	美術	7月3日(金)~8月7日(土)	GALERIE PARIS	有限会社ラ・ギャラリー・パリ	210名
18	新たなる地球星を紡ごう 光の生命の樹植樹祭	美術	10月10日(土)	オンライン	光りの生命の樹植樹祭実行委員会	29名
19	日本大好きプロジェクトによる伝統文化体験ワークショップ	その他	9月19日(土)	オンライン	横浜市大倉山記念館	視聴回数 108回
20	FOOD&TIME ISETAN YOKOHAMA ART AWARD 2020	美術	9月10日(木)~10月11日(日)	FOOD&TIME ISETAN YOKOHAMA 入口横ウィンドウ、施設内	株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン	特設ページビュー数1,471
21	あざみ野ファミリーワークショップ カラーテープでおえかきしよう!!	美術	7月31日(金)、8月1日(土)、8月2日(日)、8月8日(土)、8月9日(日)、8月10日(月・祝)	横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	30組179名
22	あざみ野コンテンポラリー vol.11 関川航平 今日	美術・その他	10月10日(土)~11月1日(日)	横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	1,183名

	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
23	碗琴道	美術・音楽	7月1日(水)~10月11日(日)	メイン会場 room dの3 (ハツネウイング) その他、野外各所	安部寿紗	ライブ配信鑑賞人数 毎回平均 5~10名
24	PSYCH POP PORTRAITS	美術	8月21日(金)~8月31日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	40名
25	関かつみ 初・個展 Kazumi Seki First Solo Exhibition - とりあえずここまでやってきてみた -	美術	9月4日(金)~9月14日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	60名
26	大きな人が4日 × 2週絵を描く間	美術	9月18日(金)~9月28日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	38名
27	「聞き写し、春日」	美術	10月2日(金)~10月12日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	57名
28	第7回ちぐさ賞本選選考ライブ	音楽	10月4日(日)	関内ホール 小ホール	一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館	134名
29	吉田有紀個展「カオスとコスモス」	美術	7月26日(日)~8月2日(日)	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	吉田有紀	196名
30	ビッグマリオン人形展2020	美術	8月5日(水)~8月16日(日)	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	ドールスペースビッグマリオン	1,248名
31	第9回 FEI PRINT AWARD 入選作品展	美術	9月8日(火)~9月20日(日)	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	257名
32	2020 台湾×日本現代漆芸 創作交流展	美術	9月29日(火)~10月18日(日)	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	FEI ART MUSEUM YOKOHAMA	300名
33	光のインスタレーション展示 シマノ聖子 Blue It Light -	美術	9月30日(水)~10月2日(金)	エリスマン邸 地下	グラスサラ	約40~50名
34	アート寺子屋~舞台編 夏休み・親子ホール探検ツアー	その他	8月15日(土)	横浜市吉野町市民プラザ 4階 ホール	横浜市吉野町市民プラザ (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	9組 21名
35	アート寺子屋~夏休み工作ワークショップ 「光のオブジェをつくろう!」	美術	8月15日(土)	横浜市吉野町市民プラザ 2階ギャラリー	横浜市吉野町市民プラザ (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	ワークショップ 18名 展示 307名
36	サルビアホール 現代美術展「ザ・マ スクウーメン」 金藤みなみ 個展	美術	8月3日(月)~8月10日(月・祝)	鶴見区民文化センター サルビアホール 3F ギャラリー	鶴見区民文化センター サルビアホール	132名
37	KANACKの芸術のすすめ! ~現代アートを楽しむ~	映像	7月24日(金・祝)~	オンライン	かなっくホール YouTube チャンネル	視聴回数61回
38	アート in ヨコハマ 2020	美術・映像	8月3日(月)~12月31日(木)	オンライン	Gallery p_prince collection	約1,000名
39	星の王子さま Le Petit Prince 企画展	美術	10月1日(木)~12月31日(木)	オンライン	Gallery p_prince collection	約1,500名
40	アート・フォー・コミュニティ~アートが人と地域コミュニティをつなぐためのステップ事業~	音楽	7月1日(水)~1月31日(日)	横浜市麦田地域ケアプラザ	NPO法人あっちこっち	700名
41	カドベヤ・オープンDAY一つどお う・かたろう・つなごろう	その他	7月1日(水)~1月31日(日)	レンタルスペース「カドベヤ」	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会	270名
42	ことぶき「てがみ」プロジェクト	演劇	7月1日(水)~1月31日(日)	横浜市寿町健康福祉交流センター	ことぶき「てがみ」プロジェクト実行委員会	473名
43	性暴力サバイバー ビジュアルボイス	写真	7月11日(土)~12月12日(土)	男女共同参画センター 横浜北アートフォーラムあざみ野	STAND Still	70名
44	広げよう! 深めよう!! 水彩でアートの輪!!!	美術	8月1日(土)~11月22日(日)	神奈川県民ホール ギャラリー	蒼昊美術會	930名
45	Picture This 2020 : 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト	写真	7月5日(日)~1月28日(木)	象の鼻テラス	Picture This Japan	5,000名
46	未来に繋ごう、皆んなの!! 横浜の!! 歴史・文化・芸術!! ~朽ちていく、再生、修復~	美術	7月26日(日)~11月3日(火・祝)	yamanoue	特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜	40名
47	「街のはなし」	その他	7月15日(水)~1月31日(日)	美しが丘中部自治会館	「街のはなし」実行委員会	144名

	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
48	ロケ地で映画を鑑賞しよう！！聖地巡礼上映会『1999年の夏休み』in大倉山記念館(港北区)&『風のある道』in神奈川県立音楽堂(西区)	映画	8月1日(土)～10月31日(土)	大倉山記念館	横浜キネマ倶楽部	316名
49	こころに響く打楽器作っちゃお♪	音楽	9月6日(日)～1月29日(金)	横浜市新山下地域ケアプラザ	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと	1,110名
50	若葉町ウォーフ「まちなかギャラリー2020」	美術	7月6日(月)～12月22日(火)	若葉町ウォーフ	一般社団法人横浜若葉町計画	516名
51	太田泰友作品展「Imagine something to be a book」	美術	8月4日(火)～11月29日(日)	セゾンアートショップ	セゾンアートショップ	3,709名
52	あざみ野カレッジ ヨコハマトリエンナーレ2020 連携企画 飯山由貴「見えにくい、聞こえにくい、たしかな経験」	美術	9月19日(土)	横浜市民ギャラリーあざみ野 3階アトリエ	横浜市民ギャラリーあざみ野(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	29名
53	LOVE YOKOHAMA～アートのある暮らし～	美術・その他	9月23日(水)～10月6日(火)	横浜高島屋各階	株式会社高島屋 横浜店	松崎和実公開制作イベント実施時 観客数 700名
54	ぼくのわたしのおえかきあそび！	美術	8月29日(土)～9月30日(水)	オンライン	横浜市岩間市民プラザ(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)	視聴回数170回
55	LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA～アートを通してグローバル思考を育むプログラム～	美術	7月18日(土)～1月30日(土)	象の鼻テラス	LITTLE ARTISTS LEAGUE	561名
56	子どもによるオペラ衣装デザインプロジェクト	美術・音楽・映像・その他	9月1日(火)～	オンライン	子どもによるオペラ衣装デザインプロジェクト実行委員会	ページビュー数 350



© SEIKO Shimano



50 まちなかギャラリー 『とまどいの壁』



12「新・今日の作家展 2020 再生の空間」山口啓介 作品展示風景 Photo: Ken KATO



タイアップ

会場周辺の商業施設やホテル、レストラン等の協力を得て、ヨコハマトリエンナーレ 2020 のチケット提示による割引・特典サービスや、オリジナルメニュー、オリジナルグッズを提供。(12件)

チケット特典 (割引、ギフトプレゼント) タイアップ先

CIAL 桜木町、マークイズみなとみらい、ランドマークプラザ、キタムラ (ランドマーク店、CIAL 桜木町店)、ホテルニューグランド (宿泊、レストラン)、ニューオータニ横浜プレミアム (レストラン)、横浜ロイヤルパークホテル (レストラン)

限定メニュー内容

AMALFI CAFFE



Café 小倉山



ホテルニューグランド



BUKATSUDO



横浜ロイヤルパークホテル



タイアップグッズ

タイアップグッズの製作を市内企業から広く募り、2社が参加。ヨコハマトリエンナーレ 2020 のロゴをあしらったタイアップグッズ5品7種類が製作され、横浜美術館ミュージアムショップ及びプロット48ショップにて販売した。

株式会社ワンスレッド

(全て税込、単位：円)

商品名	価格
ミニ靴べら	880
マネークリップ	880
プレートタグ	660
抗菌マスク (3種類)	1,320



アスカコヤマックス株式会社

(全て税込、単位：円)

商品名	価格
ボトルアイスコーヒー	594



クリエイターグッズ

横浜にゆかりのあるデザイナーやクリエイター 45組による136アイテムのクリエイターグッズをプロット48ショップを中心に販売した。

(全て税込、単位：円)

商品NO.	商品名	出品者	価格
1	CUUBOOK	相澤事務所 相澤幸彦・永田千奈	1,100
2	ハーバーテイル レンガ君クッキー		432
3	ハーバーテイル レンガ君シール		308
4	ハーバーテイル レンガ君ラバストラップ		550
5	ハーバーテイル カモメのオーシャンラバストラップ		550
6	ハーバーテイル ガムテープ		880
7	ハーバーテイル 缶バッジ	アイトゥーン 伊藤有恋	330
8	ハーバーテイル Tシャツ 紺色 各サイズ		3,300
9	ハーバーテイル Tシャツ 茶色 各サイズ		3,300
10	ハーバーテイル アートプリント 各種		1,100
11	ハーバーテイル DVD		1,320
12	ハーバーテイル 絵本		1,430
13	黄金町界隈ストリートキャット&バッジ	秋山直子	495
14	アベンチュリンマーキス ピアス		5,500
15	水晶ピアス	atelier045 ワタナベジュンコ	5,500
16	ローズクォーツピアス		5,500
17	カトラリーのような箸 STIICK	kad ltd. 天野和俊	3,300
18	横浜ナポリタンレトルトソース		398
19	イクタケマコト×共和レザー コインケース		2,200
20	イクタケマコト×共和レザー カードケース		2,200
21	イクタケマコト×共和レザー コースター		550
22	イクタケマコト×共和レザー コースター ネコ	イクタケマコト	550
23	イクタケマコト×共和レザー お腹さすずすマウスパッド		1,320
24	イクタケマコト×共和レザー ペンケース		2,200
25	イクタケマコト×共和レザー トートバッグ小		2,700
26	イクタケマコト×共和レザー トートバッグ大		3,300
27	グラノーラ みなとみらい		518
28	グラノーラ 中華街	イートリート 板垣香織	518
29	グラノーラ 赤れんが		518
30	KIMONOFUKU 半袖+おつかいサコッシュ		26,400
31	KIMONOFUKU 長袖	un:ten 伊東純子	26,400
32	KIMONOFUKU バイアストップス		25,300
33	Blister Clock M		3,080
34	Blister Clock S		2,640
35	Blister Frame L版	texi	1,650
36	Blister Frame KG版	伊東祥次	1,650
37	Blister Mirror		2,640
38	ボタンホールエプロン		2,200
39	打紐 マリンピアス 朝	イノウエ 井上 毅・宮澤千鶴	3,300
40	打紐 マリンピアス タ		3,300
41	HAND Tシャツ Sサイズ		5,280
42	HAND Tシャツ Mサイズ		5,280
43	HAND Tシャツ Lサイズ		5,280
44	HAND Tシャツ WMサイズ		5,280
45	HAND Tシャツ WLサイズ	inink 井上 薫	5,280
46	CLIP Tシャツ S		5,280
47	CLIP Tシャツ M		5,280
48	CLIP Tシャツ L		5,280
49	CLIP Tシャツ WM		5,280
50	CLIP Tシャツ WL		5,280



1



15



17



20



27, 28, 29



31

	商品NO.	商品名	出品者	価格
12	51	ハート型 カラフルペンダント	工房IKKO	3,300
	52	丸型 カラフルペンダント	今井郁子	2,750
13	53	piece of plywood_ドライフラワーベース	Flange plywood	6,050
	54	CARD STAND	上田剛央	770
14	55	丸形トートバッグ		9,790
	56	エナメル小物入れ	OdiOdi	3,740
	57	マスク Mサイズ	小池佐季子・室賀 ゆり子	1,650
	58	マスク Lサイズ		1,760
15	59	Hama Boom Boom! はちみつキャンディ	オルト都市環境研究所	432
	60	Hama Boom Boom! はちみつフィナンシェ	岡田信行	702
16	61	ボタニカルキャンドル	Casa de Luz	2,860
	62	天然香のワックスサシェ	高野寧子	1,320
17	63	TODOROKI KIDS Cable Man	かながわデザイン機構	2,750
	64	TODOROKI KIDS Cable Man Jr	柏原政彦	2,530
	65	ボムとボアルの横浜探訪 ポストカード		220
18	66	ボムとボアルの横浜探訪 ポストカードセット	金久 華	2,640
	67	ボムとボアルの横浜探訪 マスキングテープ		660
19	68	横浜しびれるジャン	刈谷 威・刈谷真由美	853
	69	横浜ローズ茶		810
20	70	ハマまちTシャツ みなとみらい	刈谷真由美	3,300
	71	ittayo 組紐ブレスレット3本セット みなとみらい		2,750
	72	ittayo 組紐ブレスレット3本セット 横浜中華街	KOZAKIKAKU	2,750
	73	ittayo 組紐ピアス みなとみらい	小崎直利	3,300
	74	ittayo 組紐ピアス 横浜中華街		3,300
22	75	飾りじゃない、輝きは。ガラスピンのアイスコーヒー	アスカコヤマックス 小山飛鳥	594
	76	éclair ベンケース		6,950
23	77	Carte de visite 名刺入れ	A.M.	8,500
	78	macaron コインケース	佐藤大気・福田泰士	6,700
	79	sac de messenger メッセンジャーバッグ		25,000
24	80	ポストカード「神奈川のクリエイター30人」	JAGDA 神奈川	330
	81	ポストカードセット「神奈川のクリエイター30人」	渡邊 栄	3,300
25	82	パッチワークメタルブローチ	かながわデザイン機構	4,180
	83	パッチワークメタルリング	菅原美佐子	3,300
26	84	Bucket Carrying Bag	横浜帆布鞆 鈴木幸生	9,350
	85	はま太郎 16号		1,760
27	86	横浜市民酒場グルリと	星羊社	1,650
	87	のげやまくんとくま	星山健太郎	1,222
28	88	横浜絵はがき 1枚		250
	89	横浜絵はがき 5枚セット	関 直美	1,100
	90	かつウォッチャ		540
29	91	横浜下町てぬくい	トビラちゃんカンパニー	1,100
	92	大岡川ネコクラゲ	竹本真紀	1,100
30	93	コンフィチュール	旅するコンフィチュール 遠 克美	810
31	94	横浜グリーンカレー	よこはまグリーンピース 橋 直樹	540
32	95	陶器のボタン 2個		1,320
	96	陶器のボタン 7個	堀 ゆめ子	1,760
	97	石ころポシェット		17,600
33	98	袋菓ベンケース	tete	6,050
	99	袋菓ポーチ M	古田佐和子	7,150
34	100	月曜日のレジャーシート Monday Picnic Sheet	ポイズ 岡部正裕・及位友美	917
35	101	ジュエリーロック	045トータルデザインワー クス 松井社介・松井友美	1,650
36	102	デンゴドリ	tentline 松井理美子	1,100



52



58



69



78



81



84



88



95

	商品NO.	商品名	出品者	価格
37	103	モビール 4cats		1,800
	104	モビール bird bird bird	PUKAPUKA	1,500
	105	モビール hikari	山口みつ子	2,300
	106	カードモビール LIGHT&PEACE		800
38	107	ヒカリのカタチ ブローチ		1,980
	108	ヒカリのカタチ ピアス	山本貴美子	2,200
	109	ヒカリのカタチ イヤリング		2,200
	110	ラスターカップ		6,600
	111	懐紙入れ多包み 書道		2,640
	112	懐紙入れ多包み 武士道		2,640
	113	懐紙入れ多包み 茶道		2,640
39	114	Washi犬 シバイヌ		880
	115	Washi犬 ゴールデントリバー	テイ・デイ・エス Re+g	880
	116	Washi犬 コーギー		880
	117	Washi犬 ブードル		880
	118	Washi犬 ダックスフント		880
	119	Washi犬 テリア		880
40	120	一輪花 ショルダーバッグ	RED Profile	4,180
	121	一輪花 ショルダーバッグ ミニ	嶋山文香	3,850
41	122	OFFBEATレコードスリーブ4枚 vol.1	光画コミュニケーション P	880
	123	OFFBEATレコードスリーブ4枚 vol.2	rota reno	880
	124	マンホールプレートベイブリッジL		3,850
	125	マンホールプレートベイブリッジS		2,200
42	126	マンホールプレートポートオブヨコハマL	豊住曲碯子	3,850
	127	マンホールプレートポートオブヨコハマS	豊住雅章・豊住英章	2,200
	128	マンホールプレートスタンドL		550
	129	マンホールプレートスタンドS		550
43	130	トラベルカードみなとみらい	ファブラボベーク馬車道 梅澤陽明	660
	131	横浜開港160年記念フォトブック		2,200
44	132	森日出夫 記憶の記録	アマノスタジオ	5,500
	133	SCENERY of Yokohama 3	森 日出夫	4,180
	134	森日出夫カレンダー 2021		1,320
45	135	橋のヘアクリップブローチ	pipi-goldfish	2,530
	136	橋のヘアゴム	近 あづき	1,430

105



107, 108, 110



120



130



09. 広報・プロモーション

幅広い層に対して展覧会を周知するために、美術専門から一般メディアまで広く網羅した情報発信に加えて、即時性の高いデジタルメディアを活用して、多様なアプローチを行った。

パブリシティでは、美術専門媒体に対してアーティストック・ディレクターの考える展覧会コンセプトについて丁寧に説明する機会を設けた。その中で注目されたアートの予見性がとりわけ新聞の文化部記者の関心を引き、内容を深く掘り下げる密度の高い露出を獲得した。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で移動やイベント開催の制約を受け、「おでかけ」や「カルチャー」といった専門分野外の露出は減少した。

制作物では、イメージビジュアル制作に海外のデザイナーを起用し、カラースペクトラムを基本に複数のパターンを用意した。チラシやポスター、WEB、屋外バナーなど媒体に応じたバリエーションを展開し、展覧会イメージを浸透させた。プロモーションでは、デジタル広告やオンラインコンテンツも積極的に活用し、デジタルメディアやツールを使った広報・プロモーションの可能性を広げることができた。

パブリシティ

記者会見

2019年11月の記者会見は、ADの提案で会期という制約から自由に、ヨコハマトリエンナーレ2020の始まりを告げる「エピソード」の一環としてのパフォーマンスイベントを実施。2020年6月3日の市長定例記者会見に逢坂・蔵屋両副委員長が同席し、開幕の2週間の延期を発表した。感染拡大防止のため、6月22日はオンラインによる会見、7月16日は座席数を限定して実施するとともにオンライン配信も行なった。

日時	会場	内容	出席人数
エピソード00 「ソースの共有」 2019年11月29日(金) 14:00~18:00	プロット48 (みなとみらい21中央地区48街区)	【発表内容】 ソースの共有を目的としたパフォーマンスやレクチャー(その中でADがタイトル・コンセプトを説明)。タイトル、コンセプト、第1弾作家発表。 【出演者・登壇者】 ラクス・メディア・コレクティブ 新宅加奈子、田村友一郎、西岡 愛(朗読)、イヴァナ・フランケ、ランティアン・シエ、イシャム・ベラダ、小松千倫(音楽)	52
第2回 6月22日(月) 14:00~15:00	横浜美術館 カフェ小倉山より中継	【発表内容】 ヨコハマトリエンナーレ2020 展覧会概要、参加作家を発表、新型コロナウイルス感染症対策について 【登壇者】 ラクス・メディア・コレクティブ(ビデオメッセージ出演) 逢坂恵理子、蔵屋美香、松元公良、帆足亜紀(司会)	124 (視聴数)
第3回 7月16日(木) 14:30~15:30	横浜ランドマークホール/ 横浜美術館レクチャーホール (サテライト会場)	【発表内容】 開幕に向けての挨拶、展覧会紹介、参加作家紹介、フォトセッション 【登壇者】 林 文子、近藤誠一 逢坂恵理子、蔵屋美香 ラクス・メディア・コレクティブ(オンライン出演) 木村絵理子 日本在住の参加作家(11名) 青野文昭、新井 卓、飯川雄大、飯山由貴、岩井 優、エレナ・ノックス、さとうりさ、新宅加奈子、竹村 京、田村友一郎、デニス・タン	88 (サテライト会場含む) 676 (視聴数、一般含む)



エピソード00「ソースの共有」
撮影：加藤 甫



第2回記者会見(オンライン中継の様子)



第3回記者会見
撮影：加藤 甫

プレスリリース

メールもしくはFAXでプレスリリースを配信。配信実績は、日本語プレスリリース計40回、英語プレスメール計11回。

	配信日	リリースタイトル
1	2018年 11月21日	「ヨコハマ アートラリー アートと笑いの境界線」出演：しりあがり寿、会田誠、ジャルジャル、千葉徹也、倉本美津留ほか
2	11月29日	ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティストック・ディレクター ラクス・メディア・コレクティブに決定
3	2019年 1月23日	ラクス・メディア・コレクティブが登壇 講座「国際展をキュレーションすること」2/20開催
4	7月2日	ヨコトリ2020 会期・会場が決定 2020年7月3日(金)~10月11日(日) 横浜美術館、プロット48にて開催
5	11月8日	プレイベント「エピソード00 ソースの共有」2019年11月30日(土)プロット48にて開催
6	11月29日	タイトル、コンセプト、第1弾参加アーティストを発表
7	12月2日	[開催報告]プレイベント「エピソード00 ソースの共有」を実施 ラクスが「ソース」を公開
8	12月4日	展覧会の「ガイドサポーター」を募集
9	2020年 2月27日	市民と共につくるヨコハマトリエンナーレ2020 「ホスピタリティサポーター」を先着で募集
10	3月12日	横浜の文化・芸術活動の魅力を発信！ヨコトリ期間中に開催される文化イベントを募集します
11	4月2日	「中高生プログラム」参加者募集開始
12	6月3日	ヨコハマトリエンナーレ2020 7月17日(金)に開幕
13	6月22日	いま、世界に伝えたい5つのキーワード「独学」「発光」「友情」「ケア」「毒」6/23(火)からオンラインチケットを販売
14	6月23日	「ヨコトリ2020」「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」を楽しむ 横浜アート巡りチケット 本日発売
15	6月24日	アーティスト 岩井 優が新作《彗星たち》を制作 参加者を募集
16	7月3日	ヨコハマトリエンナーレ2020のデジタル空間エピソードX 7月3日(金)から始動
17	7月6日	「応援プログラム」ヨコトリ期間中に開催される文化イベント 第一次参加団体公表、9月18日まで追加募集中
18	7月8日	アーティスト 飯川雄大による オンライン・トーク参加者募集
19	7月9日	クリエイターグッズ・ショップ 7月17日にオープン
20	7月13日	ヨコハマトリエンナーレ2020 公式グッズを発売
21	7月16日	明日、7月17日(金)開幕
22	7月21日	日産アートアワード×ヨコハマトリエンナーレ オンライン・イベント開催 ニューノーマルにおけるキュレーター、アーティストの新たな視点
23	7月31日	「Public Art's Light」「日産アートアワード2020」がスタート
24	8月18日	初めての方にもわかりやすい 鑑賞支援ツールを制作「いっしょに歩くヨコハマトリエンナーレ2020ガイド」
25	8月20日	エピソード05「SURE INN」
26	8月21日	市民サポーターによる「オンラインガイド」本日8/21(金)からスタート
27	8月21日	Creative Railway - みなとみらい線つながる駅アート〜現代アートのラッピング電車を特別運行〜
28	8月24日	分身ロボット「OriHime」を用いたヨコハマトリエンナーレ2020鑑賞会を9/9から実施 希望者を募集
29	8月26日	ろう者のための美術鑑賞ワークショップ「現代アートを知ろう！語ろう！」参加者募集
30	9月3日	体操選手によるパフォーマンスを公開 タウス・マハチェヴァ《目標の定量的無限性》
31	9月8日	デジタルスタンプラリーでアートを楽しもう まちにひろがるトリエンナーレスタンプラリー
32	9月15日	エピソード07「サウンド・リーズン」
33	9月18日	アートプログラム「まんじゅうの樹」
34	9月24日	ヨコハマトリエンナーレ2020が自宅で楽しめる「バーチャルツアー」9月24日から無料公開
35	9月29日	ヨコハマトリエンナーレ2020 夜間開館を実施
36	9月30日	エピソード08《舎密/The Story of C》
37	10月2日	PUGMENTによるアートプロジェクト インスタグラムで参加呼びかけ《ワードローブ・ディスカッション(討議する衣装)》
38	10月6日	ヨコハマトリエンナーレ2020 10月11日(日)に閉幕 10/10、11はパフォーマンス、ライブ配信、夜間開館を実施
39	10月7日	エピソード10「問質」アーティストによるプレゼンテーション
40	10月12日	ヨコハマトリエンナーレ2020が閉幕「世界は変わり、誰もが大切な存在になった」ラクス・メディア・コレクティブ

露出件数

【補足】 広告換算額：国内・海外あわせて約 50.9 億円（詳細は P.74 参照）

国内媒体の露出件数一覧表（2018年11月～2021年1月）

国内	テレビ		ラジオ	新聞	雑誌・書籍	フリーペーパー	WEB	合計
	地上波	CATV						
2018年11月～2020年6月	8	84	6	41	41	25	742	947
2020年7月	4	7	16	56	13	14	561	671
2020年8月	7	234	3	37	17	8	443	749
2020年9月	4	13	5	35	16	13	807	893
2020年10月	0	0	6	45	7	4	311	373
2020年11月～2021年1月	1	0	0	78	3	3	263	348
計	24	338	36	292	97	67	3127	3981

海外媒体の露出件数一覧表（2018年11月～2021年1月）

海外	テレビ	新聞	雑誌	フリーペーパー	WEB	合計	国・地域	件数（計）
2018年11月～2020年6月	0	0	2	0	76	78	中国	20
2020年7月	0	0	4	0	62	66	台湾	32
2020年8月	0	1	5	0	33	39	韓国	14
2020年9月	0	0	2	0	23	25	その他アジア	38
2020年10月	0	0	2	0	12	14	中東	10
2020年11月～2021年1月	0	2	7	0	26	35	欧州	58
計	0	3	22	0	232	257	米州	31
							オセアニア	5
							その他	49
							合計	257

各媒体での露出傾向（国内・海外）

テレビ

NHK「ごごナマ（おうちでミュージアムコーナー）」NHK「ひるまほっと」では、普段美術に接する機会の少ない視聴者に向けて、キュレーターによる作品説明を交えて展覧会が取り上げられた。NHK「日曜美術館」本編やテレビ神奈川「ハマナビ」では、来場したゲストが体験型作品に触れたり、ワークショップに参加する様子を交えて展覧会のキーワードが詳しく紹介された。NHK「首都圏ネットワーク」では社会包摂事業が、ケーブルテレビでは子ども向けワークショップが取り上げられ、地域社会とも関わりのある事業であることが示された。

ラジオ

NHK横浜放送局「はま☆キラ」、FMヨコハマ「Lovely Day」では、キュレーターらが出演し展覧会の見どころを紹介。ラジオ日本、FMヨコハマでは、横浜市担当職員が展覧会概要や感染症対策について説明した。

新聞

『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』『日経新聞』『産経新聞』の各紙で、コロナ禍の状況と展覧会のテーマの一つである「毒」を結びつけた記事が掲載され、読者にADのコンセプトをよりわかりやすく発信する機会となった。各紙神奈川版および『神奈川新聞』では、参加作家へのインタビュー、鑑賞サポート事業、小学校のワークショップ、コロナに留意した会場運営など幅広く活動が取り上げられ、地元・横浜に特化した活動紹介もあった。『共同通信』の展覧会告知のプレゼント企画は、全国から6500通を超える応募があり、来場が困難な人々に横浜トリエンナーレを身近に感じてもらう機会をつくることができた。

雑誌・フリーペーパー

『美術手帖』では、第6回展コ・ディレクターの三木あき子氏によるADへのインタビュー記事が掲載され、日本の美術ファンに対して、展覧会のコンセプトをわかりやすく解説し、横浜トリエンナーレ事業を強く印象づけることができた。女性誌『SPUR』『madame FIGARO japon』では参加作家らが、『BRUTUS』『OZ magazine』ではキュレーターらもインタビューに応え、積極的な露出を行なった。コロナの影響により媒体自体の発行が取りやめになったり、延期になったものもあった。

インターネットメディア

『美術手帖WEB』の展覧会レポートやキュレーターへの特別インタビュー記事、『ART iT』のフォトツアー、『artscape』のOriHime鑑賞会レポートなど、美術ファンに対し訴求力のある記事が掲載された。『CINRA』とのタイアップでは、ミュージシャン、DJ、文筆家ら著名人が展覧会を鑑賞した感想や自らの経験や活動を振り返るレポートを掲載し、カルチャー層に対して積極的に露出を行った。ももいろクローバーZが展覧会を紹介する動画配信サイトでも取り上げられ、横浜トリエンナーレの認知を広げる機会となった。また、新聞、雑誌、フリーペーパーのデジタル配信による露出もあった。

海外

『New York Times』『Indian Express』などでADがインタビューに応え、海外発信の原動力となった。『Art Review Asia』『Flash Art』『ART AGENDA』などでは、海外プレスの来日はなかったものの日本在住ライターの取材によってコロナの中で開幕した大型国際展として展覧会レビューがスペースを大きく割いて掲載され、注目を集めた。

制作物

チラシ、ポスター、WEBサイト、ロゴなど広報制作物の作成にあたり、様々なデザインの可能性を探るためコンペを行い、メインデザイナーを選出した。その結果、横浜トリエンナーレとして初めての海外デザイナー、アリアナ・スパニエを起用することとなった。デザインには、展覧会のキーワードに用いられた「光」「毒性」「共生」「時間の経過」を反映した。紙媒体だけでなくデジタルメディアにも広く活用することを想定し、複数のグラデーションのパターンを用意し、また、グラデーションが変化する動画も制作した。

デザイナー アリアナ・スパニエ (Ariane Spanier Design) 略歴

ベルリンを拠点にグラフィックデザインとアートディレクションを行う。本、ポスターといった印刷物に加えて、動画やアニメーションも手掛ける。第11回上海ビエンナーレ（2016年）メインデザインを担当。

チラシ、ロゴなど



（表面）



（裏面）



ヨコハマトリエンナーレ2020
イメージビジュアル



ロゴデザイン



（中面）

展覧会チラシ（A3 二つ折り）：2020年6月配布開始

特設WEBサイト

2019年11月8日にティザーサイト、2019年11月29日に「ヨコハマトリエンナーレ2020特設WEBサイト」を公開した。展覧会概要、ADメッセージ、「ソース」、「エピソード」、作家紹介、オンラインイベント情報を掲載、また、来場者が楽しめる特典や地域のアート情報などを紹介するコーナーを設け情報の充実を図るとともに、チケット販売がオンラインによる事前予約となったためユーザビリティの向上をめざした。また、ADや参加作家らが、オンラインによるライブ配信や動画作品を公開する場としても機能した。

展覧会概要とチケット・アクセスページは、自動翻訳システムにより7言語に対応。

セッション総数（訪問者総数）は932,887、ページビュー数（総閲覧数）は2,145,922を数えた（期間：2019年11月8日～2020年10月11日）。



特設WEBサイトトップページ画面

SNS

Twitter

会期前から最新情報について投稿。メディアの即時性を活かし、会期中は、チケットの販売状況や開場情報を毎日投稿した。参加作家によるライブ配信や動画作品の公開、オンラインイベントの周知、来場者特典の紹介など、アートファンであるフォロワーが、より展覧会に親しめる情報を積極的に発信した。

Facebook

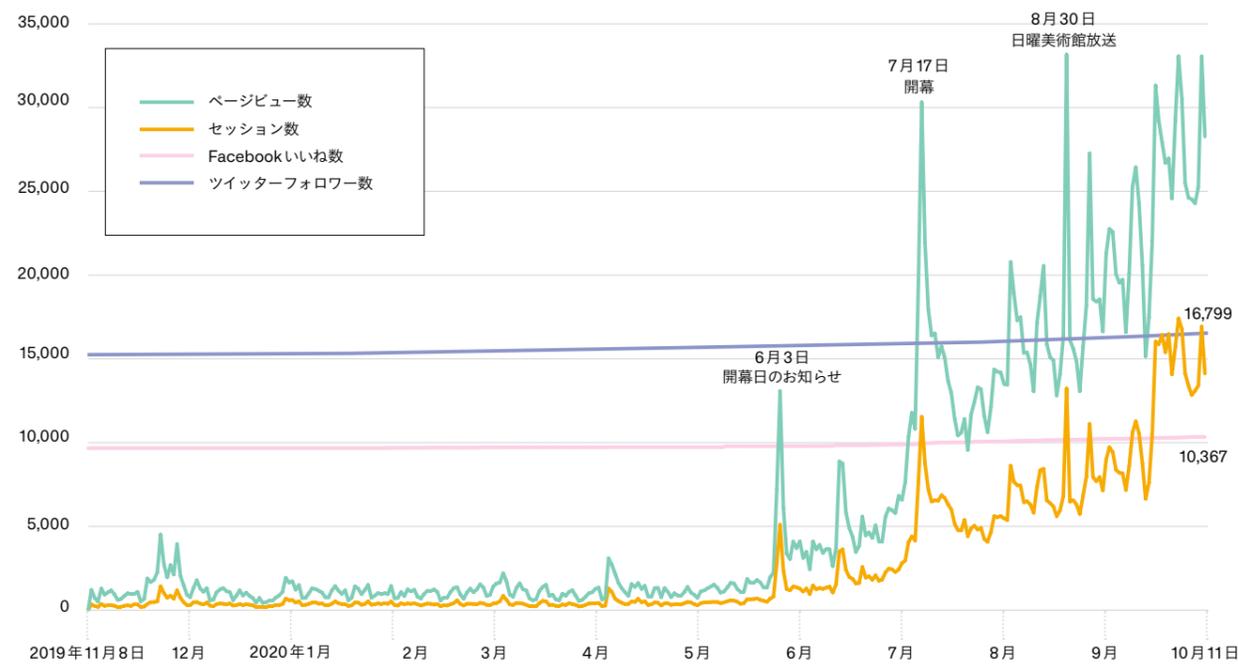
Twitterとともに展覧会情報やイベントのお知らせなどを詳細に掲載した。また、エピソード02ではイベントページを作成しイベント告知や参加者への連絡に活用した。

インスタグラム

参加作家の展示作品写真とキャプションを、9月会期半ばから閉幕まで毎日投稿し、展覧会の雰囲気や作品の魅力を発信した。海外の参加作家からのシェアもあり、国内外に広く拡散された。

メールニュース

プレスリリースや特設WEBサイトに掲載する「NEWS」情報をタイムリーに、日英2か国語で配信した。（日本語計40回/英語計11回）



プロモーション

会場周辺および交通広告

開催の周知と誘引を目的に、会場周辺のみならずみらい地区を中心に広告展開を行った。

掲出場所	掲出物の種類
グランモール公園	フラッグ (大小2種)
横浜美術館前	看板
横浜駅	サインボード
みなとみらい駅	サインボード/デジタルサイネージ
みなとみらい線各駅	デジタルサイネージ (ホームドア)
みなとみらい線車両	ラッピング電車
横浜市営地下鉄全車両	デジタルサイネージ
横浜市 新市庁舎	デジタルサイネージ



横浜駅サインボード

広告出稿

SNSメディアを活用し、ターゲットに直接アプローチをするデジタルプロモーションを展開した。また、海外広報においても、海外の現代アート層向けのWEBサイトやメールニュース配信サービスなど、積極的にデジタル媒体を活用した。

	媒体	出稿回数
SNS	Twitter	8
	Facebook	9
	インスタグラム	14
	リスティング広告	6
国内	雑誌媒体 (カルチャー系)	1
海外	海外の現代アート層向けWEBサイトへの情報掲載、メールニュース配信	6



グランモール公園フラッグ



みなとみらい駅サインボード



横浜美術館正面看板



横浜市営地下鉄デジタルサイネージ



みなとみらい線ラッピング電車



インスタグラム広告

イベント ヨコハマアートラリー「アートと笑いの境界線」

アートファン以外にもアートを身近に感じてもらう機会を提供し、新たなアートファン醸成を目的に、お笑いとお笑いの領域で活躍するプレイヤーによるイベントを実施した。

日時：2019年2月2日（土） [1部] 12:30～14:00 [2部] 15:00～16:00 [3部] 17:00～18:00

参加人数：[1部] 385名 [2部] 320名 [3部] 282名

会場：横浜市開港記念会館（横浜市中区本町1-6）

出演：しりあがり寿、会田誠、ジャルジャル（後藤淳平・福徳秀介）、千原徹也、倉本美津留、AKI INOMATA、青田真也、LEEKANKYO、田中偉一郎

企画：倉本美津留、本多アスタ

協力：横浜トリエンナーレサポーター事務局



当日の様子



会田誠



しりあがり寿

みなとみらい21中央地区37街区の仮囲いデザイン

広く開催の周知と誘引を目指すとともに、来場者の会場間移動の目印となるよう横浜美術館西口からプロット48を結ぶ道沿いの仮囲いにイメージビジュアルを展開した。（詳細はP.46参照）

ヨコトリ2020オリジナル日傘

「ヨコトリ2020オリジナル日傘」は会場間の無料貸出（詳細はP.46参照）だけでなく、開催の周知を目的に、シェアリングサービスの傘として東京駅周辺や上野エリアを中心に200本展開した。



仮囲いデザイン



仮囲いデザイン



オリジナル日傘 撮影：加藤 甫（3点とも）

10. 来場者データ

総来場者数 153,528人

	横浜美術館	プロット48	日本郵船歴史博物館	合計
展覧会鑑賞者数	73,782	44,269	10,251	128,302
関連プログラム等参加者数				25,226
合計				153,528

※展覧会鑑賞者数のうち中学生以下：8,619人、障害者とその介護者：5,244人、外国人：1,198人

※関連プログラム等は無料ゾーンへの入場者数とワークショップ等のプログラム参加者数の合計

一日平均来場者数（人/日）

	横浜美術館	プロット48	日本郵船歴史博物館	合計
平日平均	660	402	72	1,133
休日平均※	1,336	794	213	2,343
一日平均	946	568	131	1,645

※8月13日（木）、8月14日（金）は休日として計上

最多来場者数記録日

10月11日（日） 夜間開館日 天気：曇り

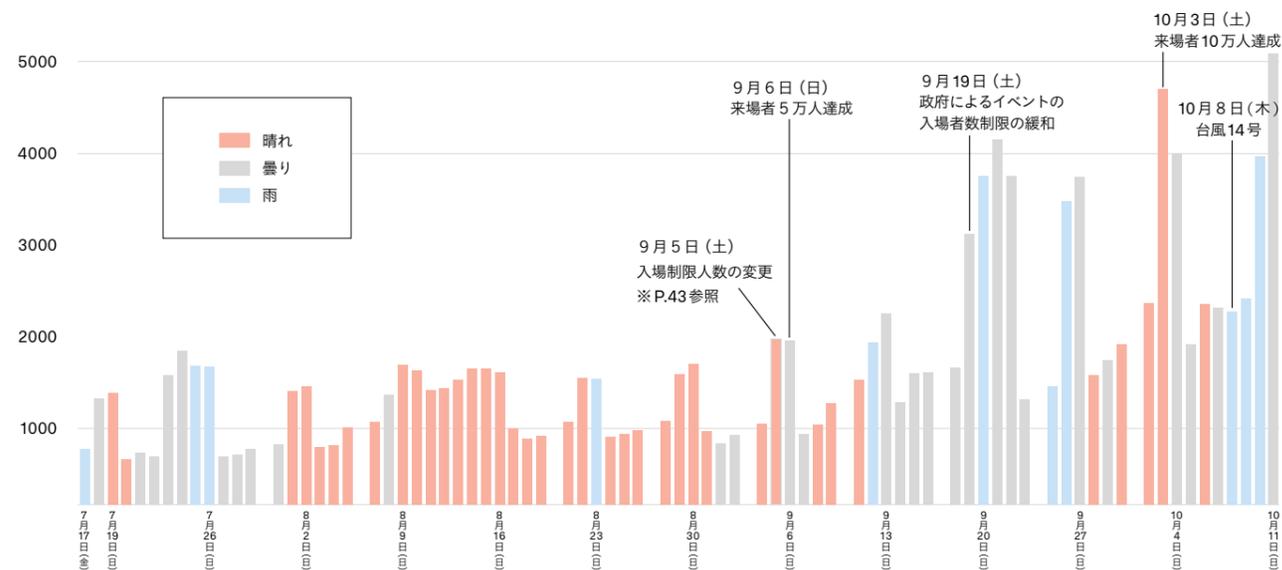
	横浜美術館	プロット48	日本郵船歴史博物館	合計
来場者数	2,983	1,875	563	5,421

最少来場者数記録日（3会場の開場日に限定）

7月28日（火） 天気：曇り時々雨

	横浜美術館	プロット48	日本郵船歴史博物館	合計
来場者数	274	193	58	525

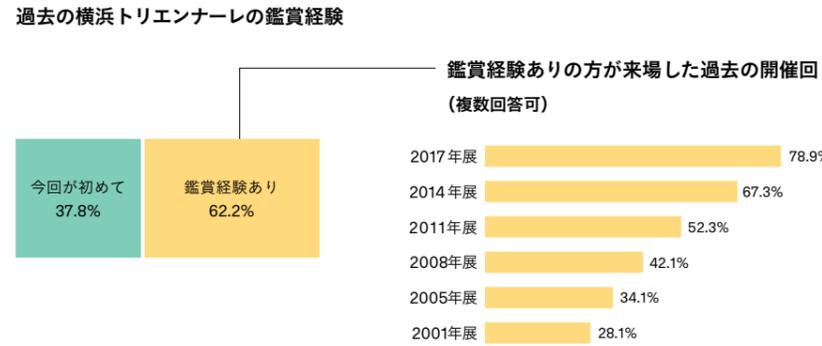
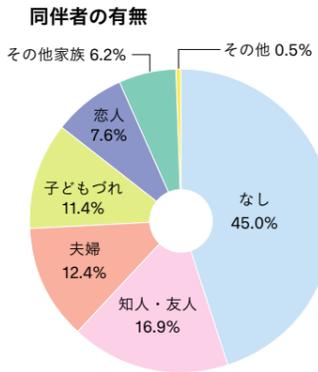
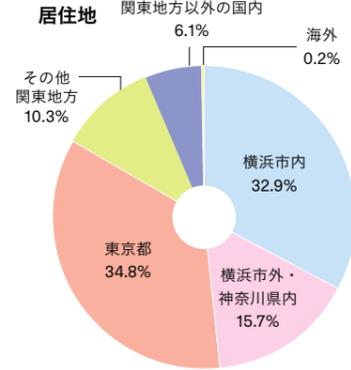
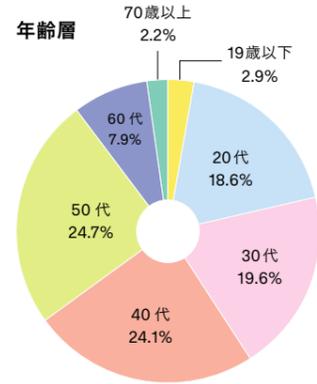
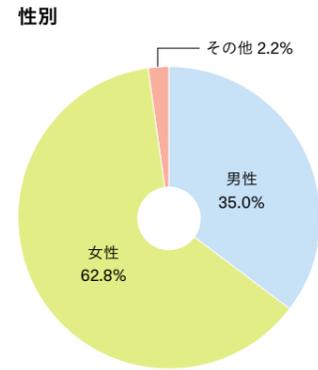
展覧会鑑賞者の推移



来場者アンケート

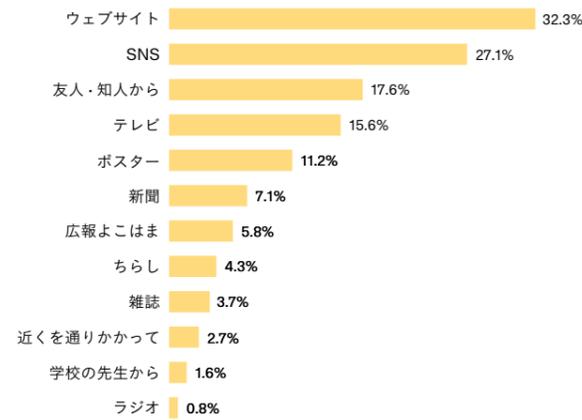
調査期間：7月17日（金）～10月31日（土） 調査方法：WEB アンケート 有効回答数：2,161件

来場者の属性

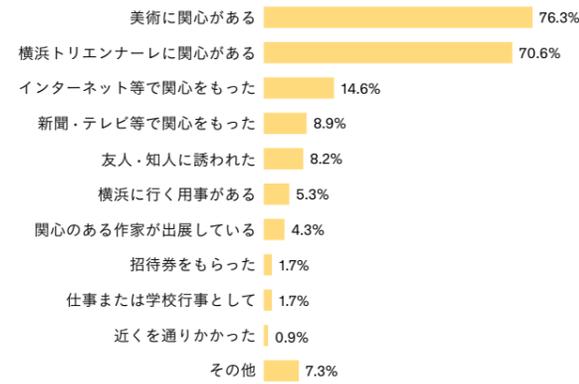


ヨコハマトリエンナーレ 2020 について

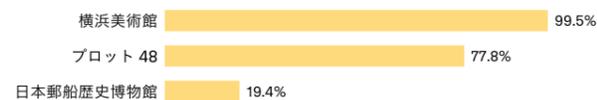
1. 知ったきっかけは何ですか？（複数回答可）



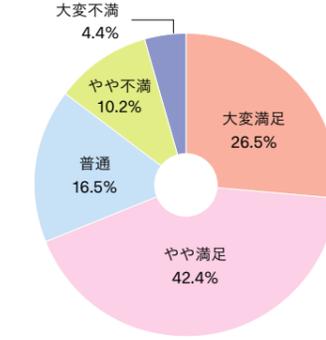
2. 来場した理由は何ですか？（複数回答可）



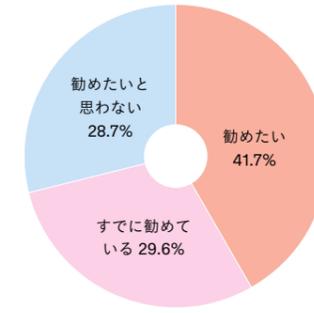
3. 本日来場した会場をすべてお選びください。



4. 展覧会の満足度はいかがでしたか？



5. ご家族やご友人に勧めたいと思いますか？



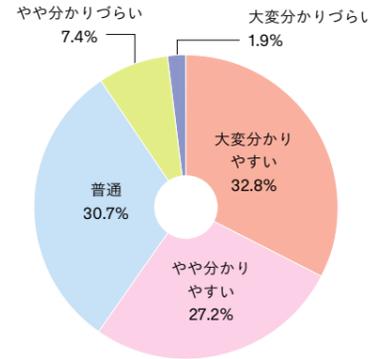
勧めたい・すでに勧めたい理由（一部抜粋）

- ・この時勢に開催されたことは大変意義深く、多くの方にとって良い経験を与えるものと考えたため。
- ・美術表現がとても先鋭的で考えさせられることが多いため。
- ・あまりアートに明るくない人にも、みなとみらい全体のイベント感と合わせてカジュアルに楽しんでもらえるため。

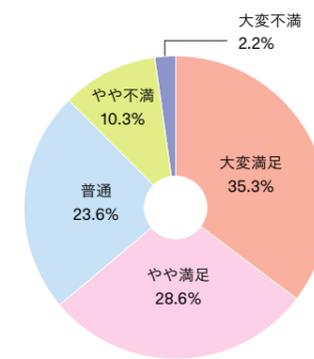
勧めたいと思わない理由（一部抜粋）

- ・コロナ禍なので勧めづらい。
- ・美術に関心が薄い人でも楽しめる作品が少ないため、家族や友人には勧めにくい。
- ・性的内容の作品が複数あるので家族には勧めにくい。

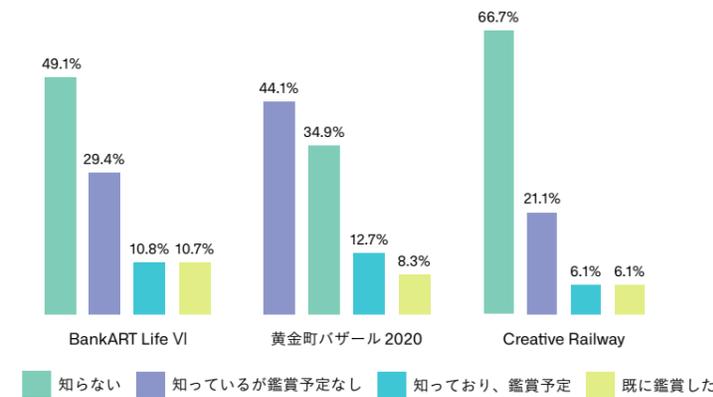
6. 日時指定の予約制チケットの購入案内はいかがでしたか？



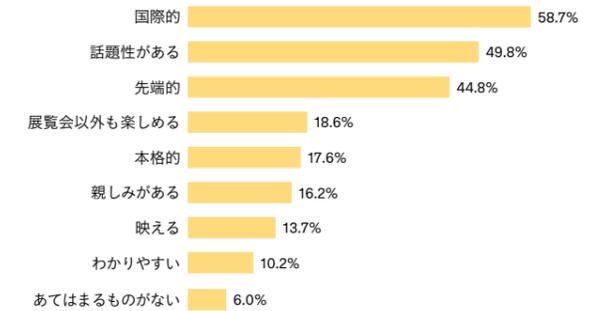
7. 予約制による入場はいかがでしたか？



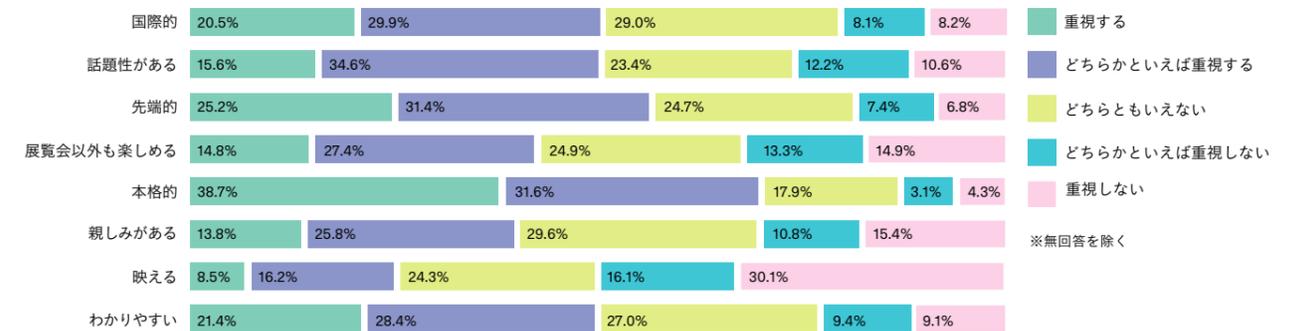
8. 会期中に開催されている次のアートイベントについてお答えください。



9. 横浜トリエンナーレにどのようなイメージをお持ちですか？（複数回答可）



10. 以下の項目をどれくらい重視しますか？



11. 経済波及効果とパブリシティ効果

経済波及効果

経済波及効果は、推計時点で最新の平成23年横浜市産業連関表を用いて算出した。また、来場者消費支出は来場者アンケート、主催者調達は開催準備と運営にかかわる経費支出をもとにしている。来場者消費支出及び主催者調達を合計した、横浜市の経済波及効果は約23億円となった。

項目	金額
経済波及効果（生産誘発額）計	2,314
第一次波及効果	2,030
第二次波及効果	284
雇用誘発数	187（人）

【内訳】

項目	金額
経済波及効果（生産誘発額）計	1,581
第一次波及効果	1,395
第二次波及効果	186
雇用誘発数	142（人）

項目	金額
経済波及効果（生産誘発額）計	733
第一次波及効果	635
第二次波及効果	98
雇用誘発数	45（人）

【参考】来場者消費金額（市内）

	日帰り	市内宿泊	市外宿泊
一人当たり消費金額	8,730	33,273	12,270

パブリシティ効果

ヨコハマトリエンナーレ2020について、2018年11月から2021年1月までに露出した各メディア媒体の広告換算額は、国内・海外合わせて約50.9億円（税込）となった。

国内媒体

(単位：百万円)

媒体種類	換算額
テレビ	3,612
キー局	3,552
地方局	26
CATV	34
ラジオ	94
新聞	635
全国紙	345
全国紙 (地方版)	151
地方紙	129
その他新聞	10
雑誌・書籍	54
フリーペーパー	7
WEB	651
計	5,053

海外媒体

(単位：百万円)

媒体種類	換算額
新聞	3
雑誌・書籍	17
WEB	22
計	42

※小数点以下を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合がある。

12. 収支報告

ヨコハマトリエンナーレ 2020 開催費収支

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2020年展決算
横浜市負担金	63,767,067	149,065,401	396,097,041	608,929,509
文化庁補助金	0	0	180,000,000	180,000,000
協賛金・助成金	0	359,281	46,447,062	46,806,343
入場料収入	0	0	122,703,700	122,703,700
カタログ等販売収入	63,600	66,051	156,309	285,960
イベント等チケット収入	1,098,500	90,000	0	1,188,500
雑収入	871,815	2,997,290	228,591	4,097,696
計	65,800,982	152,578,023	745,632,703	964,011,708

支出の部

(単位：円)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2020年展決算
展示制作費	2,671,479	14,122,005	236,969,895	253,763,379
会場設営費	0	30,000,000	69,867,171	99,867,171
会場運営費	0	24,642,135	231,145,157	255,787,292
広報費	4,143,885	12,536,286	55,486,962	72,167,133
地域連携関連費	0	2,000,000	0	2,000,000
カタログ等経費	245,586	106,718	17,420,745	17,773,049
関連行事費	0	0	3,266,803	3,266,803
入場券経費	0	0	18,754,780	18,754,780
専門家族旅費	1,785,777	6,551,467	0	8,337,244
業務委託費	16,307,651	28,749,379	48,660,063	93,717,093
市民協働関連費	8,000,000	3,043,379	698,732	11,742,111
事務局費	32,646,604	30,826,654	63,362,395	126,835,653
計	65,800,982	152,578,023	745,632,703	964,011,708

横浜トリエンナーレ組織委員会運営費収支

項目	2018年度	2019年度	2020年度	3年計
横浜市負担金	1,232,933	4,934,599	19,042,959	25,210,491
繰越金 (商品及び貯蔵品を含む)	49,672,655	41,767,777	39,895,166	49,672,655 ※初年度のみ計上
計	50,905,588	46,702,376	58,938,125	74,883,146

支出の部

(単位：円)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	3年計
事務局費	委員会運営費	7,563,272	5,348,510	8,027,097
	事務所使用料	1,574,539	1,458,700	1,736,837
繰越金 (商品及び貯蔵品を含む)	41,767,777	39,895,166	49,174,191	49,174,191 ※最終年度のみ計上
計	50,905,588	46,702,376	58,938,125	74,883,146

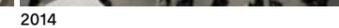
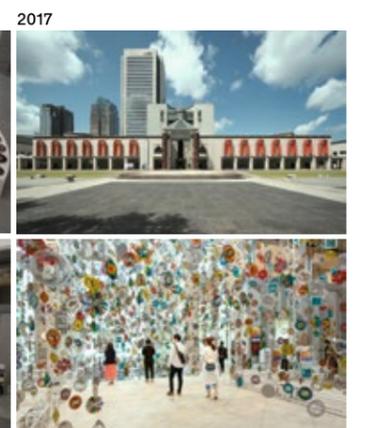
第1回 - 第7回 横浜トリエンナーレー覧

※1 参加作家数の単位や数え方は、企画意図により毎回異なる
 ※2 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回、第7回については、有料会場の延べ入場者数
 ※3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開幕を2週間遅らせて開催

	第1回 2001年	第2回 2005年	第3回 2008年	第4回 2011年	第5回 2014年	第6回 2017年	第7回 2020年
会期 (開場日数)	9月2日～11月11日 (67日間)	9月28日～12月18日 (82日間)	9月13日～11月30日 (79日間)	8月6日～11月6日 (83日間)	8月1日～11月3日 (89日間)	8月4日～11月5日 (88日間)	7月17日～10月11日 (78日間) ^{※3}
主会場 (有料)	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール (C, D) ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下3・頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア	[3会場] ・横浜美術館 ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・横浜市開港記念会館 地下	・横浜美術館 ・プロット48 【展示協力: 日本郵船歴史博物館】
テーマ	メガ・ウェイブ -新たな総合に向けて-	アートサーカス 【日常からの跳躍】	TIME CREVASSE -タイムクレヴァス-	OUR MAGIC HOUR -世界はどこまで知ることができるか? -	華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある	島と星座とガラパゴス	AFTERGLOW—光の破片をつかまえる
ディレクター / キュレーター	アーティストック・ディレクター: 河本信治 建畠哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター: 水沢勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ペアトリクス・ルフ	総合ディレクター: 逢坂恵理子 アーティストック・ディレクター: 三木あき子	アーティストック・ディレクター: 森村泰昌 [アソシエイト] 天野太郎 大館奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林 寿美	コ・ディレクター: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄	アーティストック・ディレクター: ラクス・メディア・コレクティブ (ジーベシュ・バグチ、モニカ・ナルラ、 シュッダブラタ・セーングプタ)
作家数 ^{※1}	109 作家	86 作家	70 作家	77 組 (79 作家、1 コレクション)	65 組 (79 作家)	38 組、1 プロジェクト	69 組
作品数	113 件	84 件	66 件	337 件	444 件	344 件	269 件 5 プロジェクト
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約10億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人	約15万人 *感染防止のため入場制限を実施
外国人来場者数	記録なし	記録なし	記録なし	約3,000人	4,501人	7,059人	1,198人
中学生以下来場者数	記録なし	記録なし	記録なし	24,205人	26,381人	26,988人	8,619人
有料会場来場者数 ^{※2}	約35万人 *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *未就学児無料	約16万人 *チケットは1日に限り有効 *フリーパスあり *中学生以下無料	約31万人 *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *中学生以下無料	約30万人 *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約21万人 *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約25万人 *チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約13万人 *チケットは1日に限り有効 *中学生以下無料
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚	約6万枚 *感染防止のため入場制限を実施
メディア露出件数	237社以上 (うち海外36社以上) ※掲載件数は記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)	4,238件 (うち海外257件)
ボランティア登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人	1,671人

沿革

- 1997 外務省が国際美術展の定期開催方針を発表
- 1999 横浜トリエンナーレ組織委員会 (国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社) 設立
- 2001 横浜トリエンナーレ2001「メガ・ウェイブ—新たな総合に向けて」開催
- 2004 横浜市が創造都市施策を策定。横浜トリエンナーレをリーディング・プロジェクトに位置づける
- 2005 横浜トリエンナーレ2005「アートサーカス [日常からの跳躍]」開催
- 2008 横浜トリエンナーレ2008「TIME CREVASSE—タイムクレヴァス—」開催
- 2010 横浜トリエンナーレ組織委員会の構成が横浜市、NHK、朝日新聞社の3者となる
- 2011 文化庁の「国際芸術フェスティバル支援事業」となる
ヨコハマトリエンナーレ2011「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」開催
- 2012 横浜トリエンナーレ組織委員会に (公財) 横浜市芸術文化振興財団が加わる
- 2014 ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」開催
- 2017 ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」開催
- 2020 ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」開催



組織体制

歴任者

横浜トリエンナーレ組織委員会

名誉会長
林 文子(横浜市長)〔代表〕
前田晃伸(NHK会長)
渡辺雅隆(朝日新聞社代表取締役社長)

委員

近藤誠一(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団理事長)〔委員長〕
逢坂恵理子(国立新美術館館長)〔副委員長〕
蔵屋美香(横浜美術館館長)〔副委員長〕
梶 健一郎(NHK事業センター長)
澤 和樹(東京藝術大学学長)
神部 浩(横浜市文化観光局長)
高階秀爾(大原美術館館長)
建畠 哲(多摩美術大学学長)
柄 博子(独立行政法人国際交流基金理事)
堀越礼子(朝日新聞社執行役員 企画事業担当兼企画事業本部長)

監事

ベイ・タックス税理士法人

アーティストック・ディレクター (AD) 選考委員会 (特別委員会)

委員 (肩書はAD発表時〔2018年11月〕)
浅田 彰(京都造形芸術大学大学院学術研究センター所長)〔委員長〕
逢坂恵理子(横浜美術館館長・横浜トリエンナーレ組織委員会副委員長)
蔵屋美香(東京国立近代美術館 企画課長)
榎木野衣(美術批評家、多摩美術大学教授)
鷲田清一(哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長)

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

開催本部長　松元公良**
事務局長　五十嵐誠一*
事務局次長　秋山大介(NHK)、梶原 敦**、帆足亜紀*、八巻直史(朝日新聞社)

横浜トリエンナーレ2020

ヨコハマトリエンナーレ2020実施体制

アーティストック・ディレクター
ラクス・メディア・コレクティヴ

プロジェクト・マネージャー　帆足亜紀*
管理運営マネージャー　梶原 敦**
コミュニケーション・マネージャー　西山有子

キュレトリアル・チーム

企画統括／キュレーター　木村絵理子*
キュレーター　林 寿美
アシスタント・キュレーター　日比野民蓉*
リサーチ・アシスタント　カウシャル・アジェイ・サブレイ、今村由幹、塩崎恵里香

展覧会統括／キュレーター　内山淳子*
コーディネーション統括／レジストラー　鈴木祐子
コーディネーター倉茂なつ子(キュレトリアル・展示)、武井麻里子(エピソード)、富安玲子(レジストレーション)、芝田 遥(キュレトリアル・アシスタント)、小林麻衣子、今関友里香

テクニカル・コーディネーター　山元史朗、イトウユウヤ、岡本彰生、田中信至、山田大揮(札幌文化芸術交流センターSCARTS研修生)

アシスタント・プロジェクト・マネージャー　福岡綾子*
プロジェクト・コーディネーター　鈴木慶子
インターン(2019年度)　磯田みのり、今関友里香、富永梨紗子

展覧会

展覧会テキスト
シュヴェタ・サルダ

空間構成
MMA inc. 工藤桃子、野見山桜、秋元寛勝、小林奈都子

デザイン
アリアナ・スパニエ
デザイン補助　峯石景子(ソースブック)、山際 良(広報・プロモーション、展示)、伊藤浩平(展示)

記録撮影

写真　大塚敬太、加藤 健、加藤 甫、上飯坂 一
映像　西野正将(ディレクション)、丸尾隆一、富田了平／原田武明(ディレクション)

翻訳協力

須川善行、大坂直史、中野 勉、平野真弓(英文和訳)、イーデン・コーキル(和文英訳)

展覧会

広報・プロモーション担当
高橋伸佳*、岩田朋子
米津いつか(制作物／記録撮影コーディネーター)

横浜トリエンナーレサポーター事務局
半澤奈波
山野真悟、立石沙織、山野 桂、神田美樹(黄金町エリアマネジメントセンター／2018～2019年度)

運営担当
小山内幸恵*、高林真梨子*、土田香織*

横浜市
赤崎由香、今西めぐみ、岩波 藍、小川 哲、小川宣幸、木村綾夏、高田 聡、津金澤恭之、鶴見天平、平林乙彦、丸山晶子、山田卓広

横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
館長　蔵屋美香
副館長　五十嵐誠一、柏木智雄

学芸グループ
沼田英子、八柳サエ、中村尚明、内山淳子、松永真太郎、木村絵理子、片多祐子、庄司尚子、相原佳奈子、大澤紗蓉子、金井真悠子、坂本恭子、長谷川珠緒、日比野民蓉、大沢知二、熊坂久美、大西絢子、長谷川菜穂、宮谷友美、加藤亜希、加藤 絢、鈴木理枝子、平賀かおる

国際グループ
帆足亜紀(学芸グループ兼務)、福岡綾子、小山内幸恵、高橋伸佳、高林真梨子、土田香織

教育普及グループ
山崎 優、関 淳一、木下貴博、端山聡子、柳川文秀、櫻庭瑠実、大岩久美、太田雅子、北川裕介、古藤 陽、佐藤琢巳、森 未祈、石塚美和、中野葉月、六島芳朗、齊藤佳代

経営管理グループ
檜崎和雄、吉川由紀子、水谷英智、藤井聡子、足立陽子、襟川文恵、迫田利則、梅澤のと佳、奥津絵里、川邊 萌、小屋有紀子、坂口周平、田邊昌子、普川由貴子、山本紀子、一色あずさ、永田麻子、長濱佐和子、山内亮子、今野真紀、小杉比呂子、石井裕子、齋藤佳菜子、森田倫代、宮川いずみ、土肥季絵、村松和彦(株式会社横浜アーティスト)

NHK・NHK横浜放送局
吉池絢子、前田喜博、西岡 愛

朝日新聞社
竹部翔馬

[[]*横浜美術館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）所属

[[]**横浜市所属

クレジット

制作
P21-39
撮影：大塚敬太、加藤 健（*の図版のみ）

協力
P. 21
ニック・ケイヴ | Courtesy of the artist and Jack Shainman Gallery

P. 22
ジェイムス・ナスミス | 角田玉青氏「天文古玩」コレクション
竹村 京 | 制作協力：群馬県蚕糸センター、群馬県農政部蚕糸園芸課 / 協力：京都美商株式会社
レボハング・ハンイエ | Courtesy of AFRONOVA GALLERY

P. 23
ロバート・アンドリュース | Courtesy of the artist and Milani Gallery, Brisbane
マックス・デ・エステバン | 所蔵：ガルシア現代美術センター（CGAC）/Courtesy of the artist and CGAC Collection, Santiago de Compostela
レイヤン・タベット | Courtesy of Sfeir-Semler Gallery Beirut/Hamburg

P. 24
キム・ユンチョル | Developed as part of the Collide International Award, a partnership program between Arts at CERN and FACT, and was co-produced by ScANNER.

P. 25
ニルバー・ギュレン | 所蔵：Galerist, Istanbul /Courtesy of the artist and Galerist, Istanbul
エリアス・シメ | Courtesy of the artist and James Cohan, New York

P. 28
ツェリン・シェルバ | Courtesy of the artist and Rossi & Rossi
オスカー・サンティラン | 所蔵：フォーメックス財団、LLANO
佐藤雅晴 | 所蔵：井原信次氏、川上智子氏、Artlabo 北舟、小島祐毅氏、野田靖氏、吉岡恵美子氏、西治コレクション、KEN NAKAHASHI /©Estate of Masaharu Sato /Courtesy of KEN NAKAHASHI

P. 30
ジャン・シュウ・ジャン（張徐 展） | 所蔵：Project Fulfill Art Space /Courtesy of the artist and Project Fulfill Art Space

P. 32
アモル・K・パティル | 所蔵：Vibha Galhotra、Rahul Aggarwal

P. 34
エレナ・ノックス |（上：左）©梶谷 修（上：右）©Dee Lee (NNNI)（下左）©NNNI（下右）©Marina Komiya

P. 35
アントン・ヴィドクル | Courtesy of the artist, Asakusa and Vitamin Creative Space

P. 37
コラクリット・アルナーノンチャイ | Courtesy of the artist, Bangkok City City Gallery, C L E A R I N G New York/Brussels, Carlos/Ishikawa

ヨコハマトリエンナーレ 2020
「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」
記録集

発行
2021年6月

監修
横浜トリエンナーレ組織委員会

編集
網野奈央 (torch press)
武井麻里子

デザイン
本文 島影南美
表紙 アリアナ・スバニエ

印刷
吾妻印刷株式会社

発行
横浜トリエンナーレ組織委員会
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 30階
www.yokohamatriennale.jp
©2021 Organizing Committee for Yokohama Triennale

無断転写、転載、複写は禁じます。
All rights reserved. Printed in Japan

